岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 64

桑瀬遺跡ほか
土佐貝塚ほか
美土路遺跡ほか

昭和61年度圃場整備事業に
伴う確認調査

1987年3月

岡山県教育委員会

序

本報告書には、圃場整備事業実施計画に伴う桑瀬遺跡ほか（湯原町）、土佐貝塚ほか（邑久町）、美土路遺跡ほか（大原町）、の確認調査結果を収載すました。

これらの確認調査は、いずれも圃場整備事業の実施に先だって埋蔵文化財の保護、保存の資料を得て、圃場整備事業との調整を図るため、昭和61年度国庫補助事業として行われたものであります。

調査の結果、桑瀬遺跡ほかでは、縄文時代早期の少量の土器片の出土のみで、遺構、包含層は確認されませんでしたが、美土路遺跡ほかでは、鎌倉時代前半期の荘園との関連も想定される遺構、包含層約5,300㎡を、土佐貝塚ほかでは、弥生時代前期から中世（室町時代）の各種遺構を確認することができました。

これらの成果を収めた本報告書が、文化財の保護、保存のために活用され、また、地域の歴史を研究する資料として役立てていただければ幸いと存じます。

最後に、発掘調査ならびに報告書の作成にあたって、岡山県文化財保護審議委員をはじめ、関係の町部局・町教育委員会および同文化財保護審議委員並に土地所有者等関係各位から賜りました多大な御指導と御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

昭和62年３月

岡山県教育委員会

教育長　宮　地　暢　夫

桑瀬遺跡（くわぜ）ほか

例　　言

1. 本書は、真庭郡湯原町種における土地改良総合整備事業（三野瀬地区）に伴い、昭和61年度国庫補助を受けて実施した「桑瀬遺跡ほか」の発掘調査報告書である。

2. 遺跡は真庭郡湯原町種に所在する。

3. 発掘調査は岡山県古代吉備文化財センター職員平井泰男が担当し、専門委員の指導、助言のもとに、昭和61年7月7日から7月25日、および昭和61年10月13日から12月5日まで実施した。

4. 本書の執筆・編集は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325−3）において、昭和61年12月から昭和62年2月に平井が行った。

5. 出土遺物・実測図、写真等は岡山県古代吉備文化財センターにおいて保管している。

6. 本書に使用したレベルの数値は海抜高である。方位は、すべて真北である。

7. 本書第2図に使用した地形図は建設省国土地理院発行の25,000分の1地形図（湯原湖）を複製したものである。

目　　次

序
例　言
目　次
第１章　地理的・歴史的環境 …… 7
第２章　調査の経緯 …… 10
　第１節　調査に至る経緯 …… 10
　第２節　調査体制および日誌抄 …… 10
第３章　発掘調査の概要 …… 14
　第１節　桑瀬遺跡 …… 14
　第２節　Ａ散布地 …… 29
　第３節　Ｂ散布地 …… 33
　第４節　Ｃ散布地 …… 35
第４章　まとめ …… 40

図　目　次

第１図　遺跡位置図（黒丸印）…… 7
第２図　「桑瀬遺跡ほか」周辺遺跡分布図（１／25,000）…… 8
第３図　土地改良総合整備事業（三野瀬地区）予定範囲図（１／25,000）……12
第４図　「桑瀬遺跡ほか」周辺地形図（１／15,000）……13
第５図　桑瀬遺跡トレンチ設定図（１／3,000）……15
第６図　桑瀬遺跡トレンチ１、２、３、４東壁断面図（１／60）……16
第７図　桑瀬遺跡トレンチ５、６、７、８東壁断面図（１／60）……18
第８図　桑瀬遺跡トレンチ９、10、11、12東壁断面図（１／60）……20
第９図　桑瀬遺跡トレンチ13、14、15、16東壁断面図（１／60）……21
第10図　桑瀬遺跡トレンチ17、18、19、20、21東壁断面図（１／60）…23
第11図　桑瀬遺跡トレンチ22、23、24、25、26東壁断面図（１／60）…24
第12図　桑瀬遺跡トレンチ27、28、29、30東壁断面図（１／60）……26
第13図　桑瀬遺跡トレンチ31、32、33、34東壁断面図（１／60）……27
第14図　Ａ散布地、Ｂ散布地トレンチ設定図（１／4,000）……30
第15図　Ａ散布地トレンチ１東壁断面図、トレンチ２、３北壁断面図（１／60）……31
第16図　Ａ散布地トレンチ４、５西壁断面図（１／60）……32
第17図　Ｂ散布地トレンチ１東壁断面図、トレンチ２、３西壁断面図（１／60）……34
第18図　Ｃ散布地トレンチ設定図（１／2,000）……36
第19図　Ｃ散布地トレンチ１、３北壁断面図、トレンチ２西壁断面図、トレンチ４東壁断面図（１／60）……37

第20図　C散布地トレンチ5西壁断面図、トレンチ6南壁断面図（1／60）……38
第21図　トレンチ出土遺物実測図（1／3）……39

図　版　目　次

図版1－1．桑瀬遺跡遠景（西から）
2．桑瀬遺跡遠景（東から）
図版2－1．A散布地遠景（トレンチ1～3の周辺）（北から）
2．A散布地遠景（トレンチ4、5の周辺）（北から）
図版3－1．B散布地遠景（北から）
2．C散布地遠景（西から）
図版4－1．桑瀬遺跡T－1（北西から）
2．桑瀬遺跡T－2（北西から）
3．桑瀬遺跡T－3（北西から）
4．桑瀬遺跡T－4（南西から）
5．桑瀬遺跡T－5（南西から）
6．桑瀬遺跡T－6（北西から）
7．桑瀬遺跡T－7（北西から）
8．桑瀬遺跡T－8（南西から）
図版5－1．桑瀬遺跡T－9（北西から）
2．桑瀬遺跡T－10（北西から）
3．桑瀬遺跡T－11（南西から）
4．桑瀬遺跡T－12（北西から）
5．桑瀬遺跡T－13（南西から）
6．桑瀬遺跡T－14（北西から）
7．桑瀬遺跡T－15（北西から）
8．桑瀬遺跡T－16（南西から）
図版6－1．桑瀬遺跡T－17（北西から）
2．桑瀬遺跡T－18（南西から）
3．桑瀬遺跡T－19（北西から）
4．桑瀬遺跡T－20（北西から）
5．桑瀬遺跡T－21（南西から）
6．桑瀬遺跡T－22（南西から）
7．桑瀬遺跡T－23（北西から）
8．桑瀬遺跡T－24（北西から）
図版7－1．桑瀬遺跡T－25（北西から）
2．桑瀬遺跡T－26（北西から）
3．桑瀬遺跡T－27（南西から）
4．桑瀬遺跡T－28（北西から）
5．桑瀬遺跡T－29（北西から）
6．桑瀬遺跡T－30（北西から）
7．桑瀬遺跡T－31（北西から）
8．桑瀬遺跡T－32（北西から）
図版8－1．桑瀬遺跡T－33（北西から）
2．桑瀬遺跡T－34（南西から）
3．A散布地T－1（南西から）
4．A散布地T－2（南西から）
5．A散布地T－3（南西から）
6．A散布地T－4（南西から）
7．A散布地T－5（北東から）
8．B散布地T－1（北西から）
図版9－1．B散布地T－2（西から）
2．B散布地T－3（南東から）
3．C散布地T－1（南東から）
4．C散布地T－2（南東から）
5．C散布地T－3（南東から）
6．C散布地T－4（南東から）
7．C散布地T－5（南東から）
8．C散布地T－6（北西から）
図版10－1．B散布地トレンチ3発掘風景（南東から）
2．C散布地トレンチ1、2発掘風景（南西から）
図版11．トレンチ出土遺物（1）
図版12．トレンチ出土遺物（2）

表　目　次

表－1　トレンチ出土遺物観察表 …… 28

第1章　地理的・歴史的環境

「桑瀬遺跡ほか」は真庭郡湯原町種に所在する。

遺跡の所在する真庭郡湯原町は、岡山県の北部、旧美作国の北西部に位置し、北部は川上村、八束村、南部は勝山町、久世町、東部は中和村、苫田郡富村、西部は新庄村、美甘村と接している。面積は約142㎢を有する。

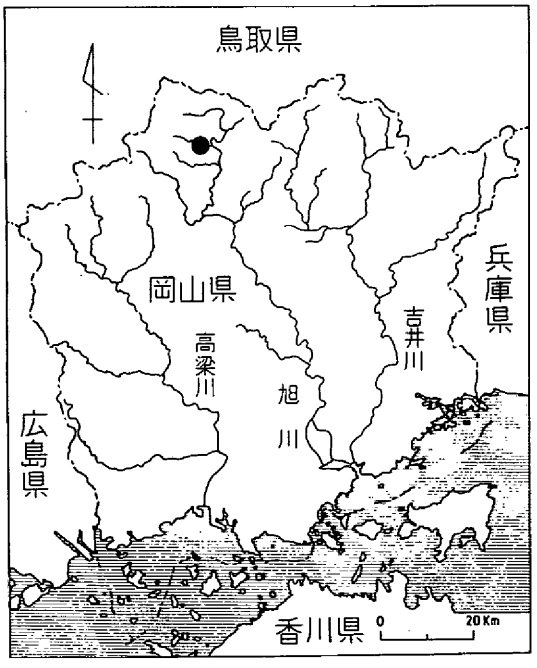
湯原町は中国山地の南部に位置し、900～1000ｍ級の山塊に囲まれた盆地状を呈するが、600～700ｍ級の山地が多く平野部は少ない。町の面積の約85％を山林が占めている。

数少ない平野部は、町の東部をほぼ南北に流れる旭川やその支流である粟谷川、鉄山川、社川などが形成した河岸段丘、氾濫原、谷底平野などであり、いずれも小面積のものである。また、町の北部には昭和30年に完成した「湯原ダム」によって生まれた湯原湖がひろがっている。

「桑瀬遺跡ほか」は、現在の湯原湖の南西部に位置する丘陵裾部に所在し、現状は水田、畑、牧草地になっている。標高は400～500ｍを測る。

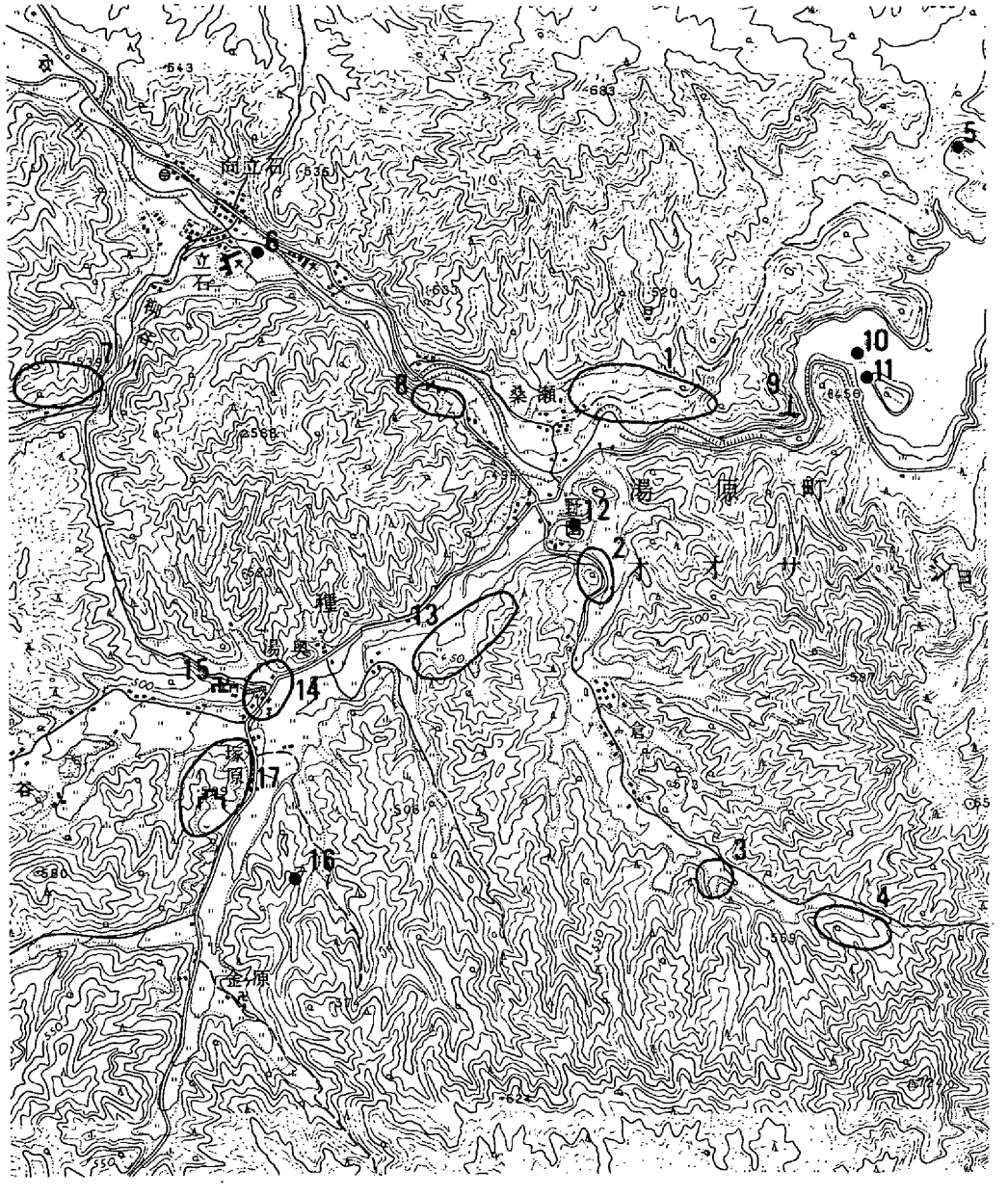
湯原町内における遺跡は現在約70か所が知られている（註１）。

これらのなかで最も古い遺跡としては、縄文時代早期の土器が出土している大杉遺跡（湯原町粟谷大杉）が知られている（註２）。そのほか『二川村史』によれば湯原町種大谷において黒曜石製の石鏃が発見されており、縄文時代の遺跡の存在が予想される（註３）。また湯原町の北部に位置する蒜山原では旧石器や縄文土器が近年数多く採集されており、今後町内においても発見される可能性は十分に考えられよう。



第１図　遺跡位置図（黒丸印）

弥生時代および古墳時代の集落跡と考えられるものとしては約20か所が知られている。これらの多くは弥生土器や土師器が少量出土しているもので、内容についてはほとんど明らかでないが、土居遺跡（湯原町禾津土居）においては、弥生土器や須恵器のほかに林道の断面に竪穴住居跡が確認されてい（註４）。そのほか『湯原町史』によれば、数か所において磨製石庖丁、太形



1．桑瀬遺跡
2．C散布地
3．B散布地(製鉄)
4．A散布地(製鉄)
5．屺の古墳
6．散布地(製鉄)
7．散布地(製鉄)
8．男瀧遺跡
9．女瀧の不動(霧立不動)
10．飯塚山古墳
11．田和の火の窯古墳
12．古墳(？)
13．散布地
14．散布地
15．宝積廃寺跡
16．とうがふろ古墳(？)
(塚原古墳)
17．塚原城跡

第2図　「桑瀬遺跡ほか」周辺遺跡分布図($\frac{1}{25,000}$)

蛤刃石斧、石槍、石錘などの出土が知られている（註５）。こうした集落跡の分布をみると、基本的には、旭川やその支流である粟谷川、鉄山川、社川などが形成した平野部やその周辺の丘陵部上に存在していることが看取できる。その中でも主要な地域としては、旭川流域の禾津・久見地域、鉄山川流域の見明戸地域・本庄地域、粟谷川流域の黒杭地域、 社川流域の社地域が考えられる。このような分布状況は古墳の分布についても同様である。

現在、古墳群として把えられるものとしては禾津・久見地域の久見古墳群、見明戸地域の独活原古墳群、社地域の社古墳群があり、古墳は約20～30基が知られている。これらの多くは横穴式石室をもつ円墳である。詳細な内容について明らかなものはないが、「塔壇寺古墳」からは須恵器、金環、鉄剣、曲玉（めのう）、切子玉（水晶）などが出土しているという（註６）。また、見明戸字福井に所在する福井古墳からは切妻陶棺の出土が知られている（註７）。

古墳時代以降の遺跡については、土器などの散布地が数か所で知られている他、経塚（古久見経塚）や宝篋印塔、五輪塔などの存在も確認されている。また、中世山城である湯山城、飯山城、田井城も存在する。

中国山地は古くから製鉄の盛んな地域として著名である。町内においても特に北部を中心に鉄滓の散布地が多く知られている。今回調査を実施した種の遺跡や田羽根遺跡、杉成製鉄遺跡などがそのおもなものである。

註

（註１）湯原町内の遺跡については昭和52年に分布調査が実施されており、その成果は岡山県教育委員会により『岡山県遺跡地図第五分冊』に掲載されているが十分なものとはいえないようである。以下の記述においては、『岡山県遺跡地図』を中心に、『二川村史』、『湯原町史前編』なども参考にしている。

（註２）『津山市史第一巻原始・古代』　津山市役所　1972年３月　P23

（註３）『二川村史』　二川村史刊行会　1965年１月　Ｐ１

（註４）昭和52年の分布調査カードに記載がある。

（註５）『湯原町史前編』　湯原町　1953年７月　Ｐ２・３の写真

（註６）『湯原町史前編』　同前　Ｐ５・６

（註７）御船恭平「通信欄、勝山」　『吉備考古』第21号　古備考古会　1934年５月

第2章　調査の経緯

第1節　調査に至る経緯

真庭郡湯原町種一帯において土地改良総合整備事業（三野瀬地区）が計画されたのに伴い、昭和61年5月9日付けで湯原町長より文化財保護法第57条の3にもとづく協議文書が岡山県教育委員会に提出された。内容は、土地改良総合整備事業（三野瀬地区）予定地内において周知されている桑瀬遺跡ほか3遺跡の取扱いについてである。関係者による協議の結果、これらの遺跡については、(1)工事着手前に確認調査を実施する、(2)調査の結果、重要な遺構等が発見された場合はその保存等について別途協議することとなった。この協議結果にもとづき、岡山県教育委員会は、工事施行前に遺跡の規模、状況等を明らかにし、遺跡の保護・保存を講ずるための基礎資料を得るため、昭和61年度国庫補助による発掘調査を実施することになった。尚、発掘調査にあたって、桑瀬遺跡以外の3遺跡（散布地）についてはA散布地、B散布地、C散布地と呼ぶことにした。

発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが実施した。発掘調査期間は、A、B散布地については昭和61年8月から工事に着手する計画があったため、昭和61年7月7日から25日まで、桑瀬遺跡とC散布地については昭和61年10月13日から12月5日までである。

調査にあたっては専門委員の指導・助言を得た。また、湯原町役場、湯原町教育委員会をはじめ地権者等関係各位からは貴重な御協力を得た。さらに、発掘作業に従事していただいた地元有志の方々にも多大な御協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。

第2節　調査体制および日誌抄

調査体制

専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　橋本泰夫

総務課長　佐々木　清

調査課長　河本　清

文化財保護主事　平井泰男（調査担当）

発掘作業員

内田基、遠藤躬江、片山明士、片山武和、片山弘子、古谷武雄、小谷巴、小谷益恵、小谷美与志、古曳早苗、古曳順子、渋谷典子、田中清夫、東郷淑子、東郷みどり、花本茂、花本文枝、宮本繁夫、宮本秀夫、本森定江、本森秀雄、渡辺満

日　誌　抄

昭和61年

7月7日(月)　発掘資材運搬。A散布地発掘調査開始。T－1掘り下げ。

8日(火)　A散布地　T－2、3掘り下げ。

10日(木)　A散布地　T－3掘り下げ。
T－1断面実測。
B散布地　T－1掘り下げ。

11日(金)　B散布地　T－1掘り下げ。

14日(月)　B散布地　T－1、2掘り下げ。

16日(水)　B散布地　T－1、2、3掘り下げ。

17日(木)　A散布地　T－1、2断面実測。
B散布地　T－2、3掘り下げ。

18日(金)　A散布地　T－4掘り下げ。
B散布地　T－2、3掘り下げ。
T－1、3断面実測。

21日(月)　A散布地　T－4掘り下げ。

22日(火)　A散布地　T－5掘り下げ。
B散布地　T－2断面実測、埋めもどし。

23日(水)　A散布地　T－4、5断面実測。
T－4埋めもどし。
B散布地　T－1、3埋めもどし。

24日(木)　A散布地　T－1、2、3、5埋めもどし。

25日(金)　発掘資材片付け、撤収。

10月13日(月)　発掘資材運搬。C散布地　T－1、2掘り下げ。

14日(火)　C散布地　T－1、2、3、4、5掘り下げ。T－1、2断面実測。

16日(木)　C散布地　T－3、4、5、6掘り下げ。T－1埋めもどし。

17日(金)　C散布地　T－6掘り下げ。T－3、4断面実測。T－2、3埋めもどし。

22日(水)　桑瀬遺跡　T－1、2掘り下げ。

23日(木)　C散布地　T－5、6断面実測。
T－3、4、5、6埋めもどし。

24日(金)　桑瀬遺跡　T－1、2、3、4掘り下げ。

27日(月)　桑瀬遺跡　T－3、4、5、6、7掘り下げ。T－1、2断面実測。

28日(火)　桑瀬遺跡　T－6、7、8、9掘り下げ。T－3、4、5断面実測。

29日(水)　桑瀬遺跡　T－8、9、10、11、12掘り下げ。T－6、7、8，9断面実測。

30日(木)　桑瀬遺跡　T－10、11、12、13、14掘り下げ。T－10断面実測。

31日(金)　桑瀬遺跡　T－11、13、14、15、16、17、18、19掘り下げ。T－11、12、13断面実測。

11月4日(火)　桑瀬遺跡　T－16、17、18、19、20、21掘り下げ、T－14断面実測。

5日(水)　桑瀬遺跡　T－16、17、18、19、20、21、24、25、26掘り下げ。T－17、18断面実測。

6日(木)　桑瀬遺跡　T－25、26、27、28、29掘り下げ。T－15、19断面実測。T－14埋めもどし。

7日(金)　桑瀬遺跡　T－16断面実測。T－14、15、17埋めもどし。

10日(月)　桑瀬遺跡　T－21、27断面実測。
T－16、18、19埋めもどし。

11日(火)　桑瀬遺跡　T－30、31掘り下げ。T－20、28断面実測。T－21、27埋めもどし。

12日(水)　桑瀬遺跡　T－13、20、27埋めもどし。

13日(木)　桑瀬遺跡　T－30、31掘り下げ。

17日(月)　桑瀬遺跡　T－29断面実測。T－9、11、28埋めもどし。

18日(火)　桑瀬遺跡　T－22、23、24、25、26断面実測。T－9、23、25、29埋めもどし。

19日(水)　桑瀬遺跡　T－4、5、8、25埋めもどし。

20日(木)　桑瀬遺跡　T－30、31掘り下げ、断面実測。T－4、10、12埋めもどし。

21日(金)　桑瀬遺跡　T－1、7、12埋めもどし。

25日(火)　桑瀬遺跡　T－1、2埋めもどし。

26日(水)　桑瀬遺跡　T－32掘り下げ。T－22埋めもどし。

27日(木)　桑瀬遺跡　T－32、33掘り下げ。T－24、26埋めもどし。

28日(金)　桑瀬遺跡　T－30埋めもどし。

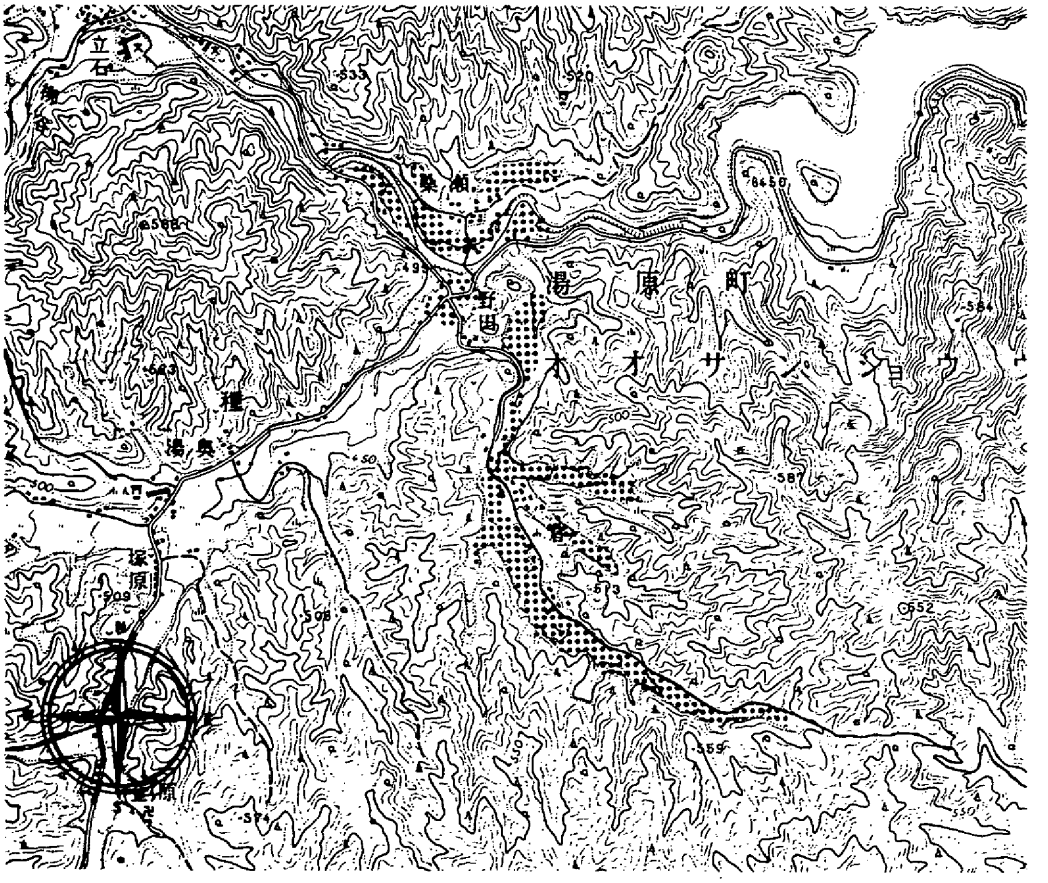
12月1日(月)　桑瀬遺跡　T－33、34掘り下げ。T－32断面実測。T－6、31埋めもどし。

2日(火)　桑瀬遺跡　T－3、32埋めもどし。

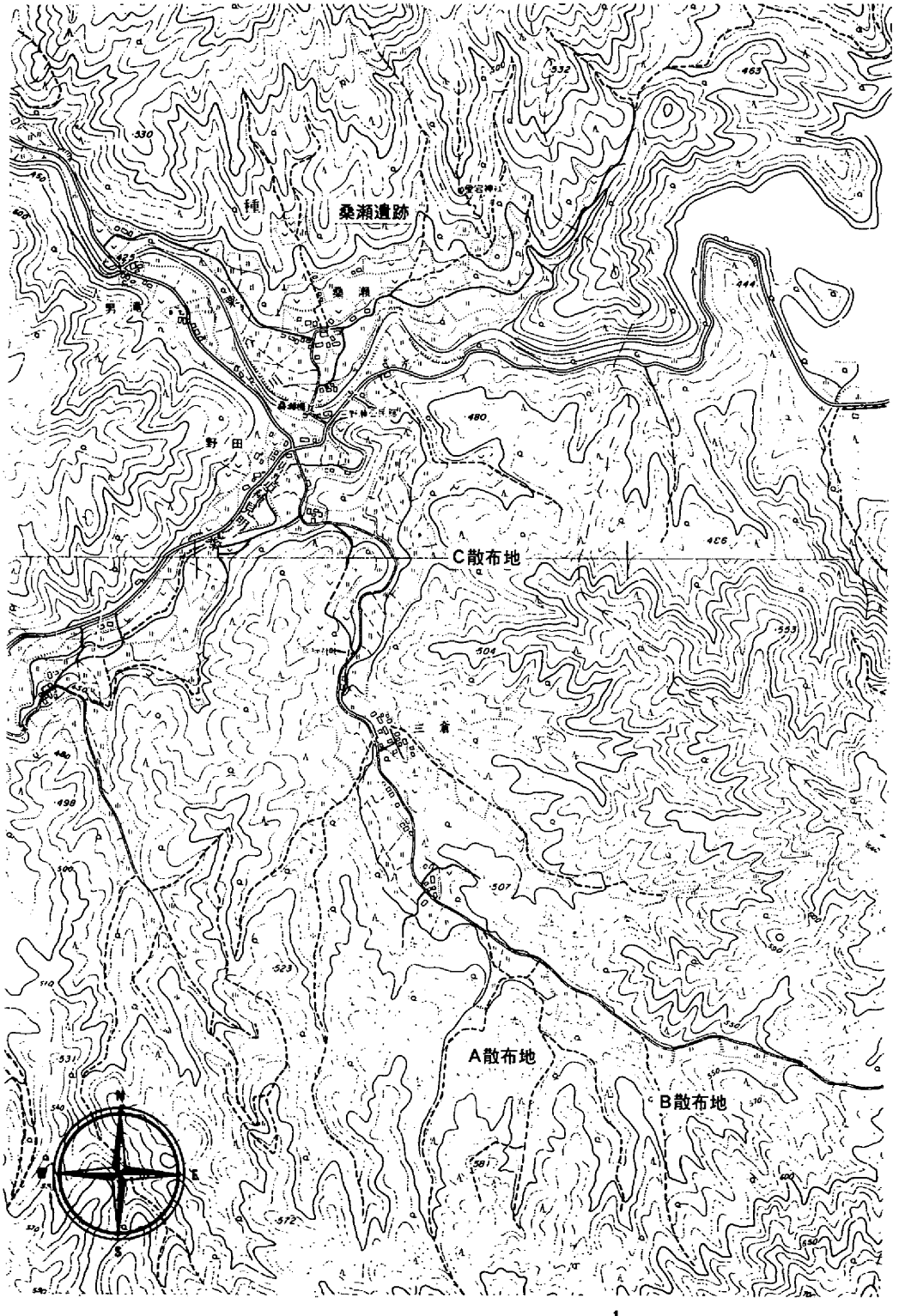
3日(水)　桑瀬遺跡　T－33、34掘り下げ、断面実測。T－33埋めもどし。

4日(木)　桑瀬遺跡　T－34埋めもどし。発掘資材片付け。

5日(金)　発掘資材片付け。撤収。



第3図　土地改良総合整備事業(三野瀬地区)予定範囲図($\frac{1}{25,000}$)



第４図　「桑瀬遺跡ほか」周辺地形図（$\frac{1}{15,000}$）

第３章　発掘調査の概要

第１節　桑瀬遺跡

〔１〕遺跡の位置（第２図、図版１－１、２）

遺跡は真庭郡湯原町種字桑瀬に所在する。

町の北西部に源を発し山間部をぬうような形で東に流れ湯原湖にそそぐ栗谷川は、桑瀬付近でやや南に蛇行し周辺に狭少な平野を形成している。遺跡は、この栗谷川の左岸部に位置し、南方へのびる丘陵の裾部に所在している。標高は400～450ｍを測る。現状は水田、畑、牧草地となっおり、わずかな土器片や鉄滓の散布地として知られていた。遺跡の西方約500ｍには男瀧（おんだき）遺跡、東方1000ｍには飯山塚古墳、田和の火の窯古墳が所在する。

発掘調査の対象となったのは、遺跡の所在する丘陵裾部に広がる土地改良総合整備事業計画のある水田、畑、牧草地である。

〔２〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、対象となる水田、畑、牧草地に２×５ｍのトレンチ20本、２×４ｍのトレンチ10本、２×３ｍのトレンチ４本の合計34本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認と土層観察、および図面作成、写真撮影等を行った（第５図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。

トレンチ１（第６図、図版４－１）

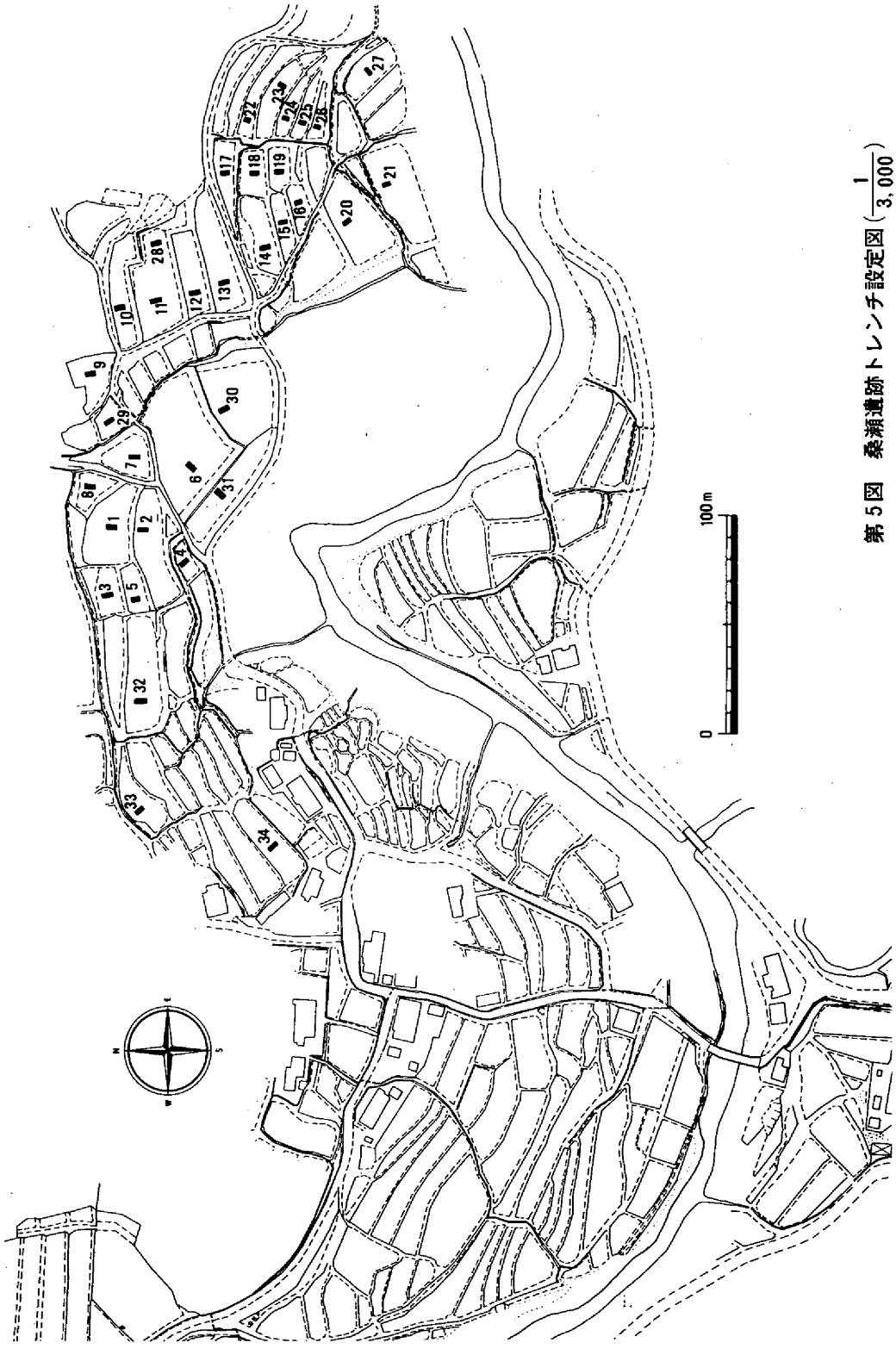
約160cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス90～130cmまではいわゆる黒ボクが堆積しており、それより約10～20cm下部で黄色砂質土の地山が検出された。遺物は、現耕作土中から青磁片（明代か）（第21図９）が出土している。

トレンチ２（第６図、図版４－２）

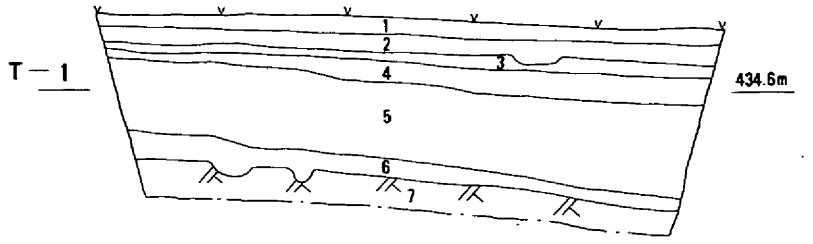
最深部で約130cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス50～80cmまではいわゆる黒ボクが堆積しており、それより約10～20cm下部で地山が検出された。地山面には凹凸がある。遺物は、現耕作土中から近世、近代の陶磁器片が少量出土している。

トレンチ３（第６図、図版４－３）

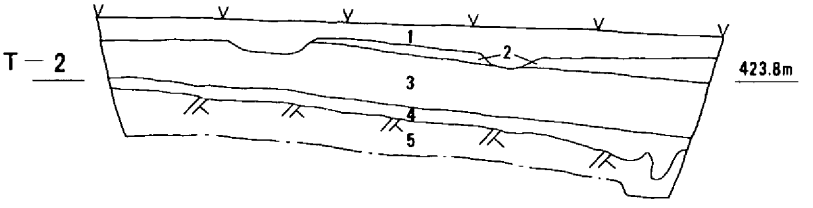
約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス60～90cmまではいわゆる黒ボクが堆積している。現表土マイナス100～130cmで黄灰白色砂質土の地山が検出されたが、この地山は粗砂が多く湧水もみられ、かつてはこの周辺は谷部であったものと考えられる。遺物は、現耕作土中から近世・近代の磁器片が少量出土したのみである。



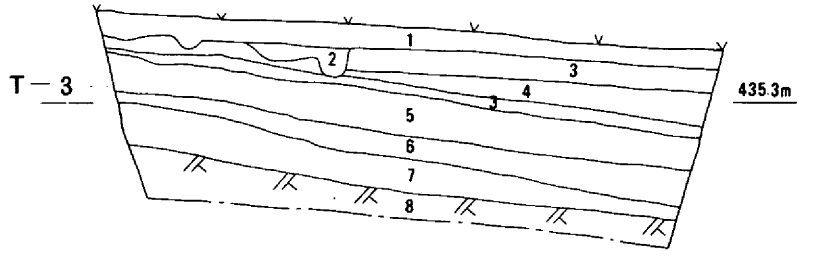
第5図　桑瀬遺跡トレンチ設定図（$\frac{1}{3,000}$）



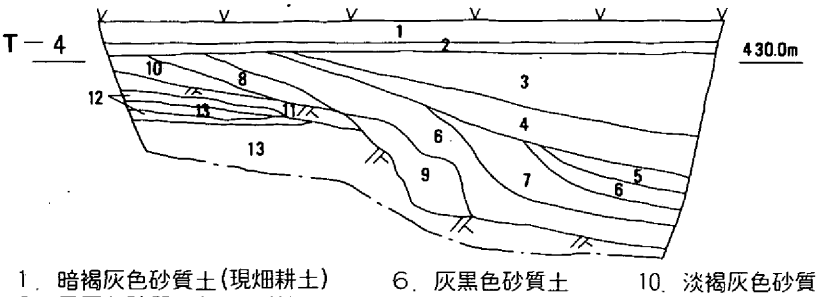
1．黒褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．黒褐灰色砂質土
3．暗灰色砂質土
4．黒灰色砂質土
5．灰黒色砂質土
6．黒灰色砂質土
7．黄色砂質土（小礫含・地山）



1．暗褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．黒灰色砂質土
3．灰黒色砂質土
4．褐灰色砂質土
5．黄色砂質土（10～20cmの礫含・地山）



1．黒褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．暗灰色砂質土
3．暗褐灰色砂質土
4．黒灰色砂質土
5．灰黒色砂質土
6．黒灰褐色砂質土
7．褐黄灰色粗砂
8．黄灰白色砂質土（地山）



1．暗褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．黒灰色砂質土（Fe沈着）
3．黒褐灰色砂質土
4．褐灰色砂質土
5．黒灰色砂質土
6．灰黒色砂質土
7．黒褐灰色砂質土
8．褐灰色砂質土
9．黒灰褐色砂質土（10～20cmの礫含）
10．淡褐灰色砂質土
11．褐灰白色砂質土
12．暗灰色砂質土
13．灰黄色砂質土（30～60cmの礫含）

第6図　桑瀬遺跡トレンチ1、2、3、4東壁断面図（$\frac{1}{60}$）

トレンチ4（第6図、図版4－4）

最深部で約180cmの掘り下げを行ったが遺構は検出されず、トレンチのほぼ中央で北から南への大きな下がりが確認された。下がりの部分では湧水が著しく谷部にあたるものと考えられる。遺物は、1～3層中から近世・近代の陶磁器片、鉄滓、古銭（時期不明）が出土している。

トレンチ5（第7図、図版4－5）

最深部で約150cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス50～100cmまではいわゆる黒ボクが堆積しており、その下部約40～50cmで地山が検出された。地山は粗砂が多く、湧水もあり、トレンチ3と同じくこの周辺はかつて谷部であったと考えられる。遺物は、現耕作土中から近世・近代陶磁器片が少量出土している。

トレンチ6（第7図、図版4－6）

最深部で約190cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス40～50cmまではいわゆる黒ボクが堆積していた。マイナス約50～60cmで黄色粘質土の地山が検出された。地山面では直径10～20cm、深さ10～20cmの不定形の柱穴状の凹みが多く検出できたが、いずれも人為的なものとは考えられない。図の7層は姶良火山灰と考えられる。遺物は、現耕作土中から縄文時代早期の押型文土器が出土している（第21図1）。

トレンチ7（第7図、図版4－7）

約130cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約50cmまでいわゆる黒ボクが堆積している。マイナス約40～50cmで地山が検出され、トレンチ6と同様の凹みが多くみられた。遺物は、現耕作土中から縄文時代後～晩期と考えられる土器片（第21図2・3・4）と黒曜石の小剥片および多量の鉄滓（精錬滓）が出土している。

トレンチ8（第7図、図版4－8）

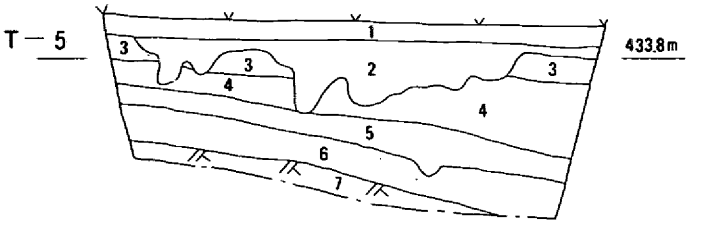
最深部で約160cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス30～60cmまでいわゆる黒ボクが堆積している。地山面においては、トレンチ6、7と同様の凹みが存在する。遺物は現耕作土中から縄文時代早期の土器片（第21図6、7）と近世・近代陶磁器片および鉄滓が出土している。

トレンチ9（第8図、図版5－1）

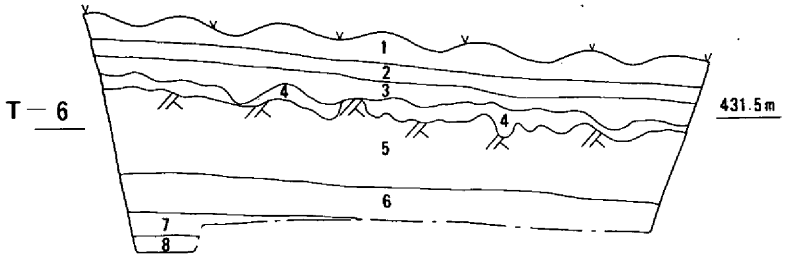
約180cmの掘り下げを行ったが地山は検出できなかった。現表土面マイナス約50cmから110cmまでいわゆる黒ボクが堆積している。その下層では粗砂層もみられ、この部分が谷部あるいは丘陵の端部であることが伺える。図の2層は最近使用していた炭窯である。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代磁器片が出土している。

トレンチ10（第8図、図版5－2）

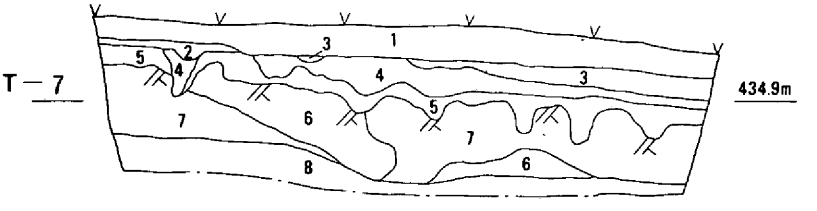
最深部で約120cmの掘り下げを行ったが、遺構は検出されなかった。図の2～6層は造成土



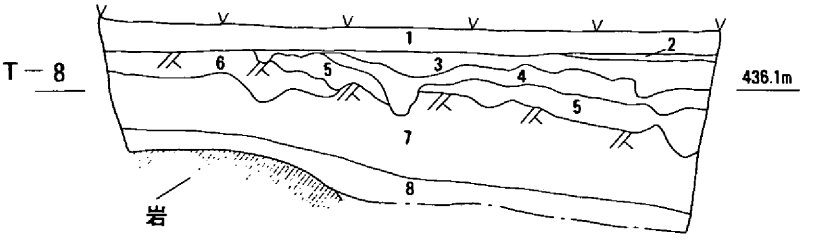
1．黒褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．暗褐灰色砂質土
3．黒灰色砂質土
4．灰黒色砂質土
5．灰褐色砂質土
6．褐黄灰色粗砂
7．黄灰白色砂質土（地山）



1．黒褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．黒灰色砂質土
3．暗褐灰色砂質土
4．黄褐灰色粘質土
5．黄色粘質土
6．灰黄色粘質土
7．黄色粘質土（姶良火山灰）
8．黄色砂質土（マサ土）



1．黒褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．黒灰色砂質土
3．灰黒色砂質土
4．暗褐灰色砂質土
5．黄褐灰色粘質土
6．黄色砂質土
7．黄色粘質土
8．橙黄色砂質土



1．褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．黒灰色砂質土
3．灰黒色砂質土
4．黒褐灰色砂質土
5．黄褐灰色粘質土
6．黄色砂質土
7．黄色粘質土
8．橙黄色粘質土（マサ土）

第7図　桑瀬遺跡トレンチ5、6、7、8東壁断面図（$\frac{1}{60}$）

で、4層はいわゆる黒ボクである。遺物は、現耕作土中から近代磁器片が1片出土したのみである。

トレンチ11（第8図、図版5－3）

約180cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス40～100cmまでいわゆる黒ボクが堆積していた。地山面ではトレンチ6、7、8と同様な凹みがみられた。遺物は、現耕作土中から少量の中世備前焼（第21図10）や近世・近代陶磁器片および鉄滓が出土している。

トレンチ12（第8図、図版5－4）

約170cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス60～100cmまでいわゆる黒ボクが堆積している。マイナス70～120cmで地山が検出され、地山中には2m以上の大きな石が含まれている。遺物は現耕作土中から少量の近世・近代磁器片が出土した。

トレンチ13（第9図、図版5－5）

約170cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス70～130cmまでいわゆる黒ボクが堆積している。図の2～6層は造成土である。地山面には浅い凹みがみられた。遺物は、現耕作土中から少量の近代磁器片が出土したのみである。

トレンチ14（第9図、図版5－6）

最深部で約140cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス100～130cmまでいわゆる黒ボクが堆積している。最下層には大きな石が多くみられた。遺物は、現耕作土中から少量の近世陶器片および鉄滓が出土している。

トレンチ15（第9図、図版5－7）

約110cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は存在せず北半部では現水田耕土直下で地山が検出された。図の2、3層は造成土である。地山中には礫を多く含んでいる。遺物は、現耕作土中から近世以降の磁器片が1片出土したのみである。

トレンチ16（第9図、図版5－8）

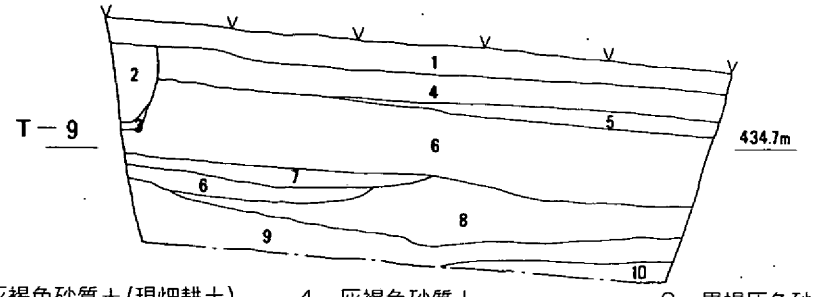
最深部で約160cmの掘り下げを行った。その結果、遺構、遺物は検出されず、北端部では現表土面マイナス約30cmで地山が検出され、地山は南にむかって傾斜している。その斜面にいわゆる黒ボクの堆積がみられた。図の3～5層は造成土である。

トレンチ17（第10図、図版6－1）

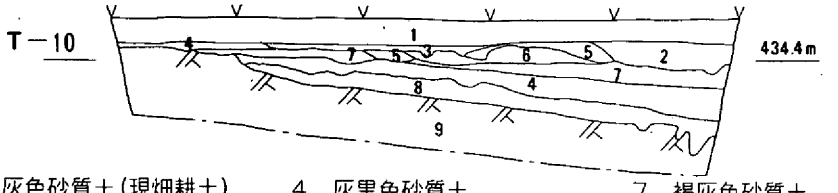
約140cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず現表土面マイナス90～130cmで地山が検出された。地山の上層には黒ボクの堆積がみられた。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代磁器片および鉄滓が出土している。

トレンチ18（第10図、図版6－2）

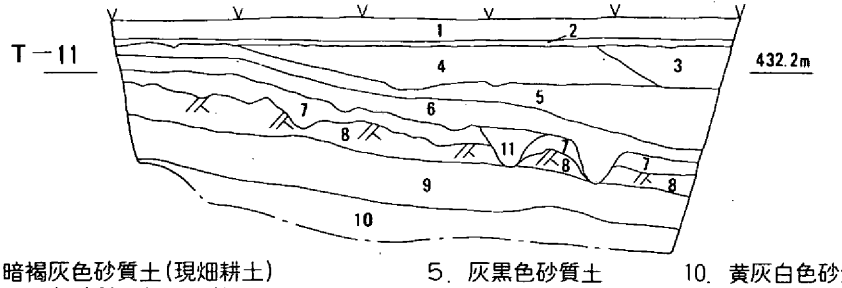
約130cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス80～100cm



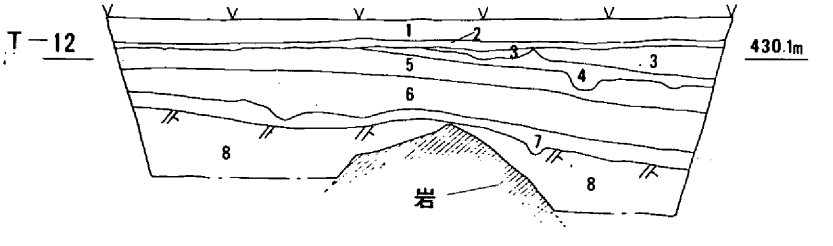
1．黒灰褐色砂質土(現畑耕土)
2．灰黒色砂質土、暗灰褐色砂質土(炭窯)
3．炭
4．灰褐色砂質土
5．黒褐灰色砂質土
6．灰黒色砂質土(10cm前後の礫含)
7．黒色砂質土
8．黒褐灰色砂質土(灰黄色粗砂・小礫含)
9．黒灰色砂質土
10．灰黄色粗砂



1．黒褐灰色砂質土(現畑耕土)
2．黄色砂質土、淡灰褐色砂質土(造成土)
3．暗灰色砂質土(黄色砂質土ブロック含)
4．灰黒色砂質土
5．灰黒色砂質土、黄色砂質土(造成土)
6．灰黒色砂質土(黄色砂質土ブロック含)
7．褐灰色砂質土
8．黄灰褐色砂質土(小礫含)
9．黄色砂質土(10～20cm大の礫含・地山)

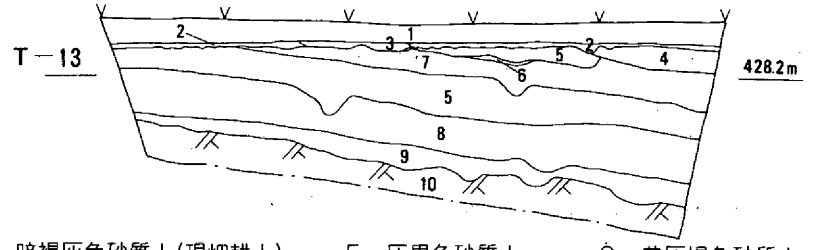


1．暗褐灰色砂質土(現畑耕土)
2．黒灰色砂質土(Fe沈着)
3．褐灰色砂質土(黄色砂質土ブロック灰黒色砂質土ブロック含)
4．褐灰色砂質土(灰黒色砂質土ブロック含)
5．灰黒色砂質土
6．暗褐灰色砂質土
7．黄灰褐色砂質土
8．褐灰色砂質土(地山)
9．黄色粘質土(地山)
10．黄灰白色砂質土(10～50cmの礫含・地山)
11．褐灰色砂質土

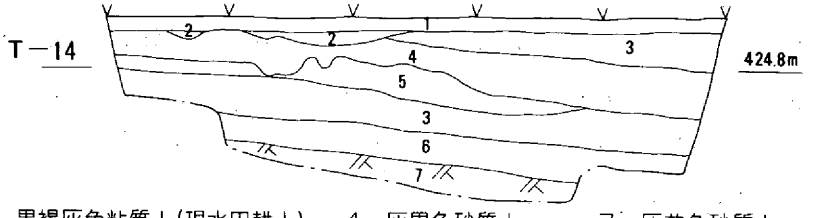


1．暗褐灰色砂質土(現畑耕土)
2．黒灰色砂質土(Fe沈着)
3．褐灰色砂質土、灰黒色砂質土
4．褐灰色砂質土
5．灰黒色砂質土
6．黒褐灰色砂質土
7．黄灰褐色砂質土
8．黄色砂質土(10～50cmの礫多い・地山)

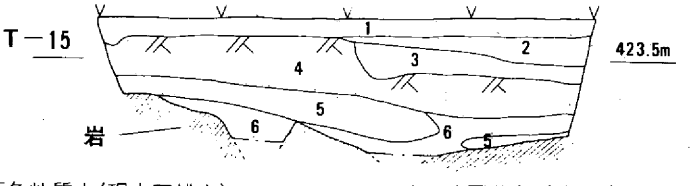
第8図　桑瀬遺跡トレンチ9、10、11、12東壁断面図($\frac{1}{60}$)



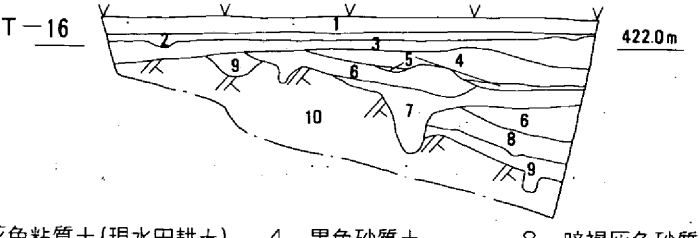
1．暗褐灰色砂質土(現畑耕土)
2．黒灰色砂質土(Fe沈着)
3．黒灰色砂質土、黄灰白色砂質土
4．灰黒色砂質土、黄色砂質土
5．灰黒色砂質土
6．黄色砂質土
7．褐灰色砂質土
8．黒褐灰色砂質土
9．黄灰褐色砂質土
10．黄色砂質土(10～100cmの礫含)



1．黒褐灰色粘質土(現水田耕土)
2．暗灰色砂質土
3．暗褐灰色砂質土
4．灰黒色砂質土
5．黒灰色砂質土
6．褐灰色砂質土
7．灰黄色砂質土
(20～100cmの礫多い)



1．黒褐灰色粘質土(現水田耕土)
2．黄色砂質土、灰黒色砂質土
3．灰黒色砂質土(黄色砂質土ブロック含)
4．淡灰黄色砂質土(5～30cmの礫多い)
5．黄灰白色砂質土
6．橙黄色砂質土



1．黒褐灰色粘質土(現水田耕土)
2．黒灰褐色砂質土
3．黄色砂質土
(灰黒色砂質土まじり)
4．黒色砂質土
5．黄色砂質土
6．灰黒色砂質土
7．黒灰色砂質土
(1cm以下の小礫含)
8．暗褐灰色砂質土
9．淡灰褐色砂質土
10．黄色砂質土
(20～80cmの礫多い・地山)

0　2m

第9図　桑瀬遺跡トレンチ13、14、15、16東壁断面図($\frac{1}{60}$)

までいわゆる黒ボクが堆積している。地山はマイナス90～110cmで検出され、礫を多く含んでいる。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代陶磁器片が出土したのみである。

トレンチ19（第10図、図版６－３）

約110cmの掘り下げを行ったが遺構・遺物は検出されず、いわゆる黒ボクが北から南へむかって堆積している。図の６層中には礫が多く地山まで掘り下げることができなかった。

トレンチ20（第10図、図版６－４）

約110cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕土直下で地山が認められ、遺構・遺物は検出されなかった。

トレンチ21（第10図、図版６－５）

約90cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス50～70cmで地山が検出され、地山面にはしみ込み状の凹みがみられたが人為的なものとは考えられない。図の３層はいわゆる黒ボクである。遺物は、現耕作土中から近世以降の備前焼が１片出土している。

トレンチ22（第11図、図版６－６）

約110cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず現表土面マイナス40～50cmまでいわゆる黒ボクが堆積し、マイナス60～90cmで地山が検出された。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代磁器片が出土している。

トレンチ23（第11図、図版６－７）

約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス70～120cmまでいわゆる黒ボクが堆積しており、その下部約10cmで地山が検出された。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代磁器片が出土した。

トレンチ24（第11図、図版６－８）

約120cmの掘り下げを行った。その結果、遺構・遺物は検出されず、現表土面マイナス50～100cmまでいわゆる黒ボクが堆積しており、その下部約10cmで地山が検出された。

トレンチ25（第11図、図版７－１）

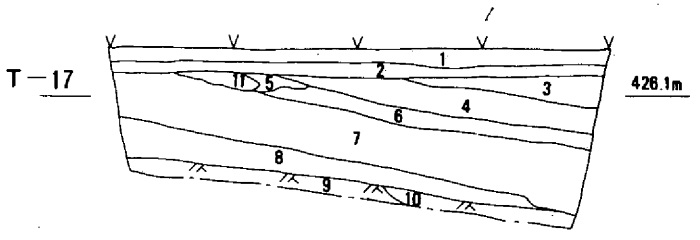
約140cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス80～110cmで地山を確認した。地山の上層にはいわゆる黒ボクが堆積している。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代磁器片および鉄滓が出土している。

トレンチ26（第11図、図版７－２）

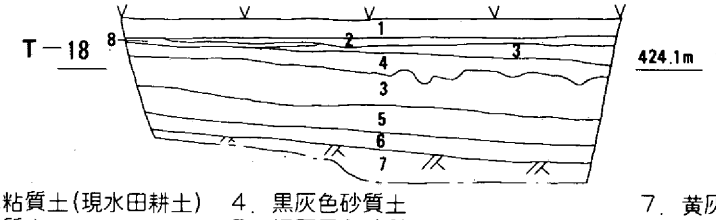
約120cmの掘り下げを行った。その結果、遺構・遺物は検出されず、現表土面マイナス50～100cmまではいわゆる黒ボクが堆積しており、その下部約20～30cmで地山が検出された。

トレンチ27（第12図、図版７－３）

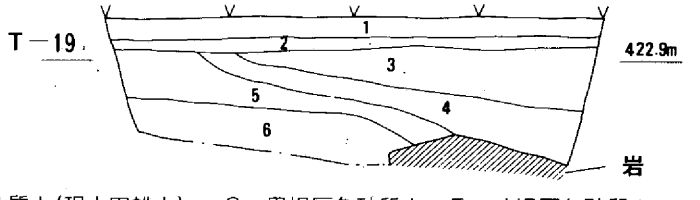
約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス約110cmま



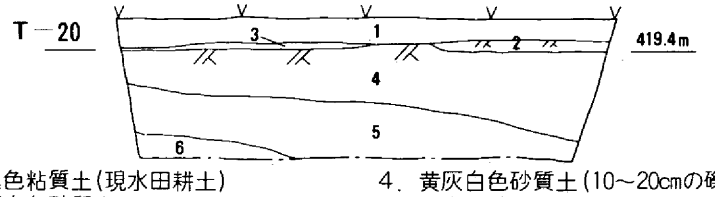
1．黒褐灰色粘質土(現水田耕土)
2．黒灰色砂質土
3．暗褐灰色砂質土、灰黒色砂質土
4．暗褐灰色砂質土
5．淡灰褐色砂質土
6．褐灰色砂質土
7．灰黒色砂質土
8．黒灰褐色砂質土
9．灰白色砂質土(10cm前後の礫含)
10．褐灰白色砂質土(10cm前後の礫含)
11．淡褐色砂質土



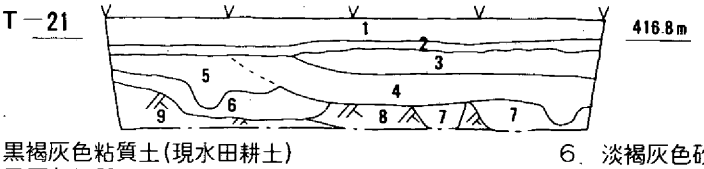
1．黒褐灰色粘質土(現水田耕土)
2．暗灰色砂質土
3．灰黒色砂質土
4．黒灰色砂質土
5．褐灰黒色砂質土
6．暗灰褐色砂質土(10cm前後の礫含)
7．黄灰白色砂質土(10～70cmの礫多い)
8．暗青灰色砂質土



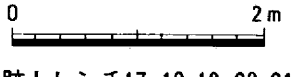
1．黒褐灰色粘質土(現水田耕土)
2．黒灰色砂質土
3．黒褐灰色砂質土
4．灰黒色砂質土
5．暗褐灰色砂質土
6．淡灰褐色砂質土(10～100cmの礫多い)



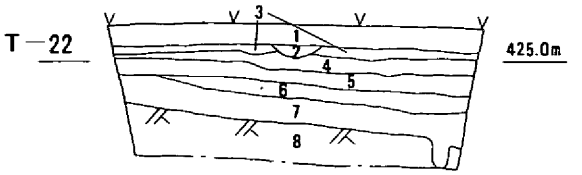
1．灰黒色粘質土(現水田耕土)
2．褐灰白色砂質土
3．淡灰色砂質土(灰黒色砂質土まじり)
4．黄灰白色砂質土(10～20cmの礫含・地山)
5．灰白色砂質土(地山)
6．灰黄色砂質土(地山)



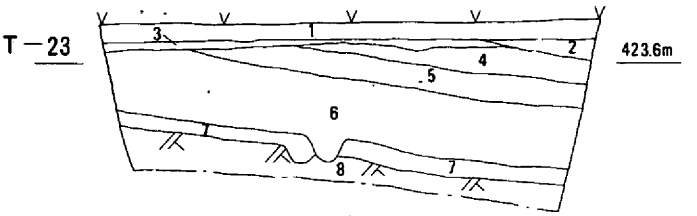
1．黒褐灰色粘質土(現水田耕土)
2．黒灰色粘質土
3．灰黒色砂質土
4．褐灰黒色砂質土(1cm以下の小礫多く含)
5．褐黒灰色砂質土(1cm以下の小礫多く含)
6．淡褐灰色砂質土
7．淡灰褐色砂質土
8．橙黄色砂質土
9．黄灰白色砂質土



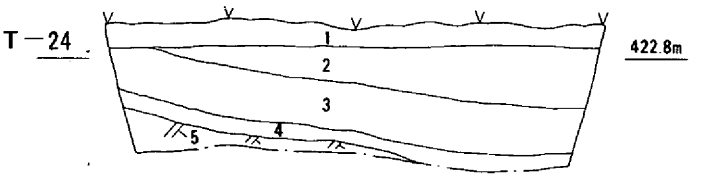
第10図　桑瀬遺跡トレンチ17、18、19、20、21東壁断面図($\frac{1}{60}$)



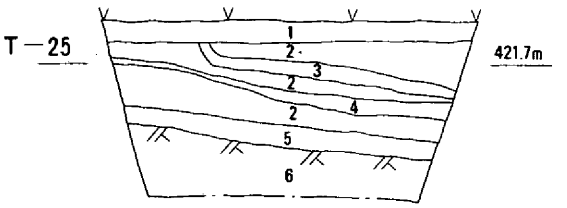
1．褐灰黒色砂質土(現畑耕土)
2．黒灰色砂質土
3．青灰黒色砂質土
4．灰黒色砂質土
5．黒褐灰色砂質土
6．褐灰色砂質土
7．淡褐灰色砂質土
8．黄灰白色砂質土(小礫含)



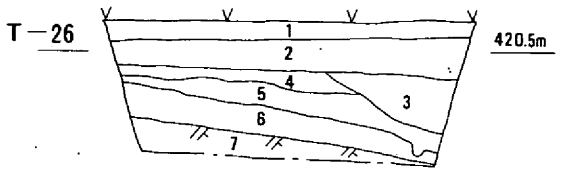
1．褐灰黒色砂質土(現畑耕土)
2．黄色粘質土(造成土)
3．青黒灰色砂質土
4．黒褐灰色砂質土
5．黒灰色砂質土
6．灰黒色砂質土(小礫含)
7．淡褐灰色砂質土
(10～50cmの礫含)
8．淡黄色砂質土(小礫含)



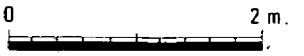
1．黒褐灰色砂質土(現畑耕土)
2．黒灰色砂質土
3．灰黒色砂質土
4．淡褐灰色砂質土(小礫含)
5．黄灰白色砂質土
(10～50cmの礫含)



1．褐灰黒色砂質土(現畑耕土)
2．灰黒色砂質土
3．褐灰黒色砂質土
(1cm前後の小礫含)
4．黒灰色砂質土
5．灰褐色砂質土
6．黄灰白色砂質土
(10～30cmの礫含)



1．黒褐灰色砂質土(現畑耕土)
2．褐灰黒色砂質土
3．褐黒灰色砂質土
4．黒灰色砂質土
5．灰黒色砂質土
6．灰褐色砂質土
7．黄灰白色砂質土
(10cm前後の礫含)



第11図　桑瀬遺跡トレンチ22、23、24、25、26東壁断面図($\frac{1}{60}$)

ではいわゆる黒ボクが堆積しており、その下部約20cmで地山が検出された。地山には粗砂がみられ谷部に近い地形と考えられる。地山面にはしみ込み状の凹みがみられるが人為的なものとは考えられない。遺物は、現耕作土およびその下層から少量の近世・近代磁器片、鉄滓、製鉄炉壁、土師器片？（第21図８）が出土した。

トレンチ28（第12図、図版７－４）

約140cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス80～120cmで地山が検出された。図８層は旧表土の可能性がある。遺物は、現耕作土中から少量の近世磁器片が出土している。

トレンチ29（第12図、図版７－５）

約140cmの掘り下げを行った。この地点は現状でも谷部を利用した小面積の牧草地と考えられるが、調査の結果においても粗砂、細砂の複雑な堆積層が検出され、かつては谷部であったことが確認された。遺構・遺物は検出されなかった。

トレンチ30（第12図、図版７－６）

約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス約30cmで地山が検出された。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代陶磁器片が出土した。

トレンチ31（第13図、図版７－７）

約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構・遺物は検出されず、北端部では現表土面マイナス約20cmで地山が検出された。地山の上層にはいわゆる黒ボクが堆積している。図の９層は姶良火山灰と考えられるが、明確な層を形成せず流れ込みの状況を呈している。

トレンチ32（第13図、図版７－８）

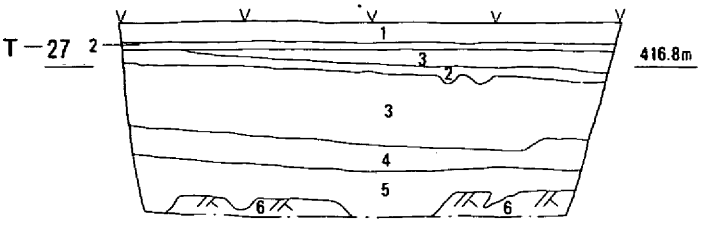
約160cmの掘り下げを行ったが、遺構は検出されず、現表土面マイナス50～110cmまでいわゆる黒ボクが堆積していた。黒ボクの下層には粗砂、細砂層がみられ、谷部であったことが考えられる。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代陶磁器片、土師器片？が出土している。

トレンチ33（第13図、図版８－１）

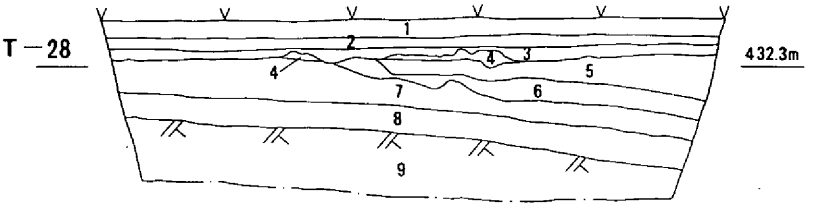
約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス40～80cmで地山を検出した。地山中には大きな礫を含んでいる。遺物は、現耕作土中から少量の近世・近代陶磁器片および鉄滓が出土している。

トレンチ34（第13図、図版８－２）

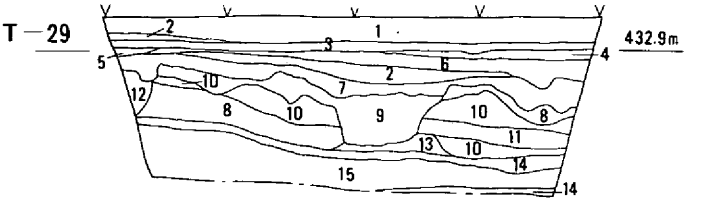
最深部で約160cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス20～70cmまではいわゆる黒ボクが流れてきたような堆積を示していた。その下部には粗砂、細砂、粘土が複雑に堆積しており、かつて谷部であったことが考えられる。遺物は、現耕作土から最下層までの間に少量の中世備前焼片（第21図11）、近世・近代陶磁器片が出土している。なお、



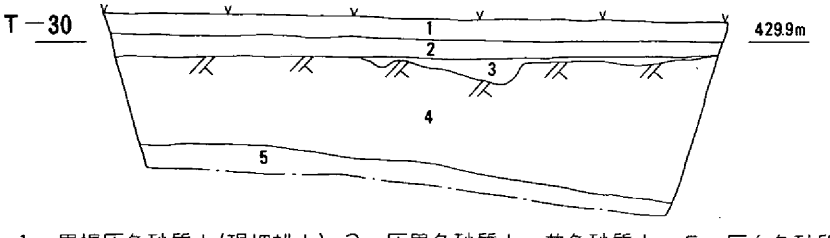
1．黒褐色粘質土
2．黒灰色粘質土
3．灰黒色砂質土
4．黒色砂質土（1cm以下の小礫多）
5．暗灰褐色砂質土
6．灰黄色砂質土



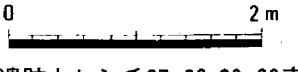
1．暗褐灰色砂質土
2．暗灰色砂質土
3．青灰黒色粘質土
（1cm以下の小礫含）
4．灰黒色砂質土
5．黒褐灰色砂質土
6．黄褐灰色砂質土
7．黄灰白色砂質土
8．褐灰色砂質土
9．淡灰黄色砂質土



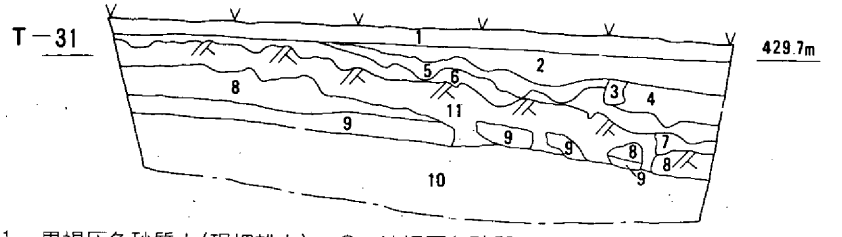
1．灰色砂質土（現畑耕土）
2．暗灰色砂質土
3．暗青灰色砂質土
4．暗褐灰色砂質土
5．褐黄色砂質土
6．灰黒色砂質土
7．黒灰色砂質土
8．淡灰色粗砂
9．淡灰色砂質土
10．黄灰白色粗砂
11．淡灰色粗砂
12．暗灰色細砂
13．灰色細砂
14．暗灰色粘質土
15．灰白色粗砂



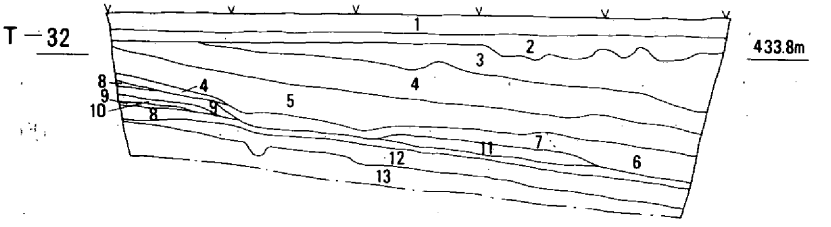
1．黒褐灰色砂質土（現畑耕土）
2．灰黒色砂質土
（黄色砂質土ブロック含）
3．灰黒色砂質土、黄色砂質土
4．黄色砂質土
（10～100cmの礫含）
5．灰白色砂質土



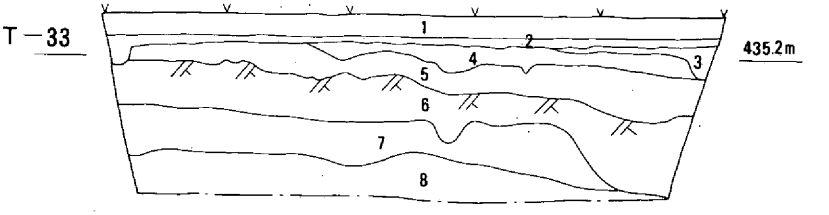
第12図　桑瀬遺跡トレンチ27、28、29、30東壁断面図（$\frac{1}{60}$）



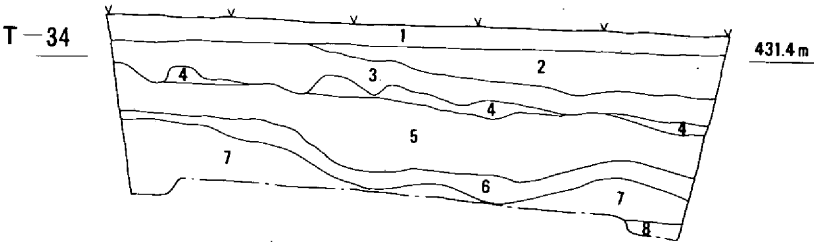
1. 黒褐灰色砂質土(現畑耕土)
2. 灰黒色砂質土
3. 黒色砂質土
4. 暗褐灰色砂質土
5. 褐灰色砂質土、灰黒色砂質土
6. 淡褐灰色砂質土
7. 淡褐灰色砂質土、黄色砂質土
8. 淡黄色粘質土
9. 黄色粘質土(姶良火山灰)
10. 淡灰橙色砂質土(マサ土・10～30cm大の礫含)
11. 橙黄色砂質土(マサ土)



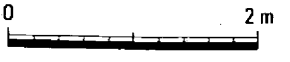
1. 黒褐灰色砂質土(現畑耕土)
2. 黒灰色砂質土
(1cm以下の小礫多い)
3. 暗灰褐色砂質土
4. 黒色砂質土
5. 灰黒色砂質土
6. 暗褐灰色砂質土
7. 淡灰褐色砂質土
8. 褐灰黒色砂質土
9. 淡褐灰色細砂
10. 褐灰色砂質土
11. 褐灰白色細砂
12. 暗灰色砂質土
13. 灰白色細砂



1. 黒褐灰色砂質土(現畑耕土)
2. 黒灰色砂質土
3. 灰黒色砂質土
4. 暗灰褐色砂質土
5. 淡褐灰色砂質土
(10～30cmの礫含)
6. 淡黄色粘質土
7. 橙黄色細砂(マサ土)
8. 灰白色砂質土



1. 黒褐灰色砂質土(現畑耕土)
2. 黒褐灰色砂質土
3. 灰黒色砂質土
4. 褐灰色砂質土
5. 淡灰色・灰黄色粗砂
6. 淡灰色細砂
7. 淡灰色細砂・灰黄色粗砂・灰白色粗砂
8. 灰黒色粘土



第13図　桑瀬遺跡　トレンチ31、32、33、34東壁断面図 ($\frac{1}{60}$)

このトレンチを入れた畑の西端の畦には五輪塔がおかれている。

以上述べたように、今回の調査においては古い遺構はすべてのトレンチで検出されず、遺物包含層も認められなかった。遺物は、トレンチ6、7、8において縄文時代早期および後～晩期の土器片が少量出土しているが、これらの土器片はいずれも現在の耕作土中から出土したもので、周辺からの流れ込み等で埋ったものと考えられる。なお、トレンチ6で出土した押型文土器については、鳥取県米子市に所在する上福万遺跡において類似する土器の出土が報告されている。（註1）今回の調査範囲は北から南へのびる丘陵の裾部に位置しており、北側の丘陵上に縄文時代の生活跡が存在している可能性を考えてもよいであろう。また、鉄滓については、現状でも調査範囲内の畑や農道に散布がみられ、トレンチ調査の結果においてもすでに述べたように現在の耕作土中からの出土が認められた。これらのなかではトレンチ7からの出土が最も多く、またトレンチ27では炉壁も出土しているが、今回の調査範囲内に製鉄関連の遺構が存在している可能性は薄いと考えられる。

（註1）『上福万遺跡・日下遺跡・石州府第1遺跡・石州府古墳群』鳥取県教育文化財団　1985年10月

表－1　トレンチ出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考	出土トレンチ
1	深鉢	－	－	－	○外面に山形を縦位に施す。口縁端部にも山形の押型文。内面指頭押え。口縁部は山形を呈する。	淡黄灰白色	おもに0.5mm以下の砂粒	良好	縄文土器	桑瀬 T－6
2		－	－	－	○外面不詳。外面に半截竹管文か。内面2枚貝条痕か。	橙黄灰白色	1mm以下の砂粒	〃	〃	桑瀬 T－7
3		－	－	－	○外面に2枚貝条痕とヘナタリ条痕。内面条痕か。	淡褐灰色	1mm前後の砂粒多い	〃	〃	〃
4		－	－	－	○内外面とも2枚貝条痕。	黄灰白色	0.5mm以下の砂粒	〃	〃	〃
5		－	－	－	○外面不詳。内面指頭押え。	淡黄灰白色	〃	〃	時期不詳	〃
6		－	－	－	○外面条痕。内面指頭押え。	淡茶褐色	〃	〃	繊維を含む。縄文土器	桑瀬 T－8
7		－	－	－	○外面不詳。内面2枚貝条痕。	淡黄灰白色	おもに0.5mm以下の砂粒	〃	〃	〃
8	甕	－	－	－	○頸部外面ハケメ。体部内面ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。	黄灰白色	1mm前後の砂粒多い	〃	土師器	桑瀬 T－27
9	碗	－	－	－	○見込み、脚・体部面に釉。底部外面ケズリ。	灰オリーブ色	緻密	堅緻	明の青磁か	桑瀬 T－1
10	擂鉢	－	－	－	○内面に5本の条線。体部外面指頭押え。体部内面、口縁部ヨコナデ。	内面淡灰色、外面褐灰色	1mm前後の砂粒多い	〃	内面自然釉。備前焼	桑瀬 T－11
11	壺	―	－	－	○内面ヨコナデ。外面5条の沈線。	暗灰色	1～2mmの砂粒	〃	外面自然釉。備前焼	桑瀬 T－34
12	杯蓋	－	－	－	○内外面ヨコナデ。	灰色	0.5mm以下の砂粒少量	〃	須恵器	A散布地 T－1
13	甕	－	－	－	○内外面ヨコナデ。	黄灰白色	1mm以下の砂粒	良好	弥生土器	A散布地 T－3
14	〃	－	－	－	○口頸部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。	灰白色	0.5mm以下の砂粒	〃	〃	〃
15	〃	12.2	－	－	○口頸部内外面ヨコナデ。体部外面横ハケメ、内面ヘラケズリ。	黄灰白色	1mm以下の砂粒	〃	〃	〃
16	台付鉢	－	－	7.6	○脚部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ。	橙黄灰白色	〃	〃	弥生～土師	B散布地 T－2
17	杯蓋	－	－	－	○外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	灰白色	緻密	堅緻	外面自然釉須恵器	C散布地 T－1
18	壺	15.2	－	－	○内外面ヨコナデ。口縁端部内面斜めのハケメ	淡灰色	1mm前後の砂粒多い	〃	備前焼	C散布地 T－3
19	擂鉢	－	－	－	○内外面ヨコナデ。口縁部外面凹線。	赤褐灰色	緻密	〃	〃	C散布地 T－6

第２節　A散布地

〔１〕遺跡の位置（第２図、図版２－１、２）

遺跡は真庭郡湯原町種字三倉に所在する。

町のほぼ中央部には標高600～700ｍの山塊が東西に連なり、豊栄、本庄などの平野部と種の平野部を区切っている。遺跡はこの山塊に源を発し、谷間に沿って種字桑瀬で粟谷川にそそぐ小河川である三倉川の左岸に位置する丘陵端部および水田に所在し、多くの鉄滓や少量の土器の散布が確認されていた。遺跡の北西約500ｍにはB散布地が、また北西約1800ｍにはC散布地が所在する。

発掘調査の対象となったのは、そのうちの土地改良総合整備事業が予定されている三倉川沿いの幅約20～40ｍの狭い谷部につくられた谷水田、畑、牧草地である。

〔２〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、対象となる水田、畑、牧草地に２×12ｍのトレンチ１本、２×10ｍのトレンチ２本、２×８ｍのトレンチ１本、２×５ｍのトレンチ１本の合計５本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認と土層観察、および図面作成、写真撮影等を行った（第14図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。

トレンチ１（第15図、図版８－３）

最深部で約140㎝の掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず図の６・21層は地山と考えられる。地形はトレンチ中央部から北と南へ下がっており谷部へ移行するものと考えられる。図の10層はいわゆる黒ボクである。遺物は、トレンチ南端部の下がりから須恵器片が１片出土している（第21図12）。

トレンチ２（第15図、図版８－４）

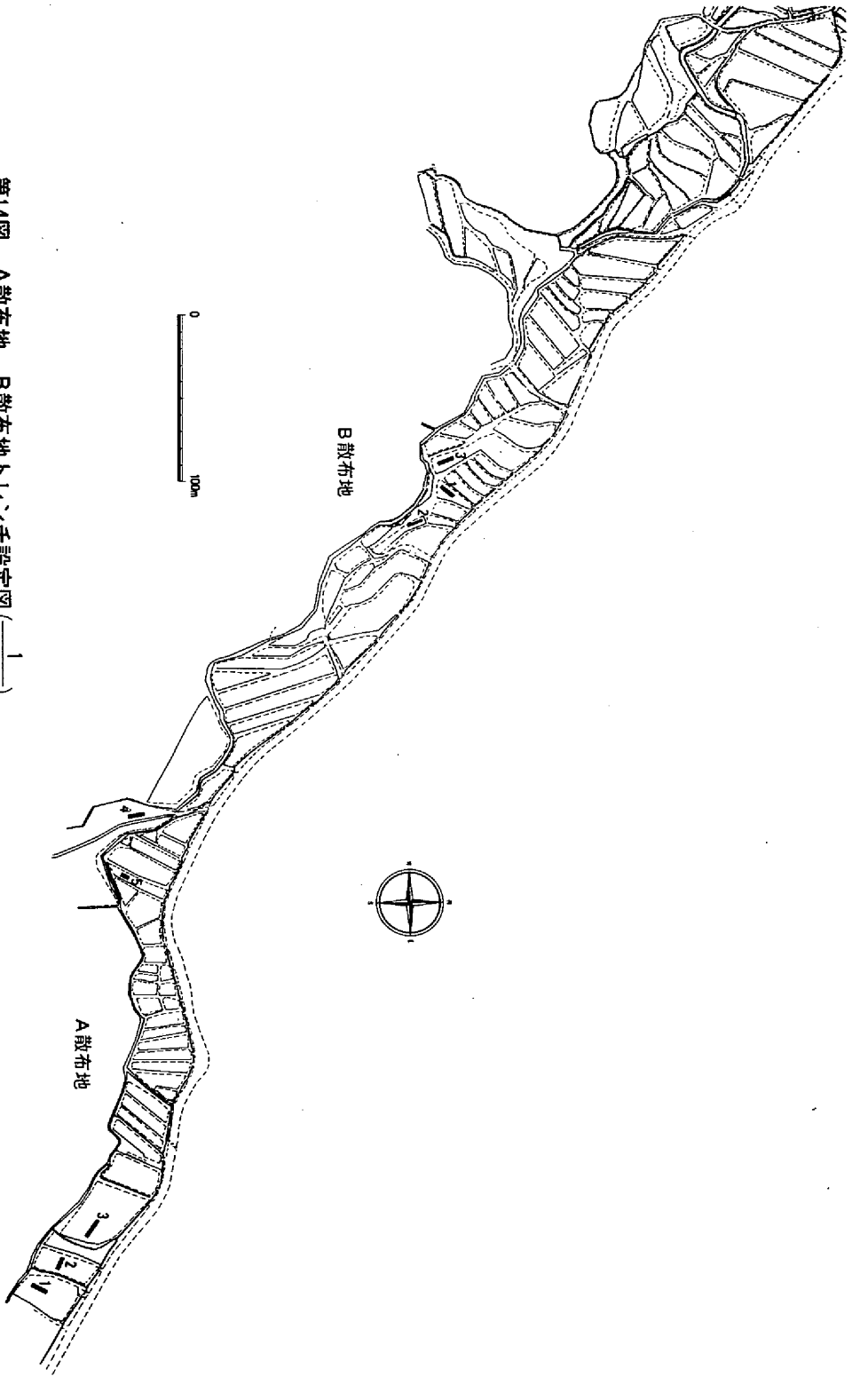
約100㎝の掘り下げを行った。その結果、遺構・遺物は検出されず、東端部では現水田耕土直下で地山と思われる層が検出され、西端部にむかって傾斜している。

トレンチ３（第15図、図版８－５）

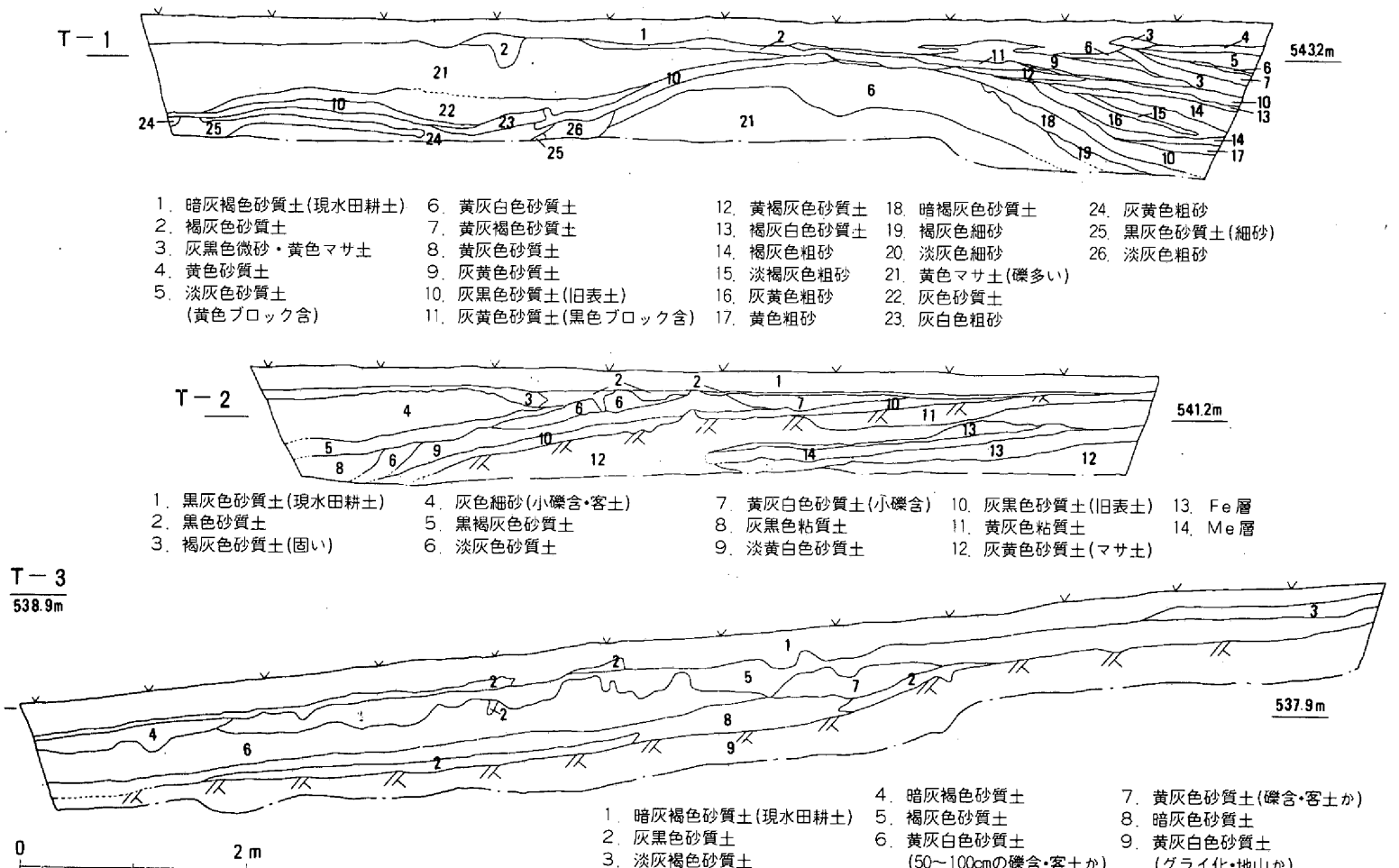
約120㎝の掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス40～100㎝で地山と考えられる層が検出され東から西へ傾斜している。地山の上層にある８層は旧表土と考えられる。遺物は、トレンチ西端部の旧表土層から弥生時代末頃の甕形土器片が少量出土している（第21図13・14・15）。

トレンチ４（第16図、図版８－６）

約110㎝の掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス60～90㎝で地山と思われる層が検出された。地山の上層は、トレンチにむかってのびる丘陵からの流れ込



第14図　A散布地、B散布地トレンチ設定図（$\frac{1}{4,000}$）



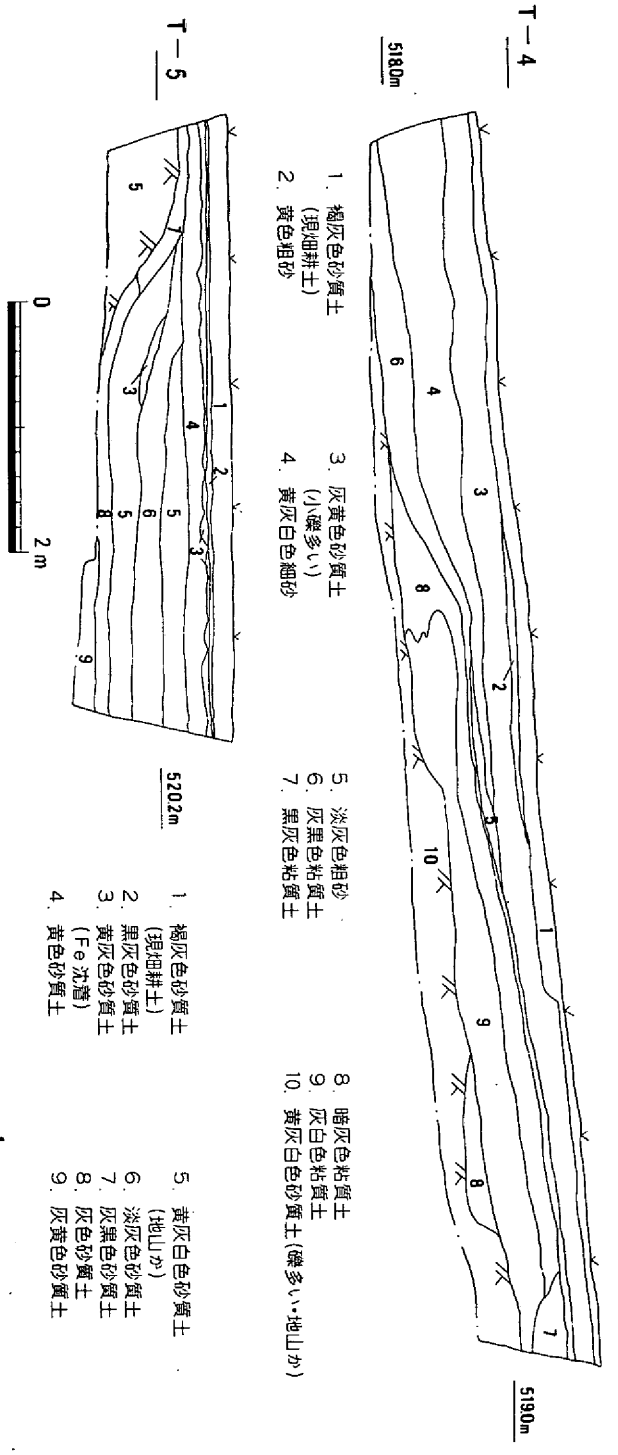
第15図　A散布地トレンチ東壁断面図、トレンチ2、3北壁断面図 ($\frac{1}{60}$)

みと考えられる。遺物は、現耕作土中から鉄滓や製鉄炉壁が出土している。

トレンチ５（第16図、図版８－７）

最深部で約130cmの掘り下げを行った。その結果、遺構・遺物は検出されず、土層も基本的に丘陵から流れたものが堆積している状況であった。

以上のように、今回のトレンチ調査においてはすべてのトレンチで遺構は検出されず、かつては旧河道あるいは谷部の地形を呈していたものと考えられる。遺物はトレンチ１で須恵器、トレンチ３で弥生土器が出土しており、周辺に当該期の遺構が存在している可能性がある。また、トレンチ４の位置する丘陵裾部には現状でも多量の鉄滓、製鉄炉壁が散布しており、南西方向に少し登った所には平坦面が形成されておりこの部分に製鉄跡の存在している可能性が高いと考えられる。



第16図　A散布地トレンチ４、５西壁断面図（1/60）

第３節　B散布地

〔１〕遺跡の位置

遺跡は真庭郡湯原町種字三倉に所在する。

遺跡は第２節で述べたA散布地の北西約500ｍに位置し、三倉川の左岸の丘陵裾部および水田に鉄滓の散布が確認されていた。遺跡の北西約1300ｍにはC散布地が所在する。

発掘調査の対象となったのは、そのうちの土地改良総合整備事業が予定されている狭小な谷水田、畑、牧草地である。

〔２〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、対象となる水田、畑、牧草地に２×10ｍのトレンチ２本、1.5×10ｍのトレンチ１本の合計３本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認と土層観察、および図面作成、写真撮影等を行った。（第14図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。

トレンチ１（第17図、図版８－８）

最深部で約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、 現表土面マイナス50～100cmで地山と思われる層が検出された。地山は北東から南西に傾斜している。地山面にはしみ込み状の凹みがみられた。地山の上層には旧表土と考えられる土層（図の４層）が堆積している。また、トレンチの南半部には50～100cm大の礫が集中して検出された。遺物は、旧表土中から時期不詳の土師器が２片出土している。

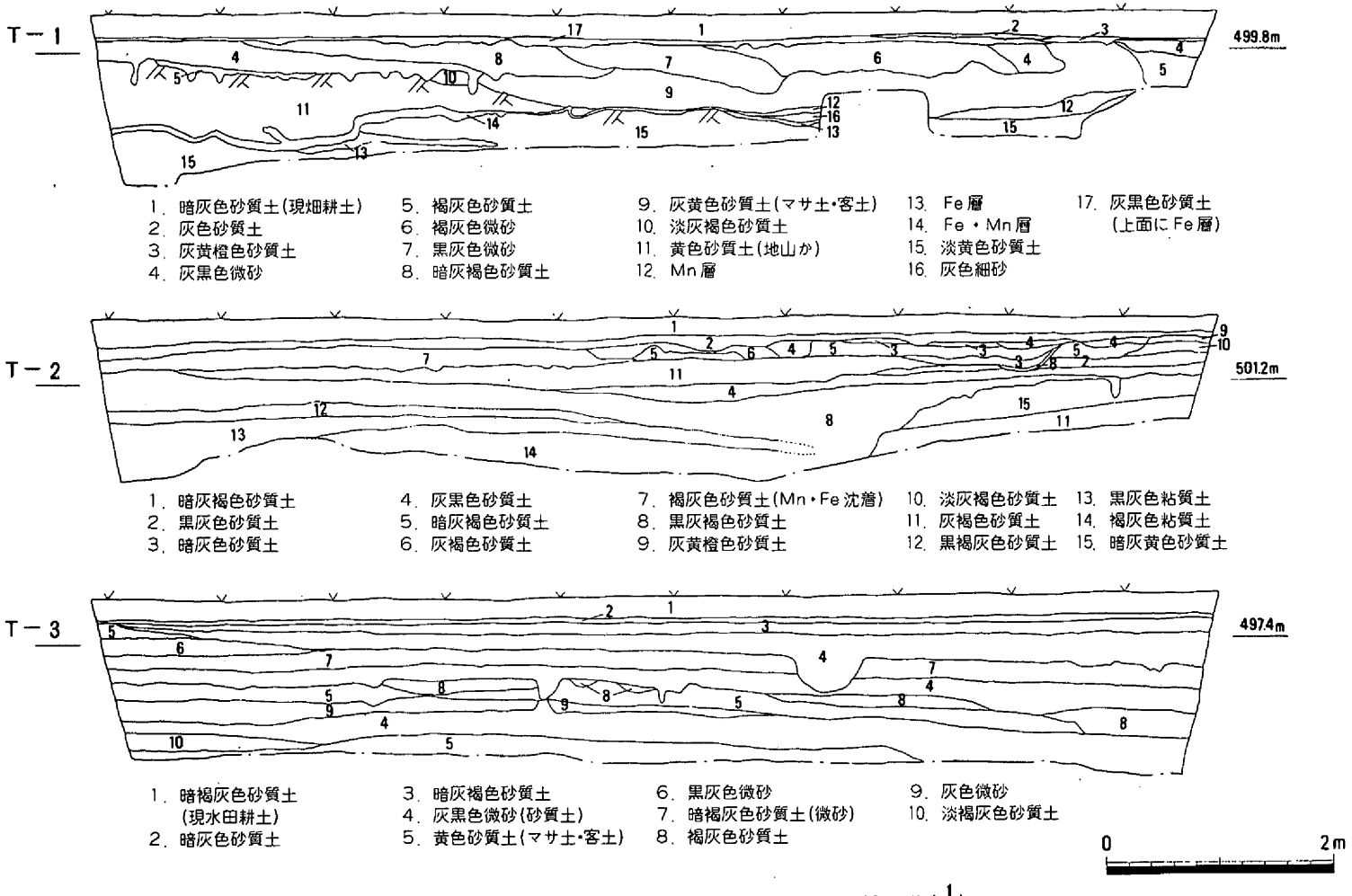
トレンチ２（第17図、図版９－１）

最深部で約140cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、トレンチの南部分にむかって大きな下がりが確認された。遺物は、下がりの部分から弥生時代末～古墳時代初め頃の土器片（第21図16）および寛永通宝１枚が出土している。

トロンチ３（第17図、図版９－２）

約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構・遺物は検出されず、現表土面マイナス約80cmまでいわゆる黒ボクが堆積し、間層をはさんでその下部にも黒ボクが堆積している。最下層には細砂、粗砂を含み、かつては谷部であったものと考えられる。

以上のように、今回のトレンチ調査ではすべてのトレンチにおいて遺構は検出されず、土地改良総合整備事業予定の水田、畑、牧草地には遺跡は存在していないと考おられる。しかし、１片ではあるがトレンチ２で出土した土器片から周辺の丘陵上に生活跡が存在する可能性は考えられよう。



第17図　B散布地トレンチ東壁断面図、トレンチ2、3西壁断面図 $(\frac{1}{60})$

第4節　C散布地

〔1〕遺跡の位置（第2図、図版3－2）

遺跡は真庭郡湯原町種字三倉および野田に所在する。

遺跡は、第3節で述べたB散布地の北西約1300mに位置し、三倉川の左岸の丘陵上に鉄滓の散布および五輪塔の存在が確認され、谷水田部分にも鉄滓の散布が知られていた。

発掘調査の対象となったのは、そのうちの土地改良総合整備事業計画のある谷水田、畑、牧草地である。

〔2〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、対象となる水田、畑、牧草地に2×5mのトレンチ6本を設定し、遺構・遺物の確認と土層観察、および図面作成、写真撮影等を行った（第18図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。

トレンチ1（第19図、図版9－3）

最深部で約150cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土面マイナス約50cmから下層には礫を多く含む細砂、粗砂が堆積している。遺物は、現耕作土中から6世紀初頭頃の須恵器杯片（第21図17）および少量の近世・近代陶磁器片が出土している。

トレンチ2（第19図、図版9－4）

最深部で約130cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は検出されず、現表土マイナス約40cmから下層には礫を多く含む細砂、粗砂が堆積しており、一部はグライ化している。遺物は、時期不詳の土師器が1片出土しているのみである。

トレンチ3（第19図、図版9－5）

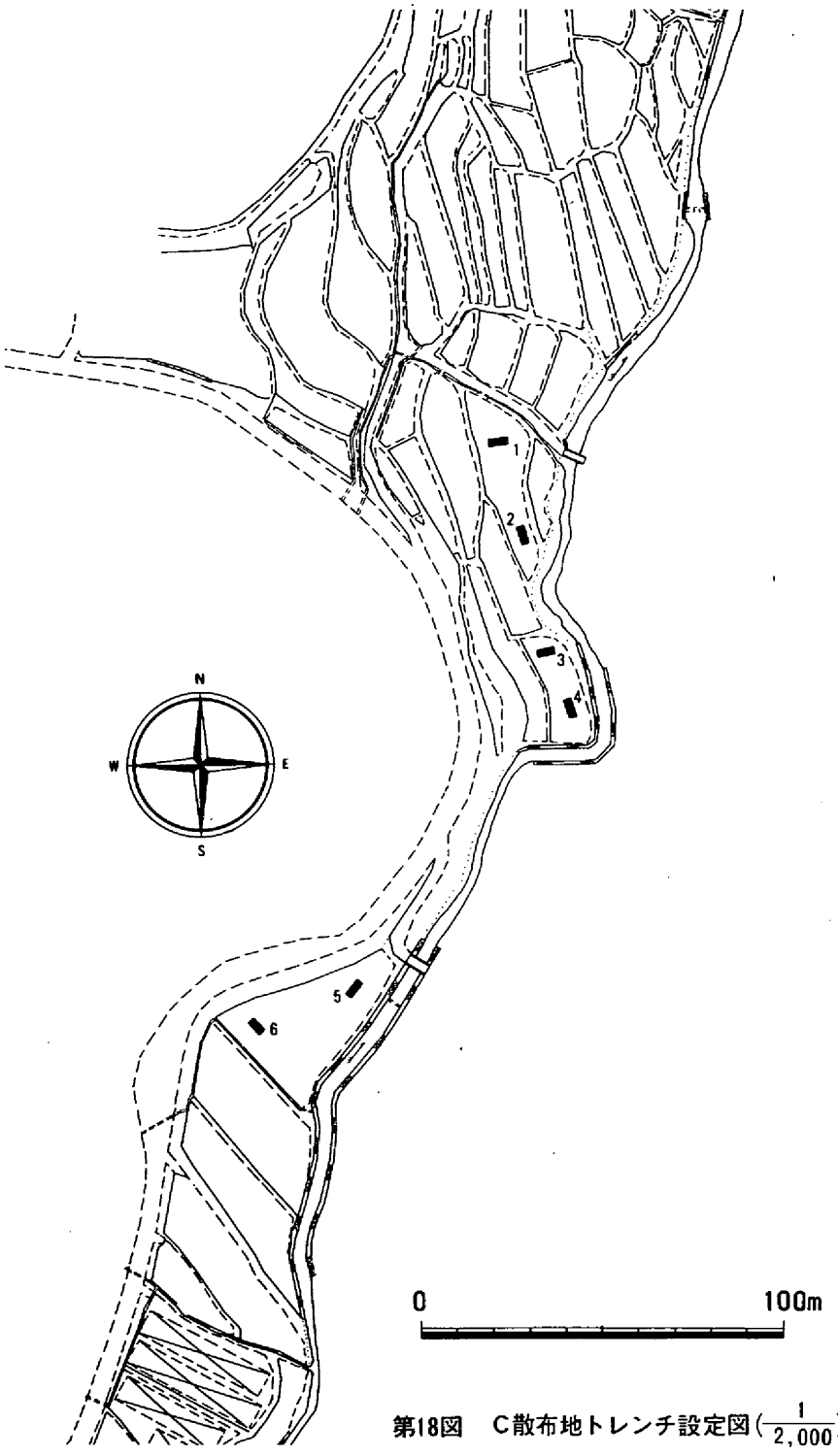
約160cmの掘り下げを行った。図の5層は昭和56年の三倉川の洪水によって堆積したものである。7層は洪水以前の水田耕土で、溝もほぼ同時期のものであろう。最下層は礫を多く含む粗砂が堆積している。遺物は、中世備前焼壺（第21図18）および少量の近世・近代陶磁器片が出土している。

トレンチ4（第19図、図版9－6）

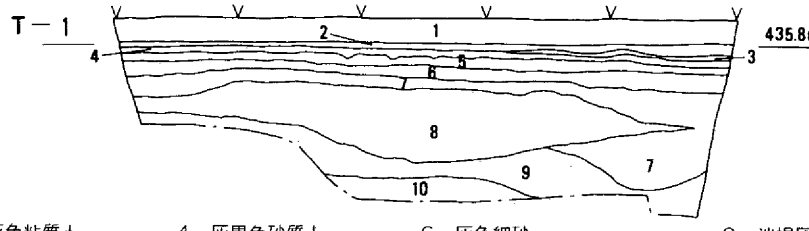
最深部で約220cmの掘り下げを行った。図の6層は昭和56年の三倉川の洪水によって堆積したもので、8層は洪水以前の水田耕土である。溝はほぼ近代のものと考えられる。最下層には微砂、細砂が堆積している。遺物は、少量の近世・近代陶磁器片および鉄滓が出土している。

トレンチ5（第20図、図版9－7）

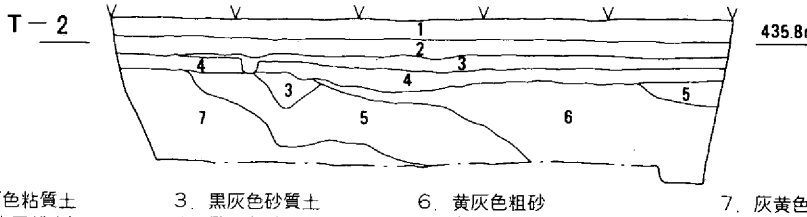
最深部で約210cmの掘り下げを行った。図の2～8層は現耕作土のための造成土であり、14層が旧耕作土である。最下層には礫まじりの粗砂が堆積している。遺構は検出されず、遺物も



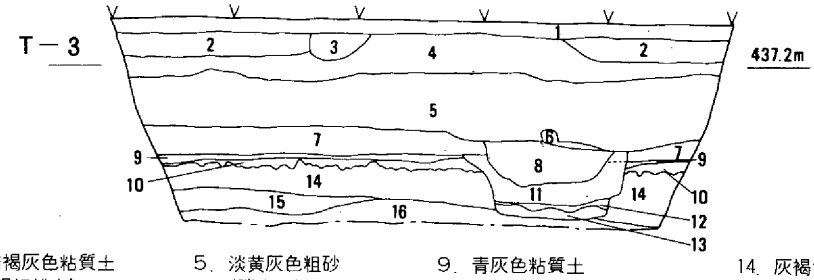
第18図　C散布地トレンチ設定図（$\frac{1}{2,000}$）



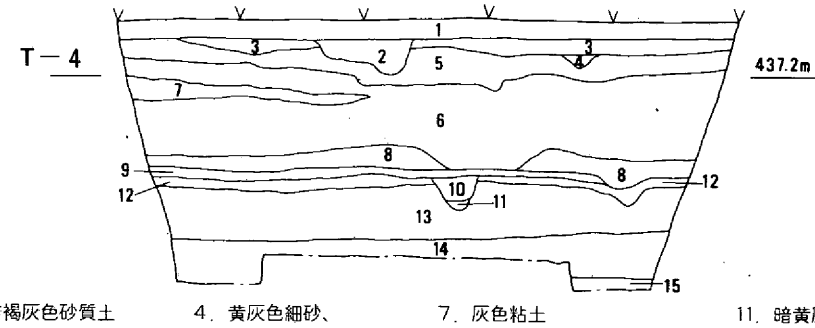
1．暗灰色粘質土
（現水田耕土）
2．暗褐灰色砂質土
3．暗灰色砂質土
4．灰黒色砂質土
（下端にFe含）
5．褐灰色細砂
6．灰色細砂
（下端は明確に線は引けない）
7．灰白色粗砂
8．暗褐灰色粗砂（5～30cmの礫含）
9．淡褐灰色粗砂
（5～10cmの礫多）
10．灰白色粗砂



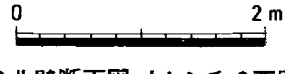
1．暗灰色粘質土
（現水田耕土）
2．暗褐灰色砂質土
3．黒灰色砂質土
4．灰黒色砂質土
5．灰色細砂
6．黄灰色粗砂
（10～30cmの礫多）
7．灰黄色粗砂
（10～30cmの礫多）



1．暗褐灰色粘質土
（現畑耕土）
2．淡褐灰色砂質土
3．褐灰色砂質土
4．暗灰色粘質土、灰褐色
砂質土（造成土）
5．淡黄灰色粗砂
（礫多い）
6．灰色粘土
7．暗灰色粘質土
（旧水田耕土）
8．暗青灰色粘質土（溝）
9．青灰色粘質土
10．淡青灰褐色砂質土
（下部にFe沈着）
11．青灰色砂質土（溝）
12．黄灰白色粗砂（溝）
13．黒灰褐色粘質土（溝）
14．灰褐色砂質土
（小礫含）
15．青灰色微砂
16．灰黄橙色粗砂



1．暗褐灰色砂質土
（現畑耕土）
2．褐灰色砂質土
3．暗灰色砂質土
（造成土）
4．黄灰色細砂、
褐灰色砂質土
5．淡褐灰色砂質土、
黒灰色砂質土（造成土）
6．淡黄灰色粗砂（10～50cmの礫多）
7．灰色粘土
8．暗灰色粘質土（旧水田耕土）
9．青灰色砂質土
10．暗青灰色砂質土（溝）
11．暗黄灰色粗砂
12．青灰褐色砂質土
13．灰褐色砂質土
14．黄青灰白色微砂
15．黄灰白色細砂



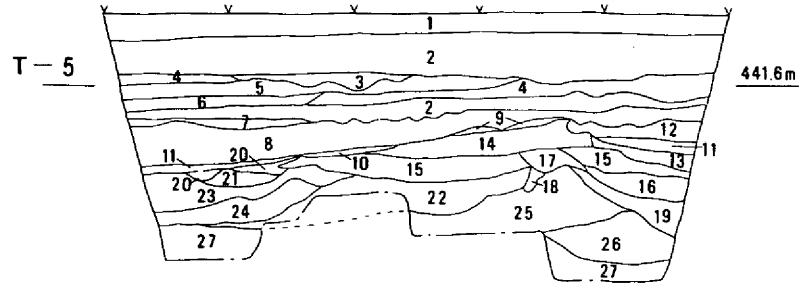
第19図　C散布地トレンチ1、3北壁断面図、トレンチ2西壁断面図、トレンチ東壁断面図（$\frac{1}{60}$）

少量の近世・近代陶磁器片が出土したのみである。

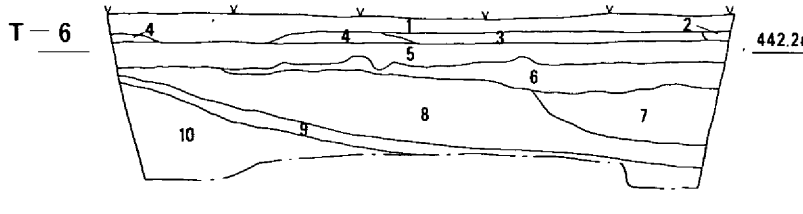
トレンチ６（第20図、図版９－８）

最深部で約140cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約40cmから大きな礫を含む粗砂が堆積している。遺構は検出されず、遺物も中世備前焼擂鉢片（第21図19）が出土したのみである。

以上のように、今回の調査においてはすべてのトレンチで古い遺構は検出されず、出土した遺物も周辺からの流れ込みと考えられるものであった。当該地帯はかつては谷部あるいは三倉川の氾濫原であったと考えられる。



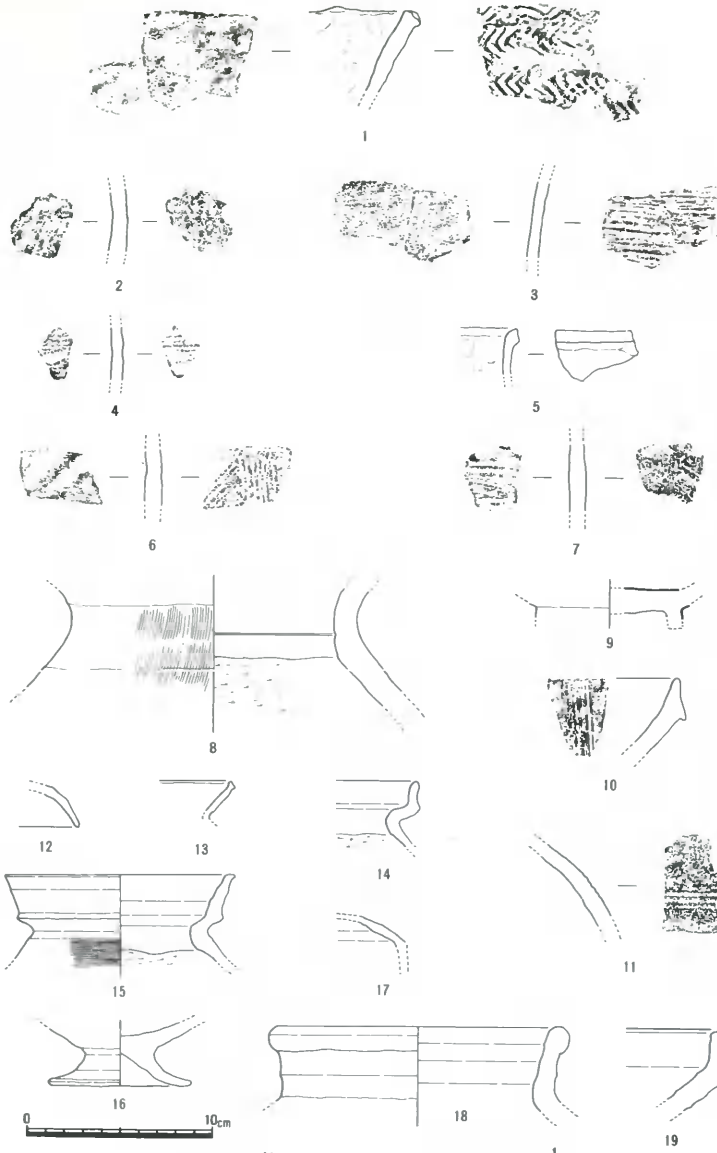
1．暗灰色砂質土（現畑耕土）
2．褐灰色砂質土（黄色粘土ブロック混り造成土）
3．淡褐灰色砂質土（黄色粘土ブロック混り造成土）
4．暗褐灰色砂質土（黄色粘土ブロック混り造成土）
5．灰黒色砂質土（黄色粘土ブロック少量含造成土）
6．黒灰色砂質土（黄色粘土ブロック含造成土）
7．灰黄色粘土（造成土）
8．灰黄色粘土（暗灰色粘土ブロック少量含）
9．暗灰色砂質土（黄色粘土少量含）
10．暗青灰色砂質土
11．暗灰色砂質土
12．灰黄色粘質土（造成土）
13．暗黄灰色粗砂
14．暗灰色砂質土（旧水田耕土）
15．褐灰色砂質土
16．灰色砂質土
17．暗灰色微砂
18．灰色砂質土（灰白色微砂ブロック含）
19．暗褐灰色砂質土（灰白色微砂ブロック含）
20．黄橙色砂質土
21．灰褐色砂質土
22．黒灰色砂質土
23．黄灰白色砂質土
24．灰黒色砂質土、黄灰色砂質土
25．灰褐色砂質土
26．灰黒色砂質土
27．褐灰白色礫混り粗砂（10～30cmの礫多）



1．暗灰色砂質土（現畑耕土）
2．灰黒色砂質土
3．灰黒色砂質土（黄色粘土ブロック含）
4．灰色砂質土（黄色粘土ブロック含）
5．灰色砂質土
6．暗灰色砂質土
7．灰黒色粘質土
8．黒灰色礫混り粗砂
9．黄褐灰色粗砂
10．灰黄色礫混り粗砂（10～20cmの礫含）

0　2m

第20図　C散布地トレンチ５西壁断面図、トレンチ６南壁断面図（$\frac{1}{60}$）



第21図　トレンチ出土遺物実測図（$\frac{1}{3}$）

第4章　ま　と　め

今回確認調査を実施した遺跡は、真庭郡湯原町種に所在する桑瀬遺跡および3ケ所の散布地である。調査の目的は、当該遺跡周辺の水田、畑、牧草地の土地改良総合整備事業（三野瀬地区）が計画されているのに伴い、工事施行前に遺跡の規模、状況等を確認し、保護・保存のための基礎資料を作成することであった。

これらの遺跡は、従来土器や鉄滓の散布が確認されていたものであるが、いずれも遺跡の実態については明確でなかった。今回の調査は、対象となったのが土地改良総合整備事業の実施が予定されている地域に限られるという制約があったが、当該地域の遺跡の状況についての資料を得ることができた。

桑瀬遺跡については、各トレンチにおいて遺構は検出されなかった。遺物は、当該地域で最も高い部分に位置するトレンチ6、7、8において縄文時代早期および後～晩期の土器片が少量出土しているが、いずれも現耕作土中からの出土であり、遺物包含層は確認されなかった。また、鉄滓についても同様に現耕作土中から少量出土したのみである。以上のように、今回調査を実施した土地改良総合整備事業予定地域内には遺物は出土するものの遺構および遺物包含層は存在しないものと考えられる。しかしながら周辺の丘陵上に縄文時代の生活跡の存在の可能性は考えられるであろう。

A散布地については、各トレンチにおいて周辺からの流れ込みと考えられる遺物が少量出土したものの、遺構および遺物包含層は確認されなかった。土地改良総合整備事業予定地域は谷部および三倉川の氾濫原にあたるものと考えられる。なお、トレンチ4の南方の丘陵裾部には、鉄滓や製鉄炉壁の多量の散布や平坦な地形から製鉄跡の存在が考えられる。

B散布地についても、各トレンチにおいて、周辺からの流れ込みと考えられる遺物が少量出土したものの、遺構および遺物包含層は確認されなかった。A散布地と同様に当該地は谷部および三倉川の氾濫原にあたるものと考えられる。

C散布地についても同様に、各トレンチでは周辺からの流れ込みと考えられる遺物が少量出土したものの古い遺構および遺物包含層は確認されず、当該地は谷部および三倉川の氾濫原にあたるものと考えられる。

以上、今回の桑瀬遺跡ほか3ケ所の散布地の確認調査においては、少量の遺物は出土したものの遺構、および遺物包含層は確認されなかった。

図版1

1.　桑瀬遺跡遠景（西から）

2.　桑瀬遺跡遠景（東から）

図版２

1.　A散布地風景（トレンチ1～3の周辺）（北から）

2.　A散布地遠景（トレンチ４、５の周辺）（北から）

図版3

1.　B散布地遠景（北から）

2.　C散布地遠景（西から）

図版4

1.　桑瀬遺跡 T－1（北西から）

2.　桑瀬遺跡 T－2（北西から）

3.　桑瀬遺跡 T－3（北西から）

4.　桑瀬遺跡 T－4（南西から）

5.　桑瀬遺跡 T－5（南西から）

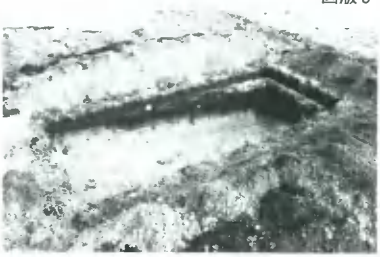
6.　桑瀬遺跡 T－6（北西から）

7.　桑瀬遺跡 T－7（北西から）

8.　桑瀬遺跡 T－8（南西から）

図版5

1.　桑瀬遺跡 T－9（北西から）



2.　桑瀬遺跡 T－10（北西から）

3.　桑瀬遺跡 T－11（南西から）

4.　桑瀬遺跡 T－12（北西から）

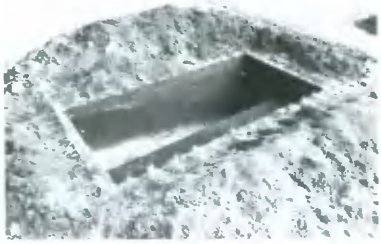
5.　桑瀬遺跡 T－13（南西から）

6.　桑瀬遺跡 T－14（北西から）

7.　桑瀬遺跡 T－15（北西から）

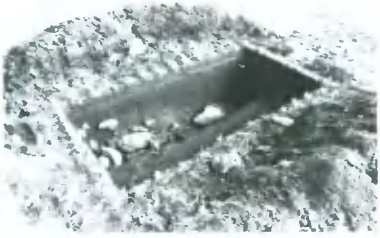
8.　桑瀬遺跡 T－16（南西から）

図版6



1.　桑瀬遺跡 T－17（北西から）

2.桑瀬遺跡 T－18（南西から）

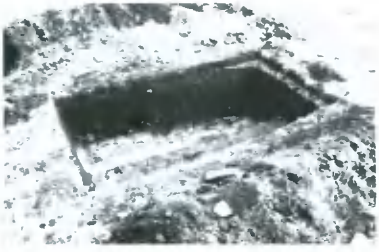


3.　桑瀬遺跡 T－19（北西から）

4.　桑瀬遺跡 T－20（北西から）

5.　桑瀬遺跡 T－21（南西から）

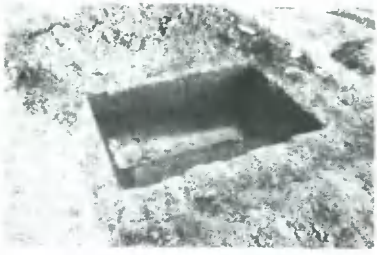
6.　桑瀬遺跡 T－22（南西から）



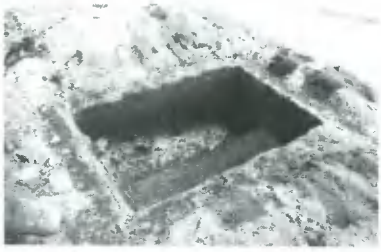
7.　桑瀬遺跡 T－23（北西から）

8.　桑瀬遺跡 T－24（北西から）

図版7



1.　桑瀬遺跡 T－25（北西から）

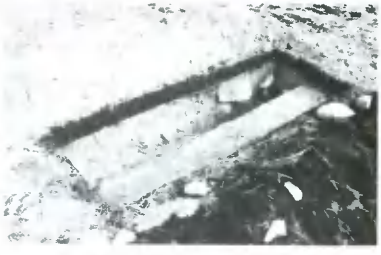


2.　桑瀬遺跡 T－26（北西から）

3.　桑瀬遺跡 T－27（南西から）

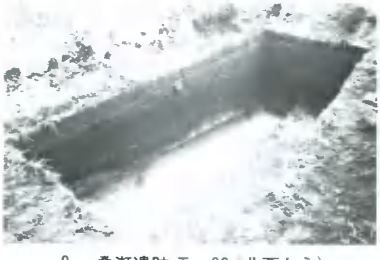
4.　桑瀬遺跡 T－28（北西から）

5.　桑瀬遺跡 T－29（北西から）



6.　桑瀬遺跡 T－30（北西から）

7.　桑瀬遺跡 T－31（北西から）



8.　桑瀬遺跡 T－32（北西から）

図版8

1.　桑瀬遺跡 T－33（北西から）

2.　桑瀬遺跡 T－34（南西から）

3.　A散布地 T－1（南西から）

4.　A散布地 T－2（南西から）

5.　A散布地 T－3（南西から）

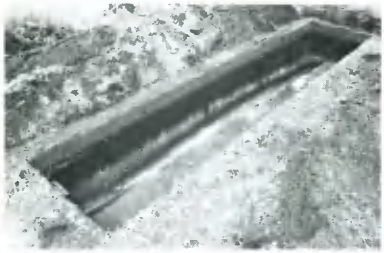
6.　A散布地 T－4（南西から）

7.　A散布地 T－5（北東から）

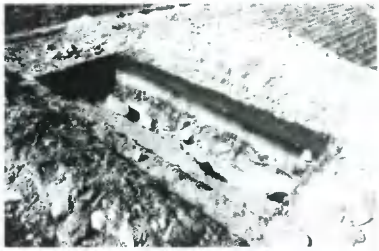
8.　B散布地 T－1（北西から）

図版9

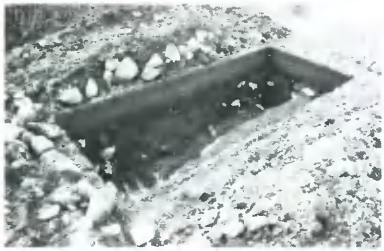
1.　B散布地 T－2（西から）



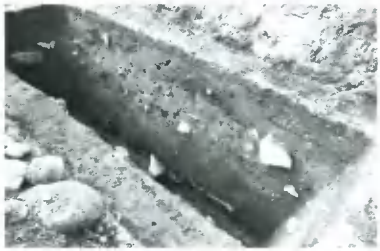
2.　B散布地 T－3（南東から）



3.　C散布地 T－1（南東から）



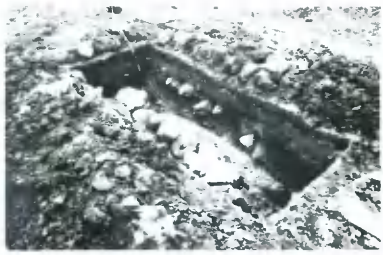
4.　C散布地 T－2（南東から）



5.　C散布地 T－3（南東から）

6.　C散布地 T－4（南西から）

7.　C散布地 T－5（南東から）



8.　C散布地 T－6（北西から）

図版10

1.　B散布地トレンチ3発掘風景（南東から）

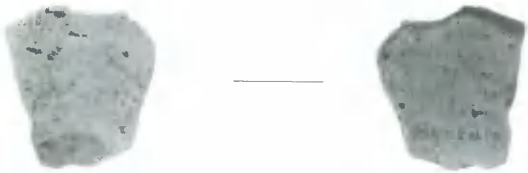
2.　C散布地トレンチ1、2発掘風景（南西から）

図版11

桑瀬遺跡　T－6（第21図6）

桑瀬遺跡　T－7（第21図3）

桑瀬遺跡　T－8（第21図6）



桑瀬遺跡　T－8（第2図7）

桑瀬遺跡　T－7
（第21図2）

桑瀬遺跡　T－7
（第21図4）

桑瀬遺跡　T－7
（第21図5）

トレンチ出土遺物（1）

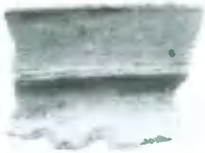
図版12

桑瀬遺跡　T－1
（第21図９）

桑瀬遺跡　T－11
（第21図10）

桑瀬遺跡　T－34
（第21図11）

C散布地　T－3
（第21図18）



A散布地　T－3（第21図15）

桑瀬遺跡　T－7

B散布地　T－2（第21図16）

トレンチ遺物　2

A散布地　T－4

土佐貝塚ほか

例　　言

1. 本書は岡山県教育委員会が、邑久町千町平野における県営圃場整備事業に伴い、昭和61年度国庫補助を受けて実施した「土佐貝塚」ほか７遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 遺跡は邑久郡邑久町本庄ほかに所在する。
3. 発掘調査は専門委員の指導、助言を得て、岡山県古代吉備文化財センター職員高畑知功が昭和61年11月10日から11月25日まで、山磨康平が12月１日から62年１月31日まで実施した。
4. 発掘調査にあたっては、邑久町役場、邑久町教育委員会、地権者関係各位から多大な援助を受けた。
5. 本報告書の作成は、文化財センター職員諸氏の協力を得、高畑が、土佐貝塚、散布地（No. 268）の項、その他を山磨が担当した。
6. 出土遺物、実測図、写真等は文化財センター（岡山市西花尻 1325－3）に一括保存している。
7. 本書に使用した数値は海抜高である。方位は、第１、２、５、６、７、13、17、22、26図が真北、他は磁北である。
8. 本書の第２、５図に使用した地形図は建設省国土地理院発行の 25000 分の１地形図（備前、瀬戸、西大寺、片上、牛窓）を複製したものである。

目　　次

例　言
目　次
第１章　地理的、歴史的環境……61
第２章　調査の経緯……69
第３章　発掘調査の概要……71
第４章　まとめ……101

図　目　次

第１図　土佐貝塚ほか位置図……61
第２図　周辺遺跡分布図（１／40,000）……62・63
第３図　佐山東山奥窯跡採集資料（１／４）……65
第４図　土佐貝塚ほか位置図（１／5,000）……72
第５図　土佐貝塚、散布地（No.268）トレンチ位置図（１／3,000）……73
第６図　土佐貝塚Ｔ－１、２、３平・断面図（１／60）……74
第７図　土佐貝塚Ｔ－４、５、６平・断面図（１／60）……75
第８図　土佐貝塚Ｔ－７、散布地（No.268）Ｔ－８、９平・断面図（１／60）…76
第９図　散布地（No.268）Ｔ－10、11、12平・断面図（１／60）……77
第10図　散布地（No.268）Ｔ－13、14、散布地（No.266）Ｔ－15平・断面図
（１／60）……78
第11図　散布地（No.266）、石仏貝塚トレンチ位置図（１／3,000）……79
第12図　散布地（No.266）、Ｔ－16、17、18平・断面図（１／60）……80
第13図　散布地（No.266）、Ｔ－19、20、21平・断面図（１／60）……81
第14図　散布地（No.266）、Ｔ－22、23、石仏貝塚Ｔ－24平・断面図（１／60）…82
第15図　佐井田東、佐井田北貝塚トレンチ位置図（１／3,000）……83
第16図　石仏貝塚Ｔ－25、26、佐井田東貝塚Ｔ－27平・断面図（１／60）……84
第17図　佐井田東貝塚Ｔ－28、佐井田北貝塚Ｔ－29、30平・断面図（１／60）……85
第18図　佐井田北貝塚Ｔ－31、32扇の端散布地Ｔ－33平・断面図（１／60）……86
第19図　扇の端散布地Ｔ－35、36、37平・断面図（１／60）……87
第20図　扇の端散布地トレンチ位置図（１／3,000）……88

第21図　扇の端散布地T−38、39、40平・断面図（1／60）…… 89
第22図　扇の端散布地T−41、42、43平・断面図（1／60）…… 90
第23図　扇の端散布地T−44、45、48平・断面図（1／60）…… 91
第24図　熊山田散布地トレンチ位置図（1／3,000）…… 93
第25図　熊山田散布地T−46、47、49平・断面図（1／60）…… 94
第26図　熊山田散布地T−50、51、52平・断面図（1／60）…… 95
第27図　熊山田散布地T−53、54、55平・断面図（1／60）…… 96
第28図　熊山田散布地T−56、57、58、59平・断面図（1／60）…… 97
第29図　出土遺物1（1／4）…… 98
第30図　出土遺物2（1／4）…… 99
第31図　出土遺物3（1／4）……100

図　版　目　次

図版1－1　土佐貝塚遠景（南から）
図版1－2　散布地（No.268）遠景（西から）
図版2－1　扇の端散布地遠景（東から）
図版2－2　熊山田散布地遠景（邑久町立病院から北方向）
図版3－1　熊山田散布地遠景（北から）
図版3－2　石仏貝塚遠景（西から）
図版3－3　散布地（No.266）遠景（南から）
図版4－1　佐井田東貝塚（手前）土佐貝塚（上手）遠景（南西か）
図版4－2　佐井田北貝塚遠景（南東から）
図版4－3　散布地（No.266）埋戻し風景
図版5－1　土佐貝塚T－1（南々西から）
図版5－2　土佐貝塚T－2（西北西から）
図版5－3　土佐貝塚T－3（北西から）
図版5－4　土佐貝塚T－4（南西から）
図版5－5　土佐貝塚T－5（南西から）
図版5－6　土佐貝塚T－6（南西から）
図版5－7　土佐貝塚T－9（北西から）
図版5－8　土佐貝塚T－7（南西から）

図版６－１　散布地（No.268）Ｔ－８（西から）
図版６－２　散布地（No.268）Ｔ－９（南西から）
図版６－３　散布地（No.268）Ｔ－10（西から）
図版６－４　散布地（No.268）Ｔ－11（西から）
図版６－５　散布地（No.268）Ｔ－13（南々東から）
図版６－６　散布地（No.266）Ｔ－15（南東から）
図版６－７　散布地（No.266）Ｔ－15（東から）
図版６－８　散布地（No.266）Ｔ－16（南東から）
図版７－１　散布地（No.266）Ｔ－17（南東から）
図版７－２　散布地（No.266）Ｔ－18（南東から）
図版７－３　散布地（No.266）Ｔ－19（南東から）
図版７－４　散布地（No.266）Ｔ－20（南東から）
図版７－５　散布地（No.266）Ｔ－21（北西から）
図版７－６　散布地（No.266）Ｔ－22（南東から）
図版７－７　散布地（No.266）Ｔ－23（南東から）
図版７－８　石仏貝塚　Ｔ－24（南東から）
図版８－１　石仏貝塚　Ｔ－25（南東から）
図版８－２　石仏貝塚　Ｔ－26（南西から）
図版８－３　佐井田東貝塚　Ｔ－27（南東から）
図版８－４　佐井田東貝塚　Ｔ－28（北西から）
図版８－５　佐井田北貝塚　Ｔ－29（南西から）
図版８－６　佐井田北貝塚　Ｔ－30（北東から）
図版８－７　佐井田北貝塚　Ｔ－31（南から）
図版８－８　佐井田北貝塚　Ｔ－32（北から）
図版９－１　扇の端散布地　Ｔ－33（西から）
図版９－２　扇の端散布地　Ｔ－35（西から）
図版９－３　扇の端散布地　Ｔ－36（南から）
図版９－４　扇の端散布地　Ｔ－37（北西から）
図版９－５　扇の端散布地　Ｔ－37（北東から）
図版９－６　扇の端散布地　Ｔ－38（南東から）
図版９－７　扇の端散布地　Ｔ－39（南東から）
図版９－８　扇の端散布地　Ｔ－40（西から）
図版10－１　扇の端散布地　Ｔ－41（南東から）

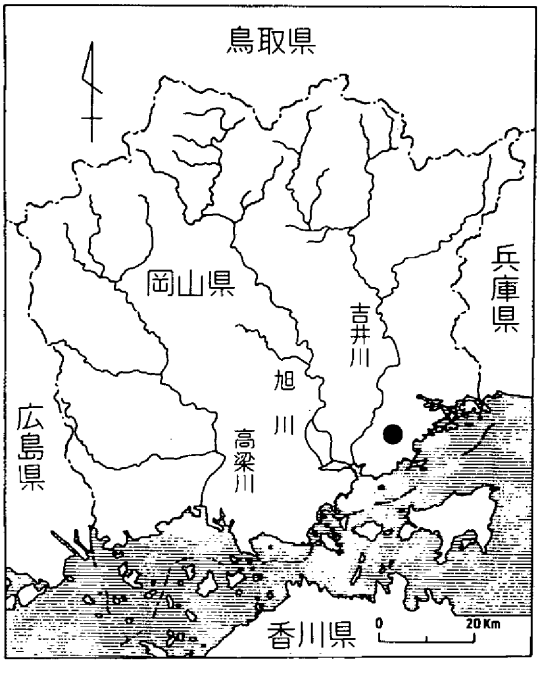
図版10－2　扇の端散布地　T－42（南東から）
図版10－3　扇の端散布地　T－43（南東から）
図版10－4　扇の端散布地　T－43（東から）
図版10－5　扇の端散布地　T－44（北東から）
図版10－6　扇の端散布地　T－44（北東から）
図版10－7　扇の端散布地　T－45（南西から）
図版10－8　扇の端散布地　T－48（南東から）
図版11－1　熊山田散布地　T－46（北西から）
図版11－2　熊山田散布地　T－47（南から）
図版11－3　熊山田散布地　T－49（南西から）
図版11－4　熊山田散布地　T－50（南西から）
図版11－5　熊山田散布地　T－51（南から）
図版11－6　熊山田散布地　T－52（東から）
図版11－7　熊山田散布地　T－53（南西から）
図版11－8　熊山田散布地　T－53（東から）
図版12－1　熊山田散布地　T－54（東から）
図版12－2　熊山田散布地　T－54（南から）
図版12－3　熊山田散布地　T－55（南西から）
図版12－4　熊山田散布地　T－56（南西から）
図版12－5　熊山田散布地　T－57（東から）
図版12－6　熊山田散布地　T－58（南から）
図版12－7　熊山田散布地　T－59（南西から）
図版12－8　熊山田散布地　T－59（北西から）
図版13　土佐貝塚ほか出土　硯、青磁、瓦器ほか
図版14－1　土佐貝塚ほか出土　須恵器
図版14－2　土佐貝塚ほか出土　備前焼

表　目　次

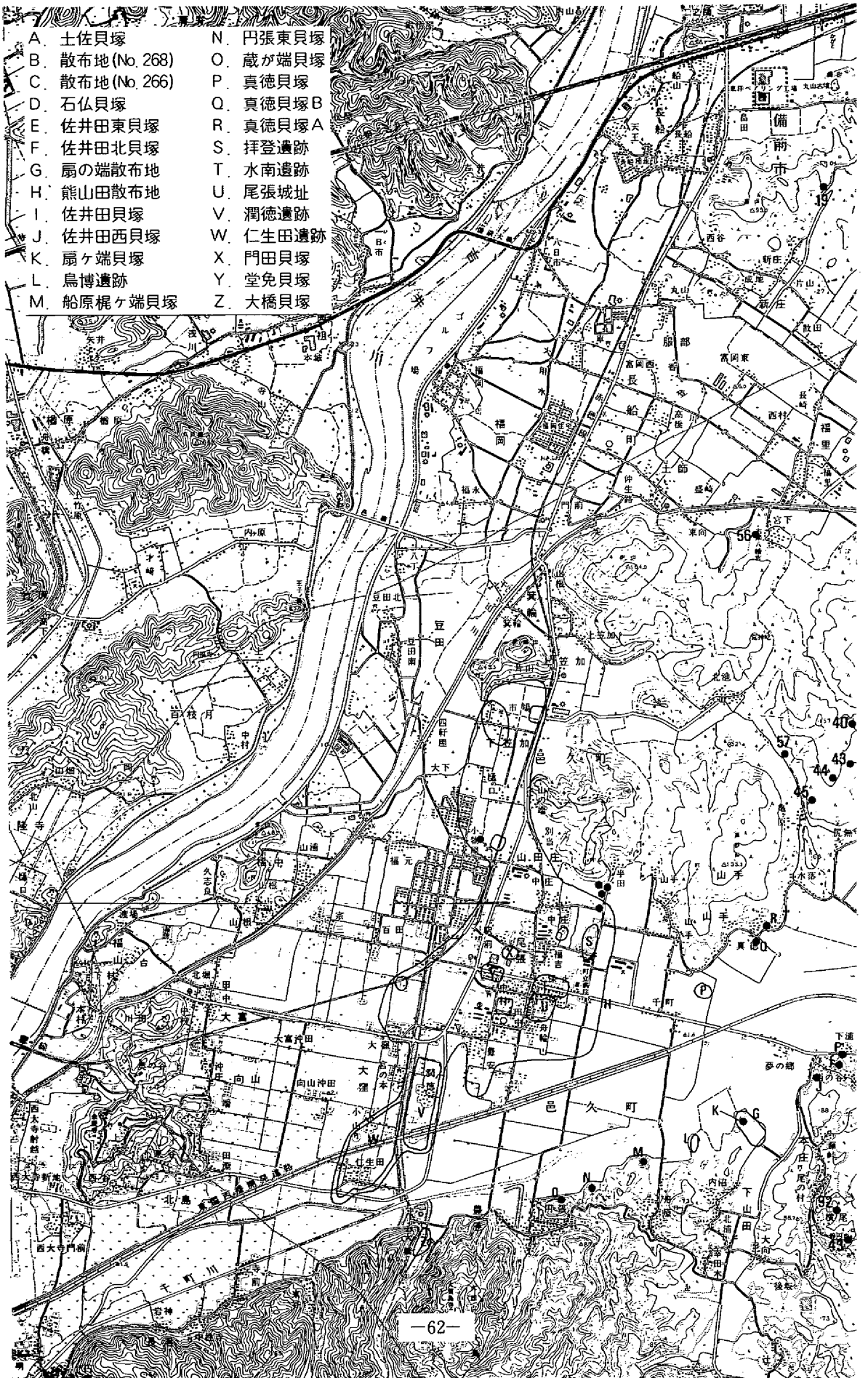
表－1　周辺主要遺跡一覧表……66
表－2　トレンチ調査一覧表……102
表－3　土佐貝塚ほか遺物観察表……103

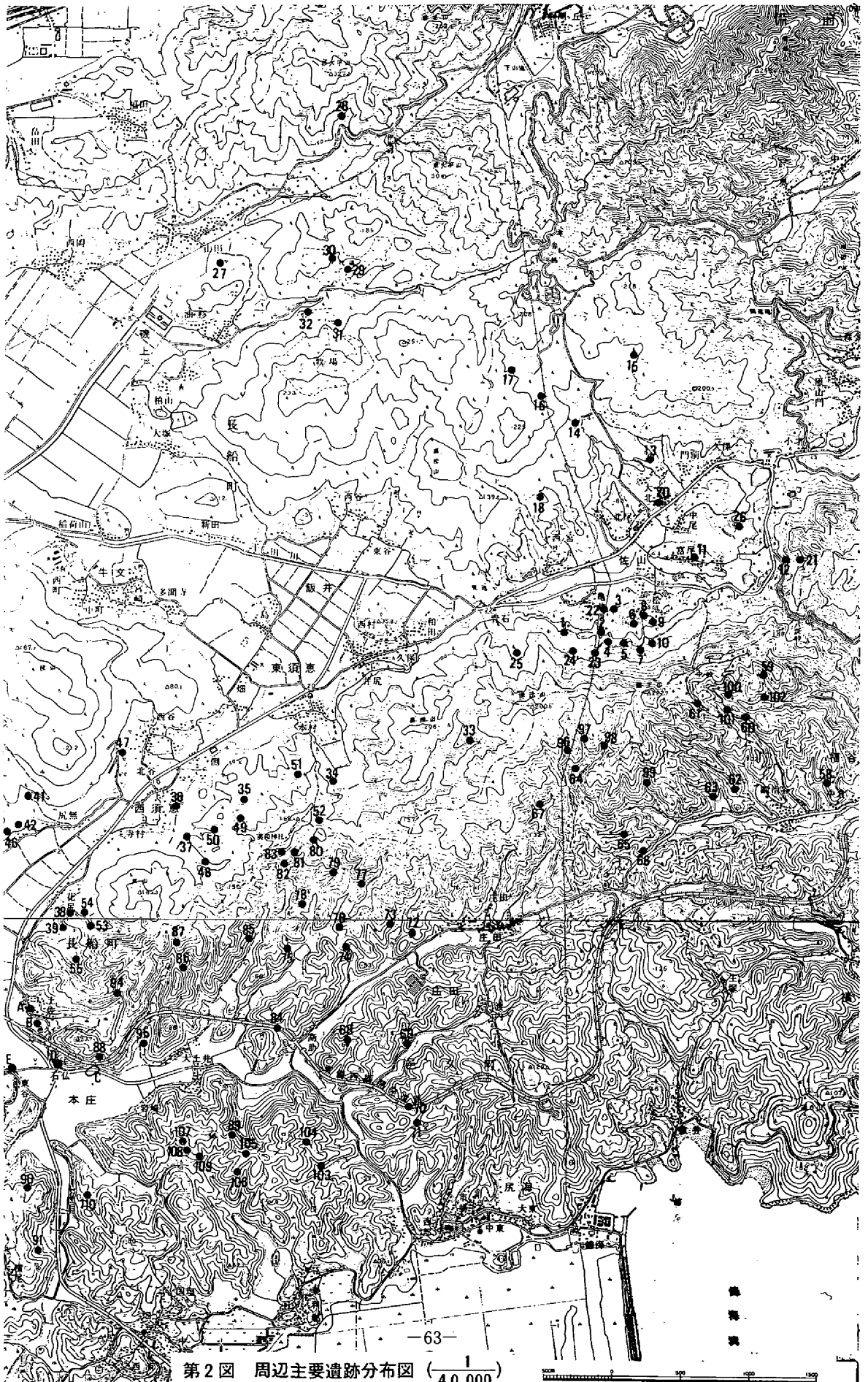
第1章　地理的…歴史的環境

岡山県をほぼ南北に流れる三大河川のひとつ、吉井川はその中流域・下流域で肥沃な沖積平野を形成し、とりわけ、この長船町・邑久町に至ると、その川幅もひときわ広くなり瀬戸内海へ注ぐ。この平野部にば、この吉井川の沖積作用によって低沖積地が形成され、自然堤防上には数多くの遺跡が点在する。瀬戸内海は古くは、現在の干町平野と呼ばれるこの沖積平野の中ほどまで入りこんでいたが、活発化した沖積作用によって急速に陸化されていった。この時期には，平野部縁辺の丘陵裾部には数多くの貝塚が形成され、いわゆる干潟の貝を伴う主かん貝塚が確認されている。中でも縄文時代前期に比定される大橋貝塚では人骨が出土したり、貝層とそれに伴って縄文式土器が多数確認されている。一方、陸化によって生じた沖積地の微高地には弥生時代前期から人々の居住が開始され、稲作に適したこの沖積平野の人口の増大を推定できる。この段階では幾筋もの河道が吉井川本流から派生していたものと考えられ、その河道は古代人の稲作に欠くべからざる存在として、彼らの生活を根底から支えたことが想像される。この平野部を中心とした地域では第2図に掲げるように弥生時代から古墳時代にかけての集落が連綿として営まれ、部分的には奈良・平安、中世に至って存続したことが、近年明らかにされつつある。1982年調査が実施された尾張助三畑遺跡では、弥生時代中期から近世にかけての遺構が検出され、これらに伴って多量の出土遺物が得られた。ことに、弥生時代中期の灌漑水路と思われる溝は規模も大きく、その数も四条に及ぶ。門田貝塚の立地する海抜約2ｍほどの微高地上に数多くの集落が存在することが明らかにされた。先述の助三畑遺跡・月の木遺跡がその一部が調査対象となって、各々成果を収めている。これらの遺跡はほぼ南北に弧状に連なり、一連の自然堤防上の遺跡群のまとまりを示している。これらの遺跡と門田貝塚の相違する点は無論、貝塚を伴うことにあり、更に弥生時代後期から古墳時代にかけての製塩土器が多く出土していることである。前者・後者ともに当時の海岸線との遠からぬ距離をある程度示しているといえる。



第1図　土佐貝塚ほか位置図


A. 土佐貝塚
B. 散布地(No. 268)
C. 散布地(No. 266)
D. 石仏貝塚
E. 佐井田東貝塚
F. 佐井田北貝塚
G. 扇の端散布地
H. 熊山田散布地
I. 佐井田貝塚
J. 佐井田西貝塚
K. 扇ヶ端貝塚
L. 鳥博遺跡
M. 船原梶ヶ端貝塚
N. 円張東貝塚
O. 蔵が端貝塚
P. 真徳貝塚
Q. 真徳貝塚B
R. 真徳貝塚A
S. 拝登遺跡
T. 水南遺跡
U. 尾張城址
V. 潤徳遺跡
W. 仁生田遺跡
X. 門田貝塚
Y. 堂免貝塚
Z. 大橋貝塚
備前市
福岡
豆田
邑久町
山田庄
大窪
千町



第2図　周辺主要遺跡分布図（$\frac{1}{40,000}$）

弥生時代中期になると、平野部だけでなく、周辺の丘陵部にも集落が形成され始める。また、古墳時代になると古墳の造営も始まり、平野部の集落もまた発展し後期に至って寒風窯址群どでは須恵器生産が開始され、恵まれた陶土と薪材を背景に、奈良時代に至るまで発展的に存続する。門田貝塚所在地は、奈良時代の邑久郡の中心地である尾張郷で、交通に至便かつ、安定した集落形成地として連綿と続いたことが推察される。ことに、中世に至ると、この傾向は一層強まり、集落の規模・性格を変質させつつも、前述の助三畑遺跡でも明らかにされた中世集落の一端にみられる、畿内からの瓦器の移入、青・白磁等の中国からの交易による輸入など出土遺物の豊富さと多様さがみられるようになる。現在に至ってもこの地では、交通網の中心地でもあり、邑久町の中心地をなしているのは、その地勢の優位性によるところが大であるといえるかもしれない。

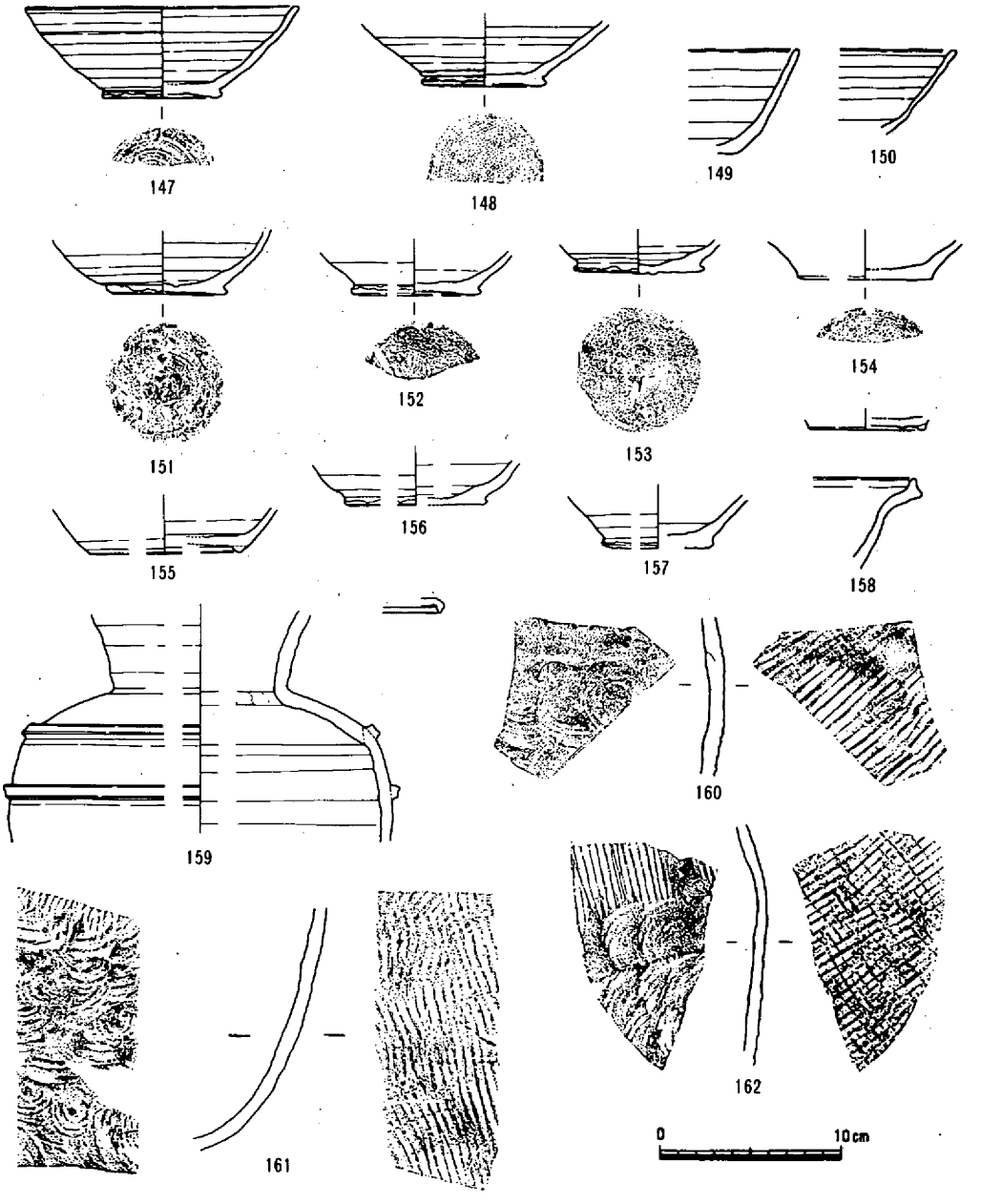
なお、第３図に掲載した須恵器は、佐山東山（カマガタ）奥窯跡採集のものである。従来から周知されている県道沿いの東山窯から約50ｍ程奥に入った谷斜面に灰原が広がっている。採集品には、椀、高台付杯、片口鉢、壷（双耳壷）、甕等の器種が見られる。これらの出土遺物は吉備地方の古代後半期の須恵器編年の空白を埋める資料とみられ、また、今回の土佐貝塚ほかの確認調査に基づく出土遺物等の時期決定にも有効な判断材料となるものであろう。

出土遺物の全般的な特徴は、椀形土器の底部が明瞭な平高台をなし、端部が突出した形状をなすものが多い。口縁部は直線的に立上るものが多く、端部は丸味を持つ。底部調整は、糸切りを主とし、一部にヘラ切り調整も共伴する。高台付杯は高台が退化し、きわめて低く底端部に削出し風にわずかに貼付けられている。底部はヘラ削り調整である。甕形土器の体部外面は、明瞭な格子目タタキと、平行タタキに近い不明瞭な格子目タタキが多い。

これらを邑久古窯群中の平安時代後半とされる佐山光明見窯や、油杉窯の椀形土器と比較すると、当資料が口縁部の立上りや底部の造り等がより古い様相を持つものとみられる。また、県北の勝間田焼窯中、最古とされる戸岩窯との比較からもより古く位置づけされよう。

時期については、勝間田焼窯の調査例や編年観から、戸岩窯を11世紀後半に位置づけされており、また、邑久古窯群中の油杉窯でも同じく11世紀後半に位置づけされていること、さらに、近隣の播磨の諸窯や、讃岐の諸窯の年代観から、ここでは一応、11世紀前半（もしくは10世紀後半から）の時期を目安としておきたい。

本章は、岡田博『門田貝塚』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告55・1983年の第１章を掲載したものである。なお、後半の採集資料の項は山磨が行った。



第３図　佐山東山奥窯跡採集資料（$\frac{1}{4}$）

表－１の分布図は、時実黙水氏の多年にわたる踏査資料を基に『寒風古窯址群』1978　岡山県教育委員会、に時実、山磨作成として掲載した資料に、その後の資料を加え、修正・補足したものである。

表－1　周辺主要遺跡一覧表

番号	名称	所在地	時代	地目	立地	遺跡概況	出土品
備前市							
1	新池（山外地）	佐山　亀井戸	奈良	山林	谷斜面	新池の南東岸から谷にかけて2基	須恵器，窯壁片
2	根切池谷	〃　〃	〃	池，山林	谷	根切池および東の小溜池内より土器片	〃　〃
3	大城池（古池）	〃　大城池	〃	池	谷斜面	古池の中に灰原露出	〃
4	大城谷	〃　大城谷		畑	丘陵斜面	林道より北のブドウ畑中	〃，窯壁片
5	長ぶろ	〃		〃	〃	林道より南のブドウ畑中2基	〃
6	城ヶ谷池（上池）	〃	奈良	池	谷	東岸南部よりに土器片	〃，窯壁片
7	城ヶ谷	〃		山林，道	丘陵斜面	林道崖面に灰原露出	〃
8	赤池内	〃　赤池		山林	〃	赤池の南の松林の付近に窯壁破片	〃　〃窯壁片
9	赤池	〃　〃		池	〃	赤池の中に灰原露出，東～南岸の範囲	〃
10	赤池谷	〃　赤池谷		山林	谷	赤池上方の小溜池に土器片散布	〃，窯壁片
11	富尾	〃　富尾	奈良	宅地	丘陵斜面	重成氏宅の背後の崖に窯が露出	〃
12	東山（やまがた）	〃	平安	山林	谷	釜方池の上方の谷	〃，窯壁片
13	小屋谷	〃　大北		〃	丘陵斜面	（3基A～C）	〃　〃
14	おうろぐち	〃		山林，畑	〃	おうろぐち池の荒手の下	〃　〃
15	高良谷	〃	平安	山林	谷		〃
16	元山	〃	〃	〃	丘陵斜面		〃
17	宝蔵池（光明見）	〃	〃	〃	〃	窯の本体の一部が露出	〃
18	天神	佐山天神	平安	谷川		窯の本体は上流	〃，窯壁片
19	宝万坂	新庄	〃	山林，道	丘陵斜面	新庄より香登に越える峠道	〃，瓦
20	宅地裏	佐山　大北	平安？	田		2基（東西）	〃
21	東山奥	〃	平安後	山林	谷		〃，窯壁片
22	大城谷(南北)	〃　亀井戸	奈良	山林，田	斜面	2基	〃，陶棺
23	根切池谷奥	〃　〃	奈良～平安	山林	〃		〃，窯壁片
24	荒神池谷	〃	〃	池		窯本体は奥	〃　〃
25	青石の南谷	〃　青石		池		〃	〃　〃
26	吉田池	〃	平安	池			
長船町							
27	生砂	磯上，山田	奈良	山林，墓地畑	丘陵端部	生砂池の北東部	須恵器，瓦，窯壁片
28	一ノ谷	〃　〃	奈良～平安	山林	〃	西太平山の南斜面3基	須恵器
29	高山1	〃　油杉	平安	牧場	丘陵	浅い谷に面した丘陵上	〃，瓦
30	高山2	〃　〃	〃	〃	丘陵斜面	23より面に谷一つへだてた南斜面	〃　〃
31	亀ヶ原	〃　〃	〃	山林	〃	標高219mの堂法山の北斜面	〃
32	赤井谷	〃　〃	〃	牧場，宅地	〃	宅地	〃，瓦
33	丸山（しょうぶ谷）	東須恵		山林	谷	三池の谷奥	〃，窯壁片
34	中池西	〃	飛鳥～奈良	〃	丘陵斜面	中池の西の斜面	〃　〃

番号	名称	所在地	時代	地目	立地	遺跡概況	出土品
35	擂鉢	西須恵		山林	丘陵斜面	擂鉢池の上手	須恵器，窯壁片
36	北谷	〃	飛鳥～奈良	山林，基地	〃	基地に灰原露出	〃　〃
37	どうかん	〃		山林	丘陵平担部	蓮池の南側	〃
38	青木（花尻1）	〃　花尻	飛鳥～奈良	〃	丘陵端部	佐府池の堤の西	〃，窯壁片
39	花尻南（花尻2）	〃　〃		〃	丘陵斜面	山道に灰原露出	〃　〃
40	桂山林道峠	〃	飛鳥～奈良	山林，道	丘陵尾根	林道崖面に灰原露出	〃　〃
41	北丘尼岩下	〃		〃	丘陵斜面	林道に窯本体露出	〃　〃
42	亥子田谷	〃		山林，田	〃	丘陵端部より田にかけて須恵器散布	〃
43	亥子田谷池	〃	古墳	山林	〃	亥子田谷の池尻に須恵器散布	〃
44	亀ヶ原	〃　亀ヶ原		〃	〃	窯址本体が露出	〃
45	亀ヶ原西	〃　〃		〃	〃		
46	尻無	西須恵尻無		畑	丘陵斜面		〃
47	桂山東斜面	西須恵　西谷		山林			〃，窯壁片
48	美和神社西斜面	〃　寺村		〃		池の上手	〃・〃
49		〃		〃			〃　〃
50		〃		〃	谷		〃　〃
51	東須恵	東須恵　本村		〃			〃　〃
52		〃　〃					
53	高山 No.53	西須恵　花尻	古墳	〃	斜面	池の上手	〃　〃
54	高山	〃　〃					
55		〃　〃		〃		池の上流	〃　〃
56	木鍋山1号	土師竹下	古墳		斜面		昭和50年調査
邑久町							
57	亀ヶ原西	西須恵，亀ヶ原		山林，田	丘陵斜面	亀ヶ原北方の小池付近に遺物散布	須恵器，窯壁片
58	大谷	福谷　中倉	平安	山林，畑	〃	西面する急傾斜地に窯体露出	〃
59	曇見谷	〃　曇見谷	奈良～平安	〃　〃	〃	同一谷に3基	〃，窯壁片
60	小馬様谷	福谷小馬様谷	平安	畑，道路	丘陵斜面	林道崖面に窯体露出	須恵器，窯壁片
61	花ヶ谷	〃　花ヶ谷	平安	畑	〃	120～130mの高地で眺望がよい	〃
62	谷田	〃　鍛冶谷		〃	〃		〃，窯壁片
63	西長尾谷	〃　西長尾谷	平安	〃	〃	南面する急傾斜地，開墾時に窯址出土	〃
64	奥池	〃		山林，池	谷斜面	池に灰原	〃，窯壁片
65	庄田谷	〃	奈良	畑	丘陵尾根	丘陵のやや平担面	〃
66	湯通	〃	〃	〃	丘陵端部	道路崖面に窯址露出	〃
67	朝井谷	庄田　朝井谷	平安	山林	丘陵斜面	朝井谷奥の南斜面	〃，窯壁片
68	国木坂	尻海　国木坂		山林，田	谷		〃
69	奥三谷	尻海	奈良	山林，道路田	丘陵端部	道路崖面に窯址露出	〃，窯壁片
70	奥更谷	尻海		道路	丘陵斜面	東備西播道で調査	〃　〃
71	更谷	尻海	飛鳥～奈良	山林，畑	〃	広い範囲に須恵器出土	〃　〃
72	墓山(西墓)	庄田		基	〃	山道に窯址露出	〃　〃
	びしょ	〃		山林，畑	〃		〃　〃
73	びしょ谷	〃		山林，畑	〃		〃　〃
74	土田	〃		〃	〃	かなり広範囲から須恵器出土	〃　〃

番号	名称	所在地	時代	地目	立地	遺跡概況	出土品
75	さざらし中池	尻海		山林	丘陵斜面	中池堤の西方	須恵器，窯壁片
76	さざらし奥池	尻海		山林，池	池の縁	一部池に水没 窯体露出（水面下に）	〃，窯壁片
77	さざらし	尻海		山林	谷の東斜面		〃
78	ばかぜ	尻海		〃	丘陵斜面		〃
79	天堤	尻海		〃	〃	良質の須恵器出土	〃
80	新山 (1)	尻海		〃	〃	S36年秋の大雨で灰原流失埋没	〃
81	〃 (2)	尻海	奈良	〃	谷	S36年秋の大雨で窯址流失	〃
82	〃 (3)	尻海		〃	丘陵斜面	山崩れにより窯址が現われている	〃
83	広高	尻海	飛鳥	〃	〃	美和神社神門，下方の山腹，古くより知られた窯址	〃
84	新林（宮山弱）	尻海	飛鳥～奈良	道路，山林	丘陵端部	東備西播道建設に伴い調査	須恵器，陶棺，鴟尾，窯址
85	構谷	尻海		山林	丘陵斜面		〃
86	かんにゃくば	本庄		〃	〃		〃
87	佐井田口	本庄佐井田口	飛鳥～奈良	〃	谷奥	標高130～140mの斜面に遺物散布	〃，窯壁址
88	猪のかき	〃		〃	谷	前面を有料道路によりふさがれた小谷	〃
89	切明	尻海		山林，畑	丘陵尾根	かなり広範囲に遺物散布	須恵器，鴟尾，窯壁方
90	六池	本庄		山林，池	谷斜面		〃，窯壁片
91	赤谷	〃		山林，池	〃	赤谷池普請のとき遺物が多量に出土	〃
92	横尾 1	〃		畑	丘陵斜面	宮内氏のブドウ畑	〃
93	〃 2	〃		道路	丘陵端部	静円寺裏山路傍，土取りにより消失	〃
94	源内容	本庄土佐		山林			須恵器，窯壁片
95	佐井田口	本庄佐井田口		畑			須恵器
96	奥池上	福谷		山林	谷		須恵器，窯壁片
97	〃	〃		〃	谷		〃　〃
98	〃	〃		〃	谷		〃　〃
99		〃					窯壁片
100		〃					
101	小馬様谷奥	〃 鍛冶谷		山林	谷		窯体，壁
102	ササナギ池	下寺	平安	池	谷		窯体，須恵器
牛窓町							
103	土橋	長浜	飛鳥～奈良	畑	丘陵斜面	かなり広範囲に土器片散布	須恵器，窯壁片
104	流尾	〃	〃	山林	〃	78の西方山腹	〃
105	平田	〃	〃	山林	谷		〃
106	かべら	〃	〃	〃	丘陵斜面		〃
107	寒風 1 号	〃	〃	〃	〃	2基確認	須恵器，陶棺，鴟尾塼
108	〃 2 号	〃	〃	畑	〃	1基 〃	〃　〃，(瓦)
109	〃 3 号	〃	〃	山林，田	〃	林道崖面に窯址露出1基	〃
110	古市村（だんがめ山）	〃	〃	山林	〃		〃

第2章　調査の経緯

第1節　調査に至る経緯

邑久郡邑久町千町平野において、県営圃場整備事業が計画されたのに伴い、昭和60年10月8日付けで東備地方振興局長より、文化財保護法第57条3にもとづく協議文書が岡山県教育委員会に提出された。内容は、整備事業計画における土佐貝塚、散布地（№268）、散布地（№266）、石仏貝塚、佐井田東貝塚、佐井田北貝塚、扇の端散布地、熊山田散布地の計8ケ所の遺跡の扱いについてである。

関係機関の協議の結果、岡山県教育委員会は、61年度国庫補助事業として、土佐貝塚ほか7遺跡の規模、状況の把握のため発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが実施した。発掘調査期間は、昭和61年11月10日から昭和62年1月31日である。

調査にあたっては専門委員の指導・助言を得た。また、邑久町役場、邑久町教育委員会をはじめ地権者等関係各位からは多大の御協力を得た。さらに、発掘作業に従事していただいた地元有志の方々にも協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。

第2節　調査体制および日誌抄

調査体制

専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　　橋本泰夫

総務課長　　佐々木清

調査課長　　河本　清

文化財保護主査　　山磨康平（調査担当）

文化財保護主任　　高畑知功（　〃　）

発掘作業員

有森万久、今田美代子、岩谷幸男、梶原小枝子、梶原達夫、児玉八重子、武久文子、正富和枝、正富定夫、正富孝子、正富都、横山澄、横山徳治、横山道子

日誌抄

昭和61年

11月10日（月）　器材搬入。トレンチ掘開開始。

11日（火）　扇の端散布地　T－35開始（弥生～奈良）。散布地（№268）　T－8終了。T－10掘開開始。

12日（水）　扇の端散布地　T－35掘り下げ終了。清掃、写真終了。散布地（№268）　T－8、11写真、実測終了。T－9、14掘開開始。T－10掘り下げ終了。

17日（月）　散布地（№268）　T－8、11埋戻し終了。T－9、14完掘。実測、写真終了。T－13掘開開始。扇の端散布地　T－35実測終了。

18日（火）　扇の端散布地　T－35埋戻し。散布地（№268）　T－13、14写真、実測終了。T－12掘開開始。T－9、10埋戻し。佐井田東貝塚　T－27掘開開始。土佐貝塚　T－7設定。

19日（水）　佐井田東貝塚　T－27写真、実測終了。散布地（№268）　T－9、10、14埋戻し終了。T－12掘開終了。写真、実測終了。土佐貝塚　T－7、6掘り下げ開始。

20日（木）　土佐貝塚　T－3、4掘開開始。T－6掘り下げ終了。T－7掘り下げ。溝検出、実測。散布地（№268）　T－12、13、14埋戻し終了。佐井田東貝塚　T－27埋戻し中。

21日（金）　土佐貝塚　T－1、2掘開開始。T－4掘り下げ中。T－6写真。T－7溝清掃、写真、実測。T－7完掘。

25日（土）　清掃、写真、実測、埋戻し。佐井田東貝塚　T－28設定。土佐貝塚　T－2完掘。T－3実測、写真。T－4写真、実測終了。T－5掘り下げ。T－6埋戻し途中。T－7埋戻し終了。

12月1日（月）　土佐貝塚　トレンチ埋戻し。佐井田東・北貝塚　トレンチ設定。

2日（火）　佐井田東・北貝塚　T－28～32。T－28実測。

3日（水）　佐井田東・北貝塚　T－30、31掘り下げ。T－28、29埋戻し。熊山田散布地　T－47掘り下げ。

5日（金）　佐井田東・北貝塚　トレンチ埋戻し終了。石仏貝塚　掘り下げ、埋戻し。

8日（月）　熊山田散布地　T－47掘り下げ。石仏貝塚　トレンチ3本目掘り下げ。散布地（№268）　トレンチ掘り下げ開始。

9日（火）　熊山田散布地　T－47実測。石仏貝塚　T－25実測。T－24埋戻し。T－26掘り下げ。散布地（№268）　トレンチ掘り下げ。

11日（木）　石仏貝塚　埋戻し終了。散布地（№268）　トレンチ掘り下げ、埋戻し。実測。

12日（金）　散布地（№268）　トレンチ掘り下げ、埋戻し。断面、平面図実測。

16日（火）　扇の端散布地　トレンチ設定。T－43掘り下げ開始。散布地（№268）　T－18実測、写真。T－16、18埋戻し。T－20、21、23掘り下げ。

17日（水）　扇の端散布地　T－43掘り下げ。散布地（№268）　T－20、21、22掘り下げ。散布地（№268）、石仏、佐井田各遺跡遠景写真。

18日（木）　扇の端散布地　T－43掘り下げ。実測、写真。散布地（№268）　T－21、23掘り下げ。T－20、22実測、写真。T－19写真。T－20、22埋戻し。

19日（金）　散布地（№268）　T－19、21、23実測。T－19、21写真T－19、21、22埋戻し。T－21、23拡張。熊山田散布地　補足調査

22日（月）　散布地（№268）　T－21、23拡張区掘り下げ。トレンチ断面、平面図実測。

23日（火）　散布地（№268）　トレンチ掘り下げ、実測、埋戻し。熊山田散布地　補足。扇の端散布地　トレンチ掘り下げ。

24日（水）　散布地（№268）　T－21埋戻し。T－18掘り下げ。扇の端散布地　トレンチ下げ。佐井田東貝塚、佐井田北貝塚、扇の端散布地、熊山田散布地　補足調査。

25日（木）　散布地（№268）　埋戻し終了。扇の端散布地、熊山田散希地　実測。

26日（金）　扇の端散布地　T－33埋戻し。T－44掘り下げ。

昭和62年

1月6日（火）　器材運搬。扇の端散布地　T－41、42掘り下げ。

7日（水）　扇の端散布地　T－42、45下げ。T－43埋戻し。

8日（木）　扇の端散布地　T－44、45、41、48掘り下げ。

9日（金）　扇の端散布地　T－48、40、38下げ。熊山田散布地　トレンチ設定。T－56掘り下げ開始。

13日（火）　扇の端散布地　T－41、42、45埋戻し。T－36、37掘り下げ。熊山田散布地　T－55、56掘り下げ。

16日（金）　扇の端散布地　T－38、37、69下げ。T－36実測写真。熊山田散布地　T－55、54下げ。

19日（日）　扇の端散布地　T－44、38実測写真。T－44、38埋戻し。熊山田散布地　T－54、59掘り下げ

21日（水）　熊山田散布地　埋戻し開始（T－55）　T－51、59掘り下げ。扇の端散布地　埋戻し了。写真（遠景）

22日（木）　熊山田散布地　T－51、59掘り下げ。T－56、54埋戻し。

23日（金）　熊山田散布地　T－53、58、49、50下げ。T－59実測。T－51、59埋戻し。

26日（月）　熊山田散布地　T－53埋戻し。T－50下げ。

27日（火）　熊山田散布地　T－49、50、52下げ。T－50実測写真。T－49埋戻し。

28日（水）　熊山田散布地　T－57、58下げ、実測。T－52埋戻し、実測。

29日（木）　熊山田散布地　T－50埋戻し。T－57、58写真、埋戻し。

30日（金）　器材整理、運搬。

31日（土）　遠景写真（熊山田散布地）

第３章　発掘調査の概要

発掘調査は、邑久郡邑久町内の千町平野圃場整備事業に伴う７か所の遺跡、散布地と灌漑排水事業に伴う散布地１ケ所の計８ケ所を対象とし、トレンチによる確認調査を実施した。トレンチは、２ｍ×４ｍ、深さ約１ｍまでを基本とし、計58本を設定した。総面積は390㎡程である。検出遺構については、原則として完掘をめざし、遺構の無い場合には、深さ１ｍ程度を掘り下げ限度としつつも基盤面の確認につとめた。

(1)　**土佐貝塚**（第６～８図、図版５）

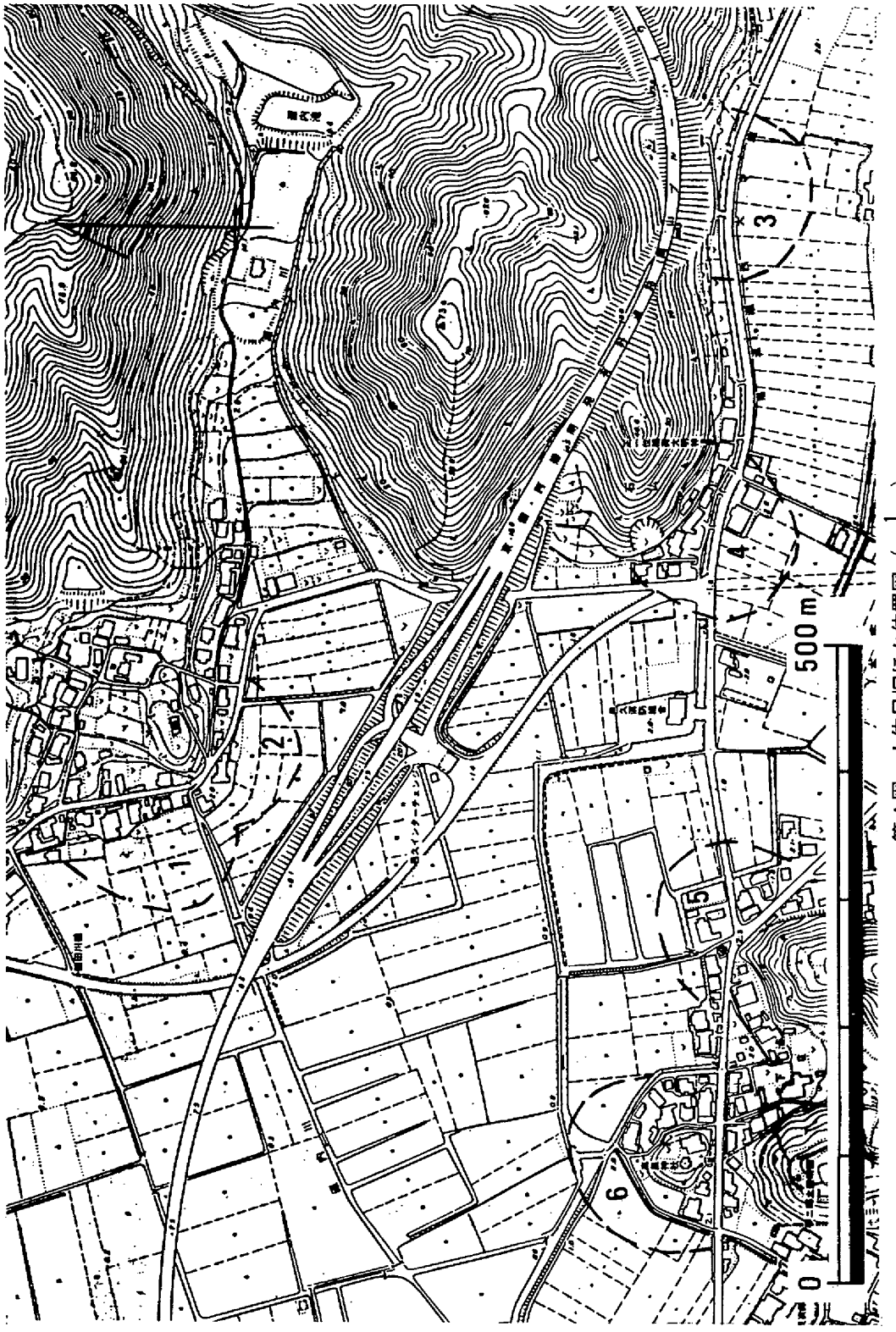
邑久郡邑久町本庄に所在する貝塚である。岡山ブルーハイウェイのインターチェンジの北西約200ｍ、土佐部落中央に東からのびる丘陵（海抜29.0ｍ）先端部に位置する。現在ではほとんど貝塚はみるかげもなく、削り取られた岩盤上部にハイガイ、蜆の純貝層が一部残存しているのみである。確認調査はその丘陵よりさらに西に延びていたであろう旧地形の残存状況から、土佐部落の西南部分にあたる水田域の発掘を実施した。ここでは、1682－１・２、1676、1671、1672－１、1674、1677の７枚の水田に、トレンチを設定し、４×1.5ｍ（４本）、２×５ｍ（３本）、計７本のトレンチを設定し遺構の有無、土層の観察を実施した。７本とも基本層序は共通しており、灰黄褐色系の粘土を基盤に暗黒色系粘土が上層にのり、上位は水田、畑地の土層構成をする。

遺構はT－７において検出されたのみで、他のトレンチにおいては確認できなかった。T－７で検出された溝は北から南に向かって流走する状況を呈しているが、柱穴、小溝がからみ若干複雑になっている。溝幅約47㎝、深さ45㎝を測り、灰色系の粘土により埋没している。遺物は溝内からは認められず、上層より奈良時代、平安末～鎌倉期の須恵器小片が出土している。すなわち、水田地域においては貝塚の痕跡は確認することはできず、１本の溝を確認したのみである。1677の水田を中心に遺跡は西、南に若干広がる可能性が指摘できる。

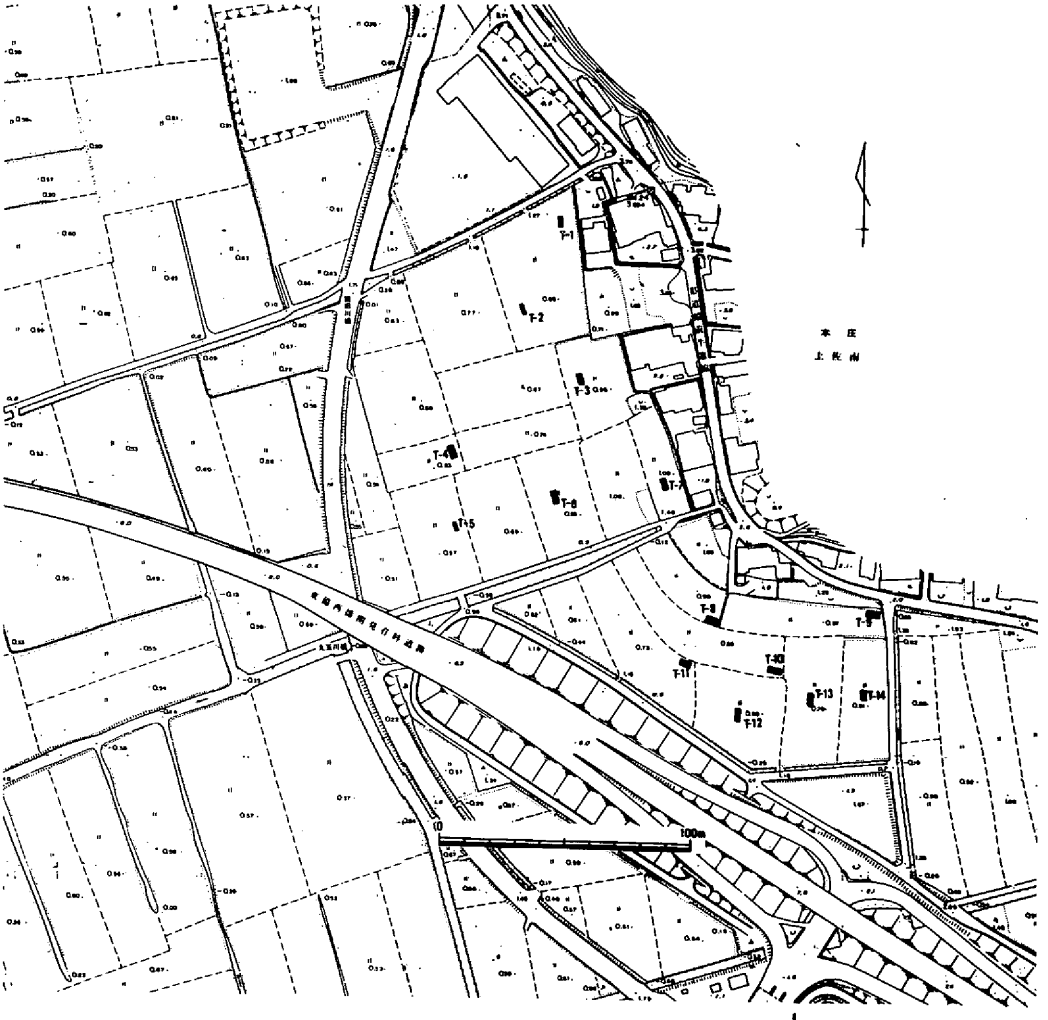
(2)　**散布地（№268）**（第８～10図、図版６）

土佐貝塚確認調査の東南部にあたり、道を隔てて同一の遺跡と考えられる。1696、1699－１、1722、1734－１、1731－１、1730、1729－１の７枚の水田に、1.5×４ｍ（３本）、２×５ｍ（４本）、計７本のトレンチを設定し土層観察を行った。土層においては土佐貝塚部分とまったく同様の堆積状況である。

遺物はT－８・９において弥生時代前期の土器片奈良時代の須恵器片が出土したが、遺構は検出することができなかった。しかし、土佐貝塚T－７と同一地形状況等からT－10の所在する1733の水田付近まで遺構の存在する可能性は充分考えられる。



第4図　土佐貝塚ほか位置図（$\frac{1}{5,000}$）



第５図　土佐貝塚、散布地(No. 268)トレンチ位置図（$\frac{1}{3,000}$）

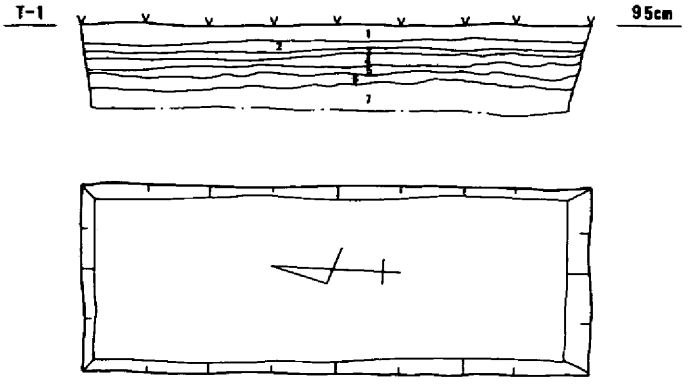
(3)　散布地（No.266）（第10・12～14・16、図版６・７）

１．遺跡の位置と現状

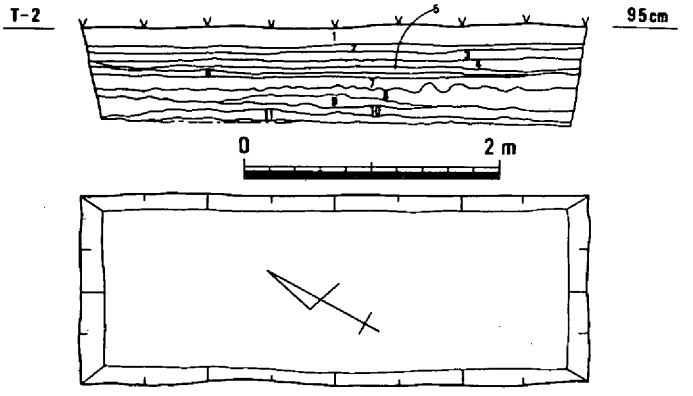
当散布地は、邑久町本庄841他の丘陵裾の畑及び、水田に所在する。南に浅く開いた谷の入口から前面に須恵器等の散布地として周知されている。現在は、谷口をブルーハイウェイ（東備西播有料道路）が通り、土盛りによりふさがれている。また、この谷の奥には、須恵器の窯跡である猪垣（ししのかき）窯跡が所在する。

２．調査結果の概要

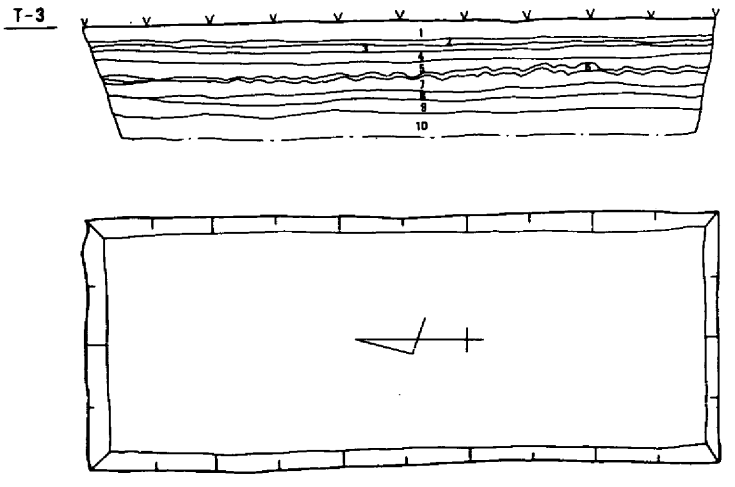
確認調査は、県道瀬西大寺線から南側に広がる水田の東西100ｍ×南北80ｍ程を対象とした。トレンチは、計９本設定した。調査の結果、いずれのトレンチからも遺構の検出は行えなかった。特に南側に設定したT－16・19・20・22は遺物も皆無である。北側の県道



1. 明灰色土
2. 褐色土(Mn)
3. 灰色粘土(Mn)
4. 灰色粘土
5. 灰色粘土
6. 暗灰黒色粘土
7. 暗灰褐色粘土

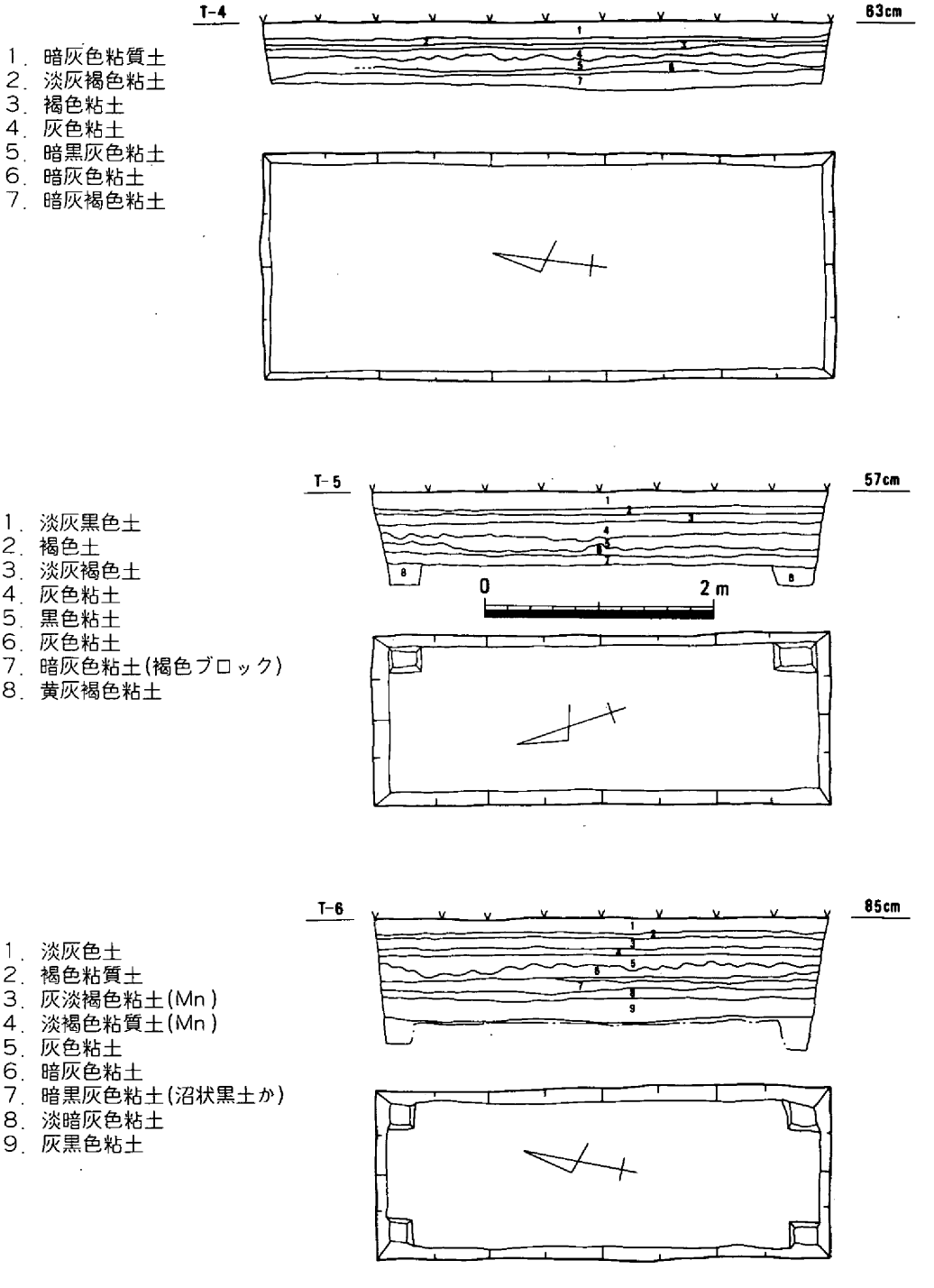


1. 灰茶色土
2. 褐色土
3. 淡灰褐色土
4. 淡灰色粘土
5. 淡灰色粘土
6. 淡灰色粘土
7. 灰色粘土(砂粒)
8. 黒色粘土(こい黒)
9. 黒色粘土
10. 暗灰色粘土
11. 暗黒色粘土(地山ブロック)

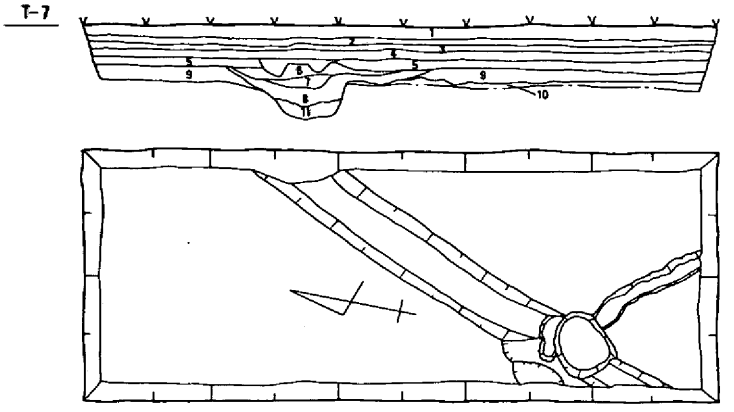


1. 明灰色土
2. 灰色土
3. 茶褐色土
4. 暗灰色粘土(礫混・Mn)
5. 暗灰色粘土(礫混)
6. 灰黒色
7. 灰茶褐色土
8. 明褐色砂質土
9. 暗茶褐色砂質土(基盤)
10. 灰色土

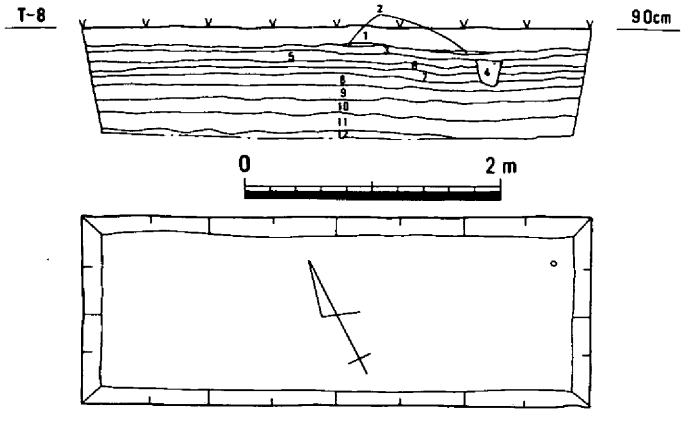
第6図　土佐貝塚T－1、2、3平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



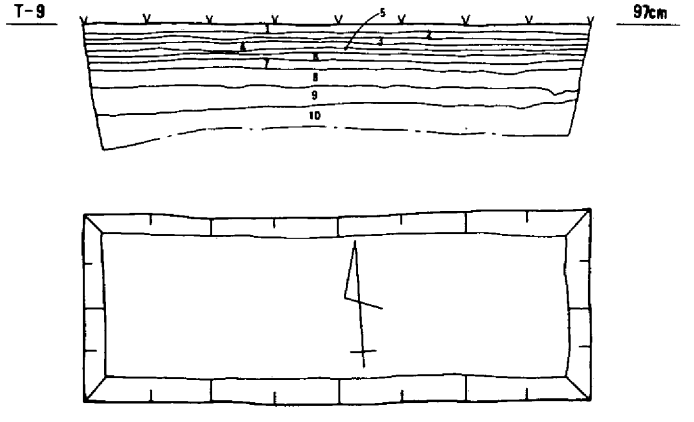
第7図　土佐貝塚T－4、5、6平・断面図 $(\frac{1}{60})$



1. 淡灰黒色土
2. 灰色粘質土
3. 暗茶褐色粘質土
4. 灰色粘質砂
5. 暗灰色粘質砂
(粘土・小礫)
6. 黒灰色粘土
(各トレンチでみられた土)
7. 暗灰色粘土
8. 暗茶灰色粘土
9. (a)灰色粘性砂質土
10. 灰黄褐色粘土(基盤)
11. 灰色粘土

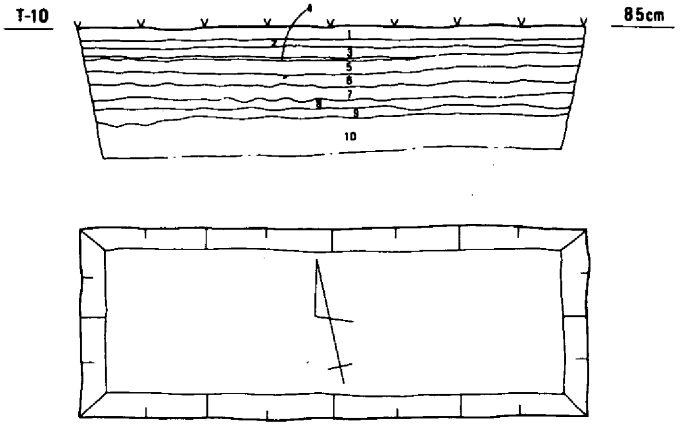


1. 淡灰黒色土
2. 淡灰色土
3. 褐色土(Fe・床土)
4. 暗　茶
5. 灰色粘土砂
6. 淡灰緑色砂
7. 灰色粘土
8. 淡灰色粘土
(混ぜもの多・須恵器片多)
9. 灰色粘土
10. 暗灰黒色粘土
11. 暗灰色粘土
12. 淡黄灰色粘土

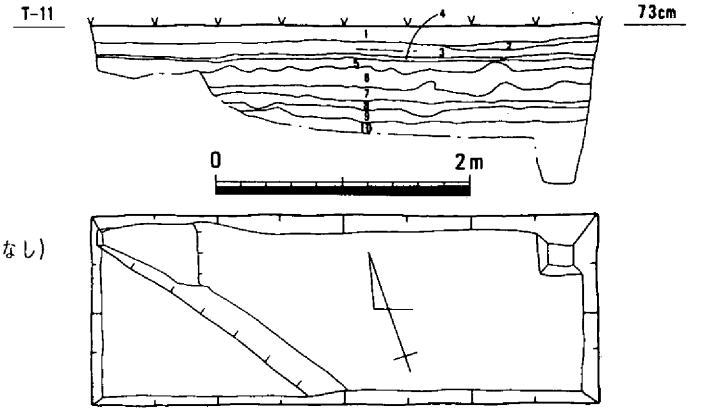


1. 灰色土
2. 灰色粘土
3. 褐色粘質土
4. 灰色粘土
5. 淡灰色粘土
6. 明灰色粘質砂(砂粒多)
7. 灰褐色粘質砂(Fe・砂粒多)
8. 暗灰色粘土(砂粒多)
9. 暗黒灰色粘土)
10. 暗灰色粘土
(遺物・下位が暗い)

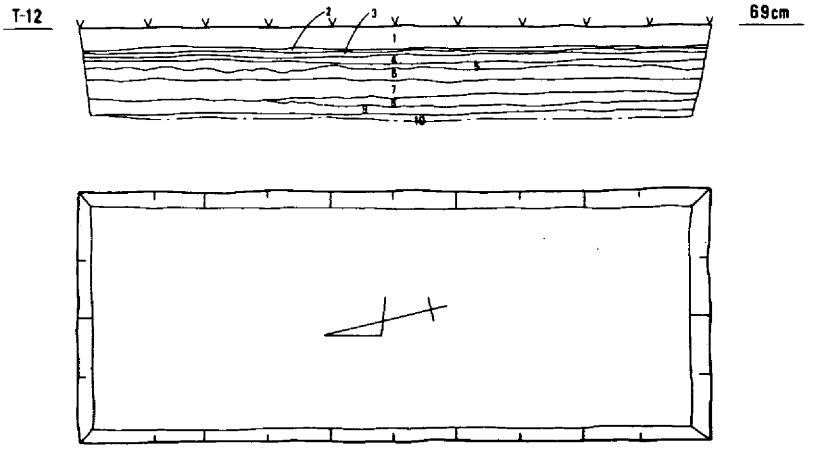
第8図　土佐貝塚T－7、散布地(No. 268)　T－8、9平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



1. 淡灰色土(耕作土)
2. 茶褐色土(床土)
3. 淡灰色粘質土(Mn)
4. 明灰色粘土
5. 灰色粘土
6. 暗灰色粘土(須恵器含)
7. 暗灰黒色粘土
8. 灰色粘土
9. 暗灰色粘土
   (灰色＋黄橙色ブロック)
10. 基盤層

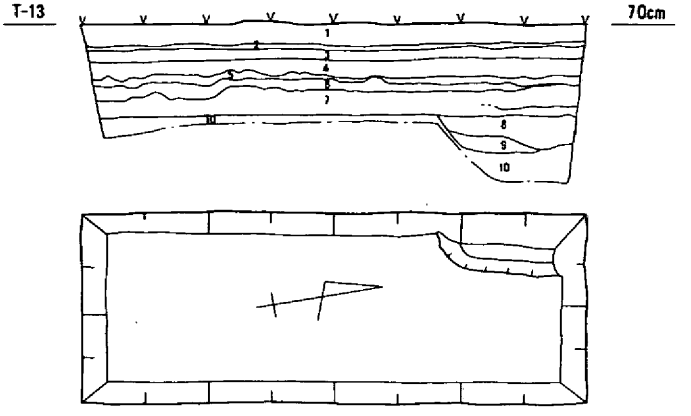


1. 淡灰黒色土
2. 灰色粘土
3. 褐色粘質土
   (塩化ビニル暗渠)
4. 灰色粘土(Mn)
5. 暗青灰色粘土
6. 暗灰黒色粘土
   (2分可・上;黒、下;若干淡・砂粒なし)
7. 暗灰色粘土
8. 暗青灰黒色粘土
9. 灰黒色・黄橙色ブロック
10. 暗灰色粘土

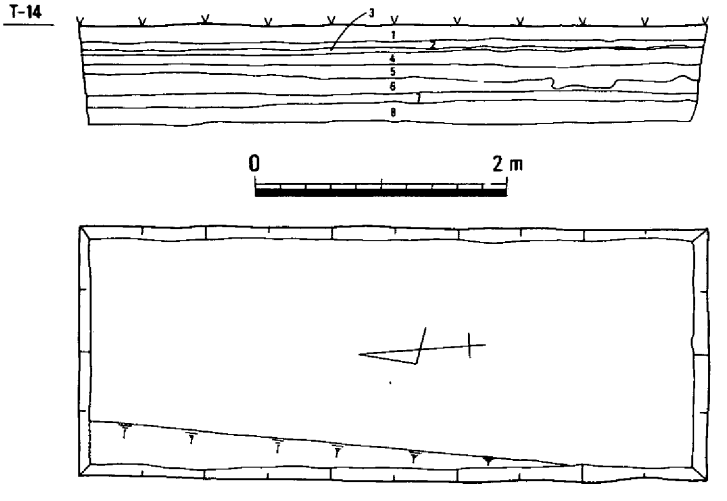


1. 暗灰色土
2. 灰色土
3. 褐色粘土
4. 灰色粘土(Mn)
5. 灰色粘土
6. 暗灰色粘土
7. 黒灰色粘土
8. 灰色粘土
9. 暗灰黒色粘土
10. 橙色粘土

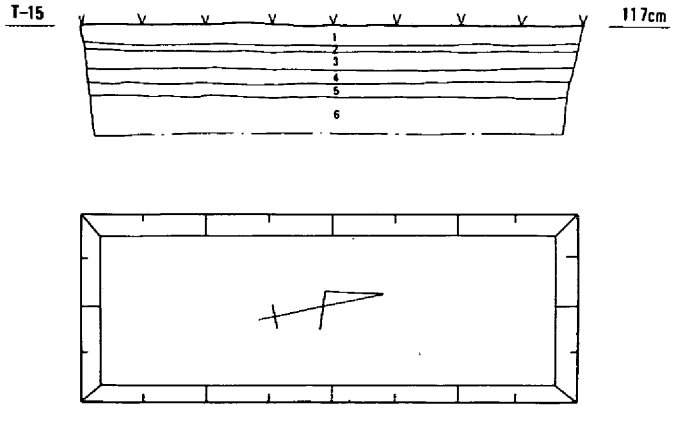
第9図　散布地(No. 268) T－10、11、12平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



1. 淡灰黒色土
2. 褐色土(床土・Fe)
3. 灰色粘質砂土(Mn)
4. 灰色粘土
5. 淡黒色粘土
(上面乱れが著しい)
6. 暗灰黒色粘土
7. 暗灰色粘土
8. 灰黒色粘土
(暗黄橙色ブロック含)
9. 暗灰色粘土
10. 灰色粘土

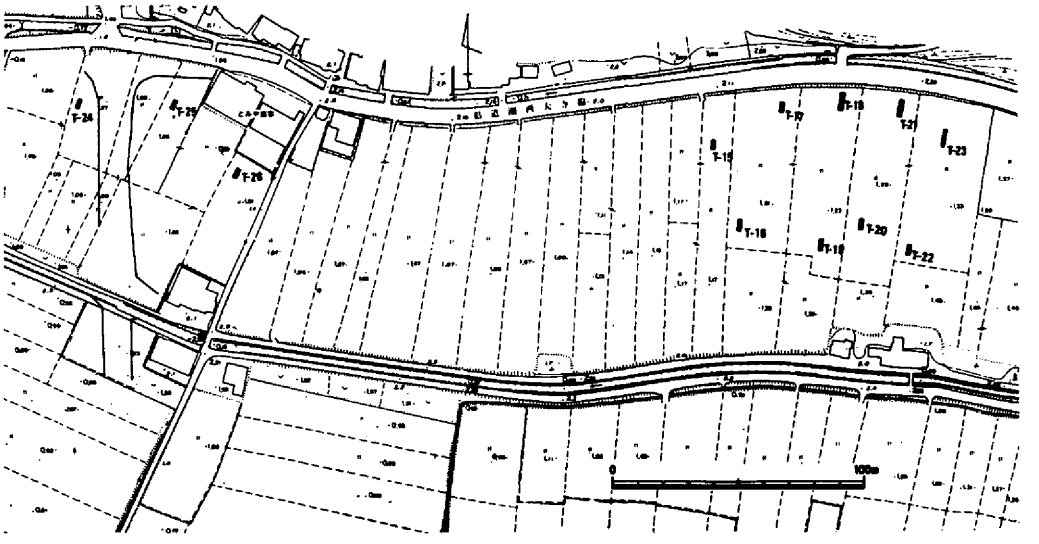


1. 暗灰色土
2. 淡灰色土
3. Fe・褐色土
4. 灰色粘質砂土
5. 灰色粘土
6. 暗灰色粘土
7. 暗黒色粘土
8. 灰黒褐色粘土
(カンテツ層)



1. 耕　土
2. 淡褐色土(床土)
3. 濃灰褐色土
4. 灰色土
5. 灰褐色土
6. 黒灰色土

第10図　散布地(No. 268) T－13、14　散布地(No. 266) T－15平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



第11図　散布地(No. 266)、石仏貝塚トレンチ位置図（$\frac{1}{3,000}$）

沿いに設定したT－15・17・18・21・23からは、耕土下40cmまでに砂質の土層が認められ、この土層中から若干の遺物が出土している。この土層は南側のトレンチでは認められず、粗砂の多いことから谷部からの流出土と考えられる。なお、T－21の上層の砂質土層中からは、谷奥部の窯跡からの流出を裏づける窯壁片２点を採集している。

(4)　**石仏貝塚**（第14・16図、図版７・８）

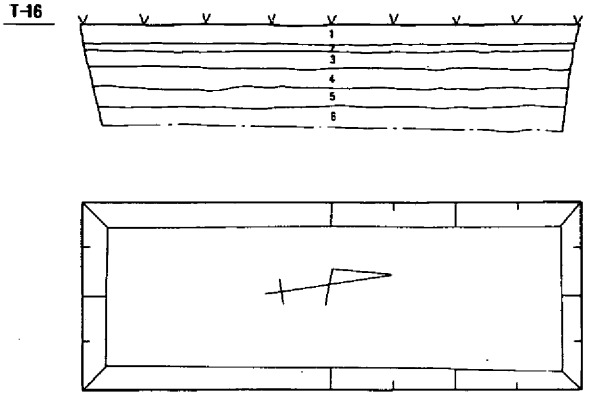
遺跡は、邑久町本庄石仏に所在する。県道瀬西大寺線と牛窓本庄線の交差する東側の丘陵先端付近に周知されている貝塚である。現状は民家が建ちかなり造成されており、貝の散布は確認できない。今回の調査は貝塚の水田付近までの広がりの有無を確認するため計３本のトレンチを設定した。

トレンチ調査の結果、T－24、26で表土から－70～90cmで基盤層に達し、T－25では、－110cm程で一部砂層に達している。いずれのトレンチからも、貝等の包含層は認められず、水田部まで貝塚は広がっていないと考えられる。

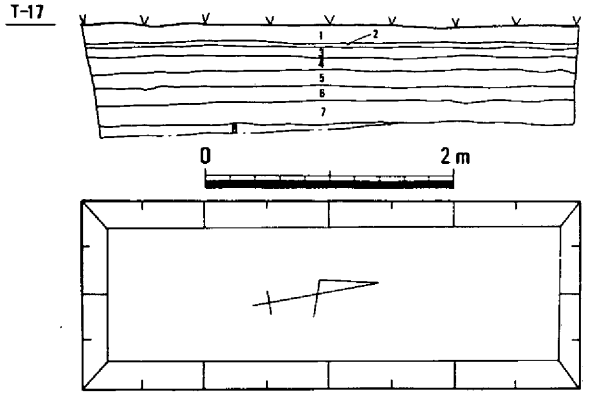
出土遺物は、T－24から須恵器、土師器片が若干出土している。

(5)　**佐井田東貝塚**（第16、17図・図版８）

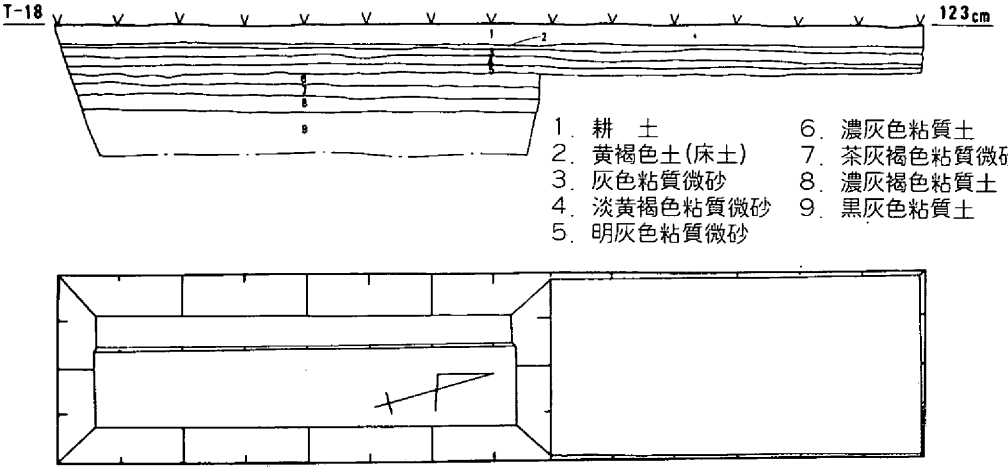
邑久町本庄佐井田に所在する。南から北に派生する丘陵の先端部の斜面と平地の変換点に立地する。かつて畑であった場所に貝の散布が認められたと言われているが、現状では、すでに造成され、確認できない。トレンチは、周囲の水田部への貝塚の広がりの有無を確認の



1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰色土
4. 淡灰色土
5. 濃灰色土
6. 黒灰色土

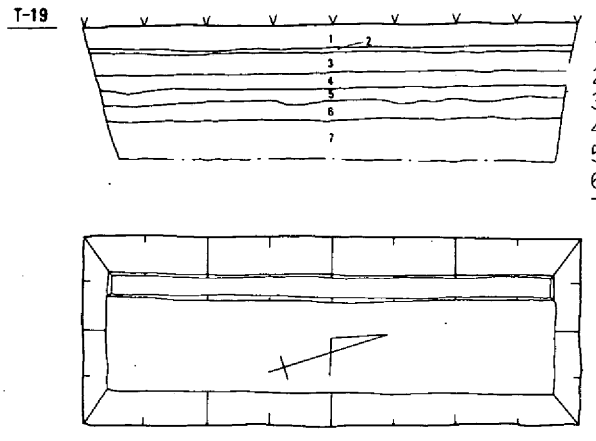


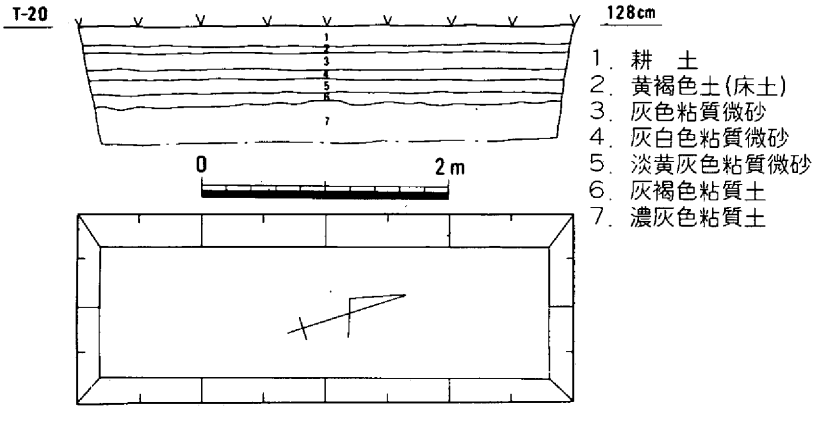
1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰色微砂
4. 灰色粘質土
5. 淡灰色粘質土
6. 灰褐色土(粘質微砂混り)
7. 黒灰色粘土
8. 白褐色粘土

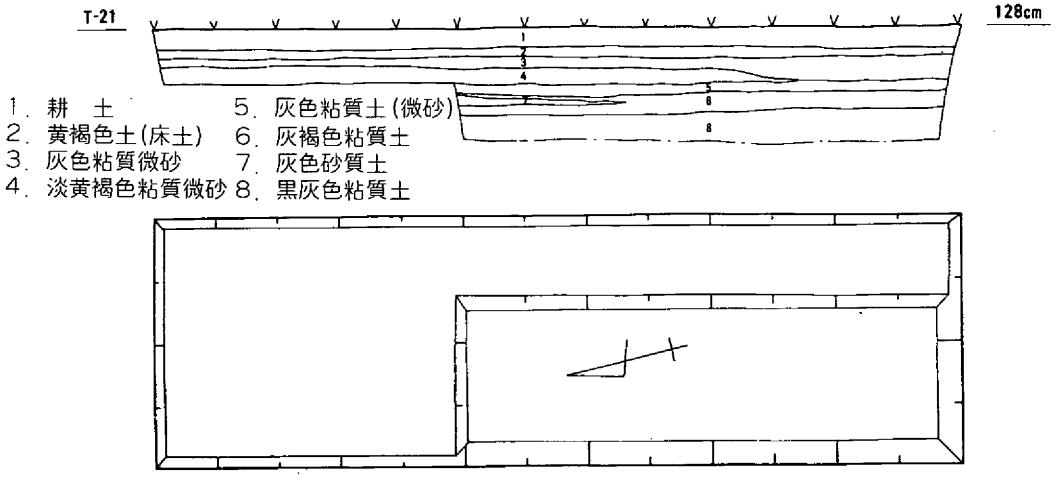


1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰色粘質微砂
4. 淡黄褐色粘質微砂
5. 明灰色粘質微砂
6. 濃灰色粘質土
7. 茶灰褐色粘質微砂
8. 濃灰褐色粘質土
9. 黒灰色粘質土

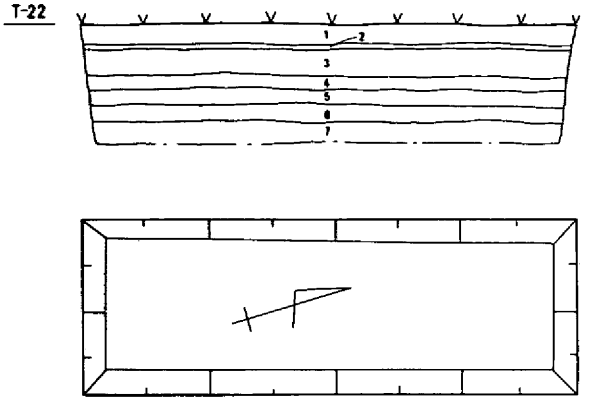
第12図　散布地(No. 266) T－16、17、18平・断面図 ($\frac{1}{60}$)

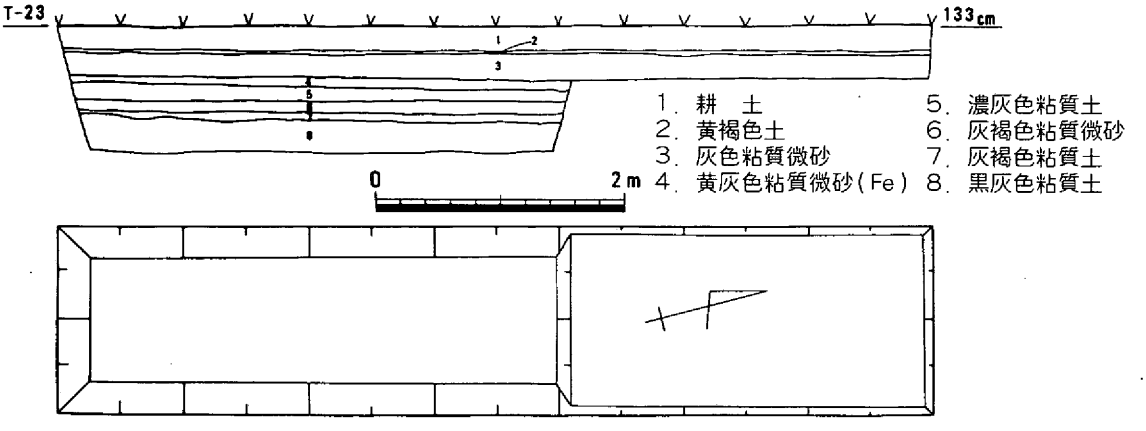


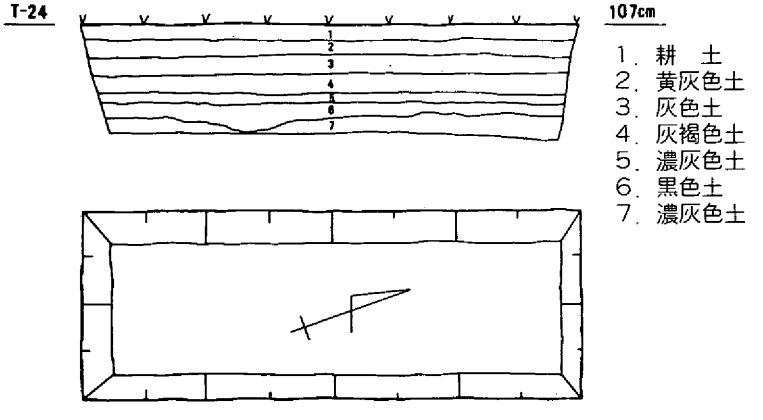




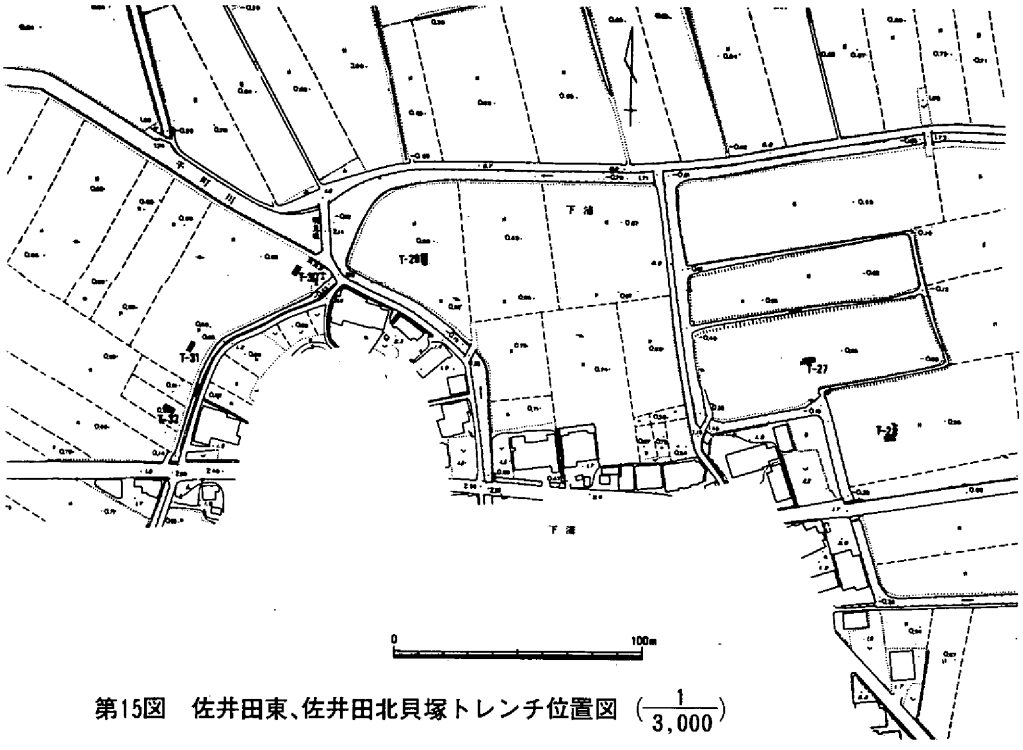
第13図　散布地(No. 266) T－19、20、21平・断面図 ($\frac{1}{60}$)







第14図　散布地(No. 266) T－22、23、石仏貝塚T－24平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



第15図　佐井田東、佐井田北貝塚トレンチ位置図（$\frac{1}{3,000}$）

ため、計２本設定した。

調査の結果、いずれのトレンチとも表土下－50cmで、基盤面に達し、遺構、遺物とも検出できなかった。これらのことからこの付近にまでは、貝塚は広がっていないと判断された。

(6)　**佐井田北貝塚**（第17・18図、図版８）

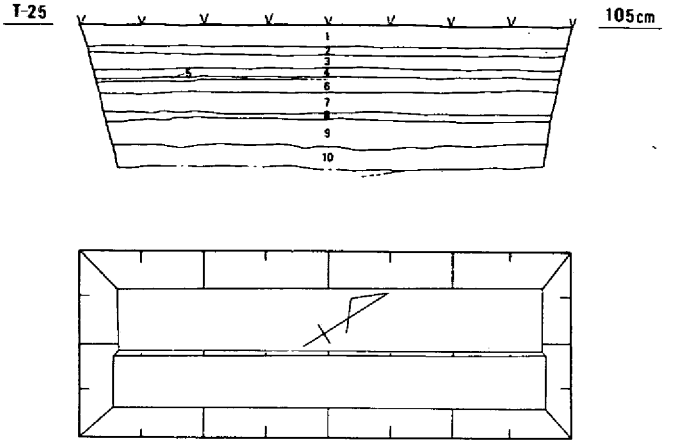
遺跡は、邑久町本庄、佐井田に所在する。佐井田東貝塚と同様に南から派生した丘陵の最北端の裾に位置する。現状では、畑、水田供に貝の分布は確認できない。調査は、丘陵先端周辺部の圃場整備計画内の水田の計４本のトレンチを設定して、貝塚の広がりの有無の確認を行った。

調査の結果、いずれのトレンチからも、貝の出土は認められなかった。T－32では、トレンチ南東端が、徐々に下り、弥生前半期の土器が若干出土している。T－31でも基盤層上面の濃灰色粘土層中から若干の弥生時代の土器片の出土が認められた。

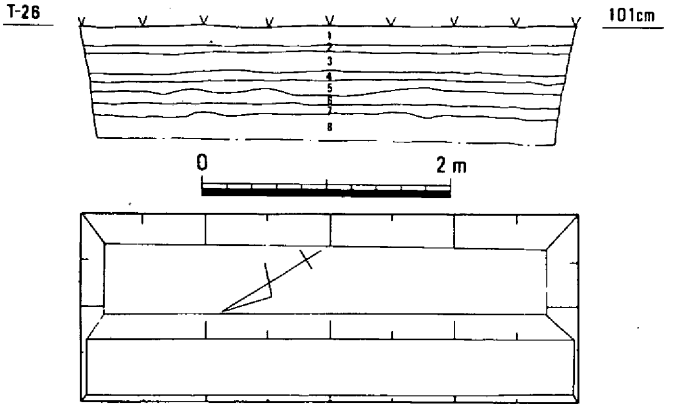
(7)　**扇の端散布地**（第21～23図、図版９・10）

１．立地と調査前の状況

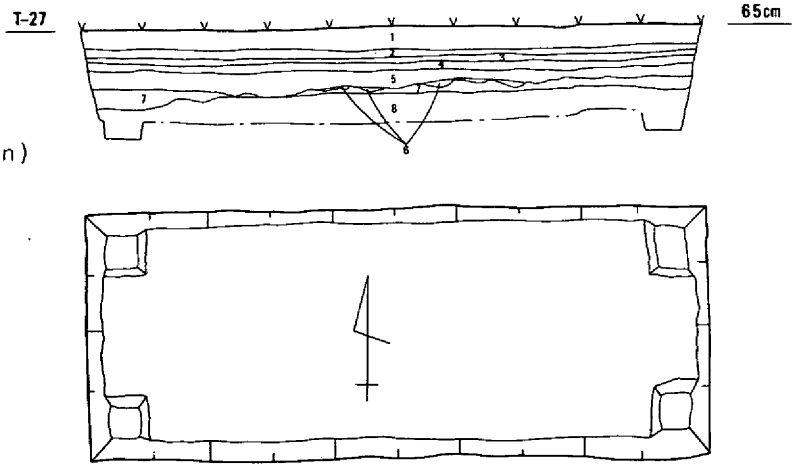
扇の端散布地は、邑久町下山田600－１他の低丘陵先端部に所在する。同一丘陵の先端には、扇の端貝塚も周知されているが、現状では、貝の分布は確認できない。今回調査対象となった扇の端散布地の中心部は丘陵上とみられるが、圃場整備の計画されている周辺



1. 耕　土
2. 黄褐色土
3. 灰白色土
4. 灰色土
5. 黄灰色土(床土)
6. 灰色土
7. 濃灰色土
8. 黒色土
9. 黒褐色土
10. 淡黒色土

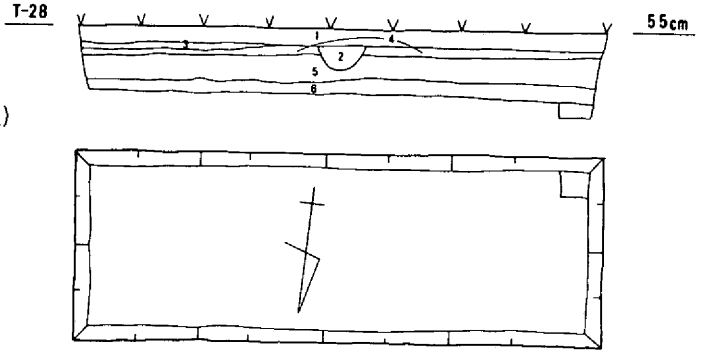


1. 耕　土
2. 黄褐色土
3. 灰褐色土
4. 淡灰黄色土
5. 淡灰褐色土
6. 黒色土
7. 黒灰色土
8. 灰白褐色土

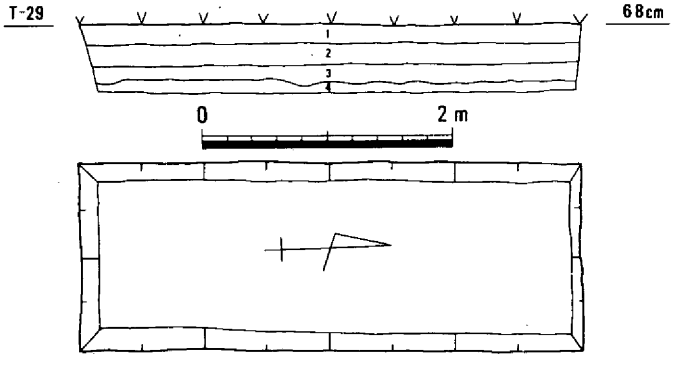


1. 淡灰色土
2. 茶褐色土
3. 灰色粘質土
4. 暗灰色粘質土(Mn)
5. 灰色粘質土
   (カンラン荒い)
6. 暗灰色粘質土
7. 黒灰色粘質土
8. 茶灰橙色粘質土
   (カンラン)

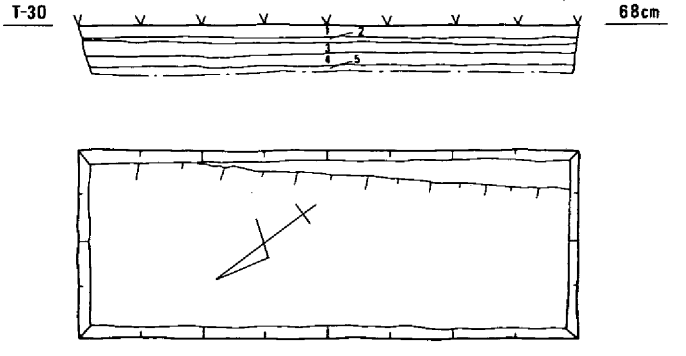
第16図　石仏貝塚T－25、26　佐井田東貝塚T－27平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



1. 耕　土
2. 灰色土黄色土混り
3. 黄色・灰色粘質混り土(耕土)
4. 黄褐色土(床土)
5. 灰褐色粘質土
   (上部Mn を含む)
6. 黒灰色粘質土

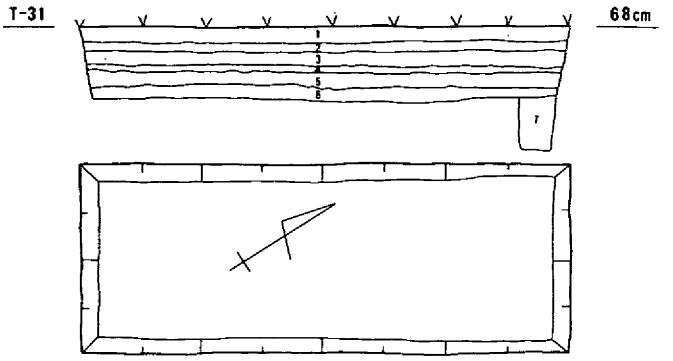


1. 耕　土
2. 黄灰色粘質土
3. 灰褐色粘質土
4. 黒灰色粘質土

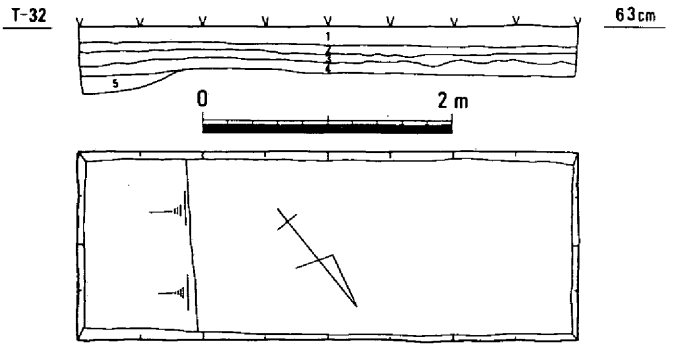


1. 耕　土
2. 灰色土・灰白色土混り
3. 黄色土・黒灰色土混り
4. 黄灰色土
5. 灰褐色土

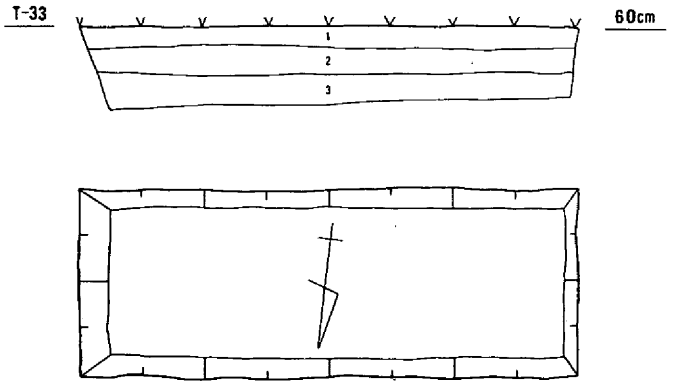
第17図　佐井田東貝塚Ｔ－28　佐井田北貝塚Ｔ－29、30平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰黄褐色土(Mn)
4. 灰色土
5. 黒灰色土
6. 濃灰色土
7. 灰褐色土

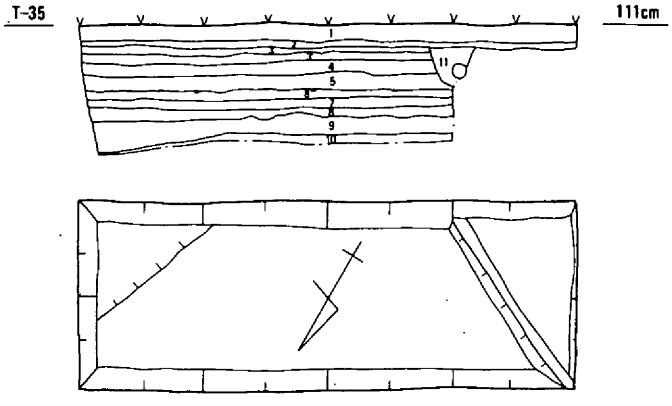


1. 耕　土
2. 黄灰色土
3. 黒色土
4. 濃灰色土
5. 黒灰色土

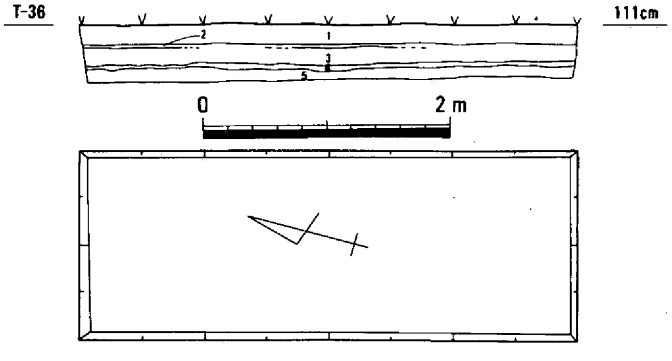


1. 耕土(Feの分離明瞭でない)
2. 灰褐色粘質土
3. 黒灰色粘質土

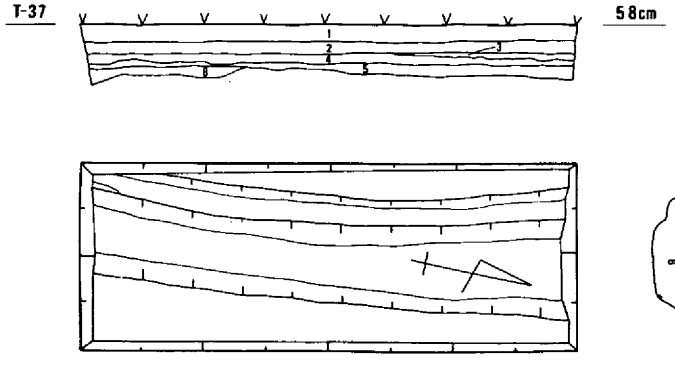
第18図　佐井田北貝塚T－31、32扇の端散布地T－33平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



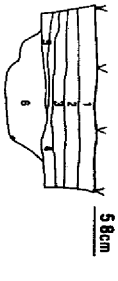
1. 淡灰黒色土
2. 淡灰色粘質土
3. 明褐色粘質土
3′ 灰色土
4. 褐色土
(黄ブロック多・地山礫含)
5. 暗茶灰黒色土
(礫層・粘質・地山礫含)
6. 暗茶灰黒色土(礫層・粘質)
7. 暗茶灰色粘質土
8. 黒灰色粘質土
9. 暗灰色粘土
10. 明灰色粘土(遺構面？)
11. 暗渠掘り方



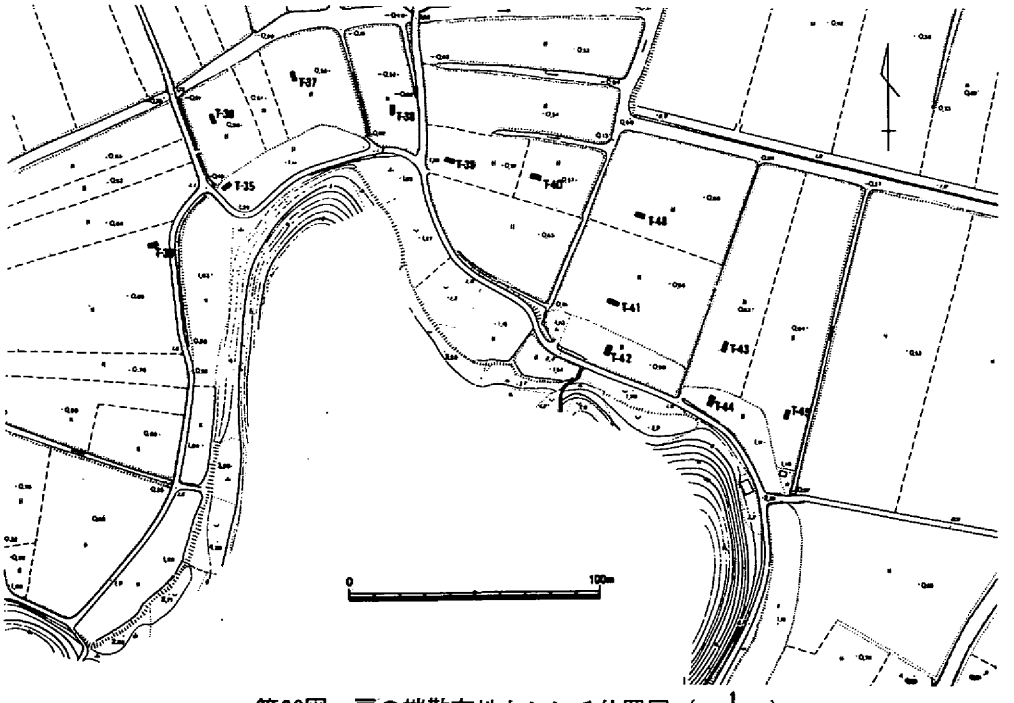
1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰色粘質土
4. 黒灰色粘質土
5. 灰褐色粘質土



1. 耕　土
2. 黄灰色粘質微砂(Fe)
3. 灰色土
4. 黒灰色粘土
(やや灰色混り)
5. 灰褐色土
6. 濃灰褐色粘質土(溝内)



第19図　扇の端散布地Ｔ－35、36、37平・断面図 $(\frac{1}{60})$



第20図　扇の端散布地トレンチ位置図（$\frac{1}{3,000}$）

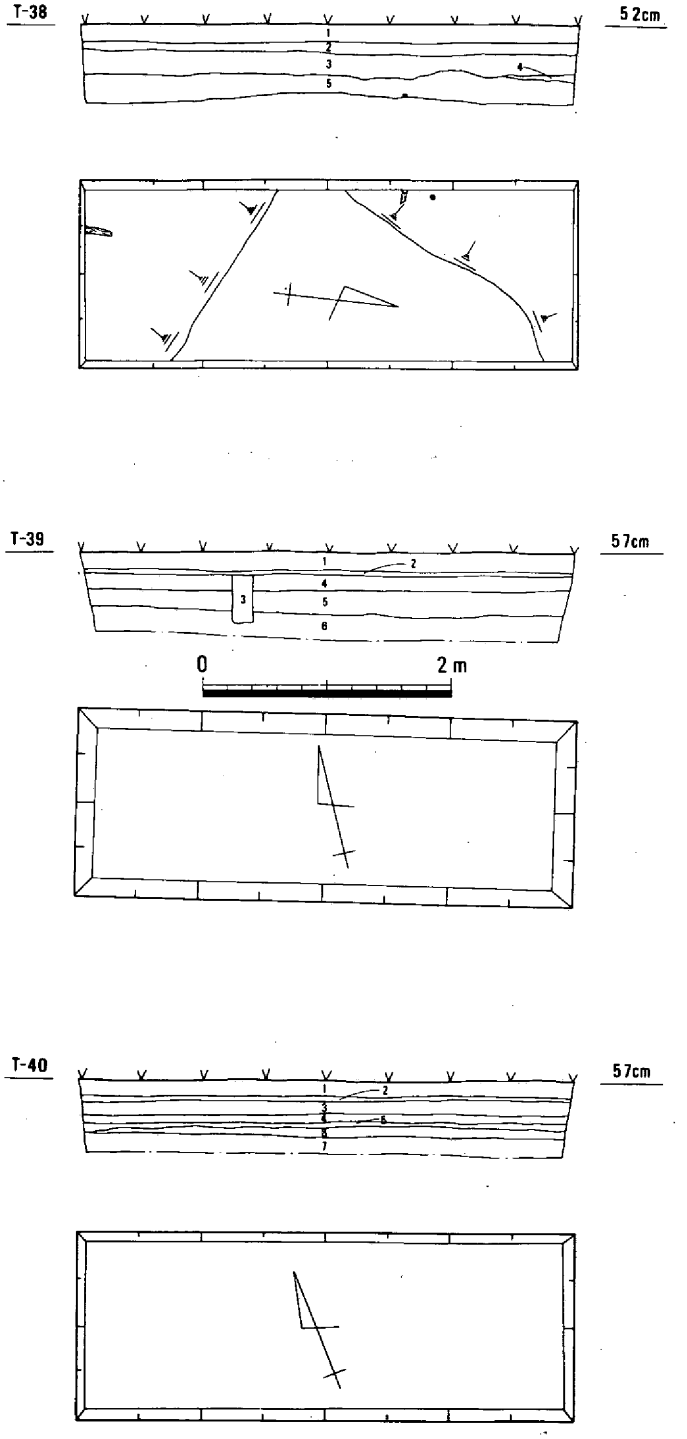
の水田にも広がりが想定されたため、丘陵縁辺部に計13本のトレンチを設定した。

2．調査結果の概要

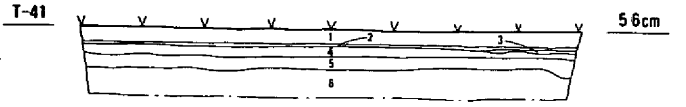
トレンチは1.5（2.0）m×4.0mを基本とし、T－35より掘削を開始し、写真撮影、断面実測等を順次行った。

発掘調査の結果、T－42、44の丘陵裾の一段高い水田部と丘陵先端縁辺部のT－33～38から遺物包含層や遺構の検出を行っている。

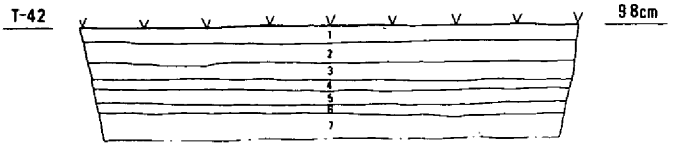
T－42、44は、丘陵裾の帯状の水田に設定したトレンチである。いずれも上層の礫混りの土層中から中世の遺物包含層が認められた。また、T－44では、南に徐々に下降する基盤面（地山？）で円形の土壙、ピットや、先端を加工した杭状の木器が出土している。T－37では、トレンチ中央にほぼ南北方向の重複した溝を検出した。東側の溝は、現存幅80cm、深さ30cmを測り、南端から北端に向って約10cm下降している。溝内埋土中から弥生時代前期前半の土器が少量出土している。T－38では、耕土下約60cm程で凹凸のある基盤層に達する。トレンチ中央部が若干高く、北と南に向ってゆるく下降する地形を呈し、両側の低くなった基盤面から、自然木や打ち込まれた杭が出土している。遺物は基盤面から弥生時代前半期の平行沈線を施した小片が出土している。T－33、35からは、遺構の検出は行えなかったものの、弥生土器片が出土している。その他の丘陵北東縁辺部に設定したトレン

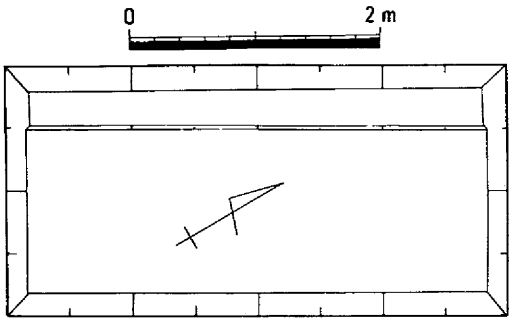


第21図　扇の端散布地T－38、39、40平・断面図 ($\frac{1}{60}$)

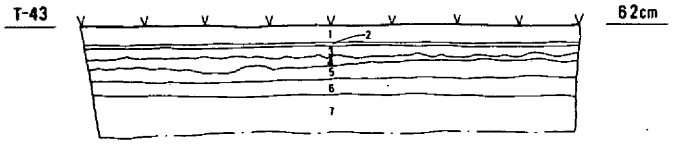


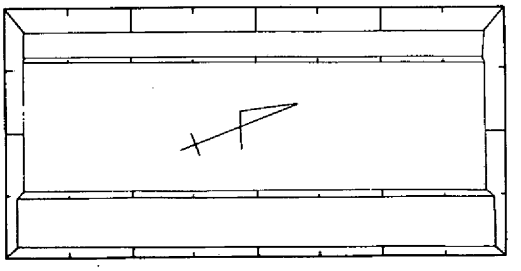
1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰色粘質土
4. 黒色粘質土
5. 灰黒色粘質土
6. 灰白色粘質土(基盤層)





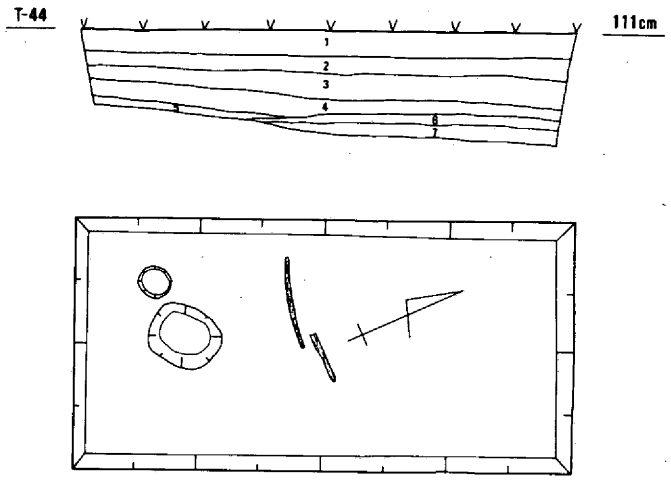
1. 耕　土
2. 黄灰色土(礫混り)
3. 濃灰茶褐色土
   (礫混り・Mn)
4. 黒色粘質土
5. 淡灰褐色粘質土
6. 黒灰色粘質土
7. 灰白色粘質土(基盤層)



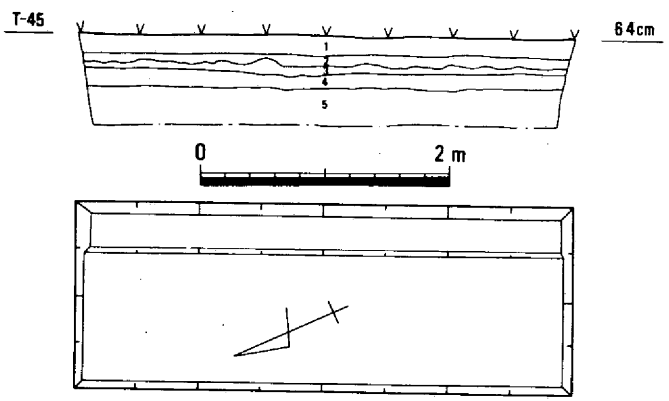


1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰色粘質土(砂粒含)
4. 灰黒色土
5. 濃灰色粘土
6. 白灰褐色基盤粘土
7. 褐色粘土

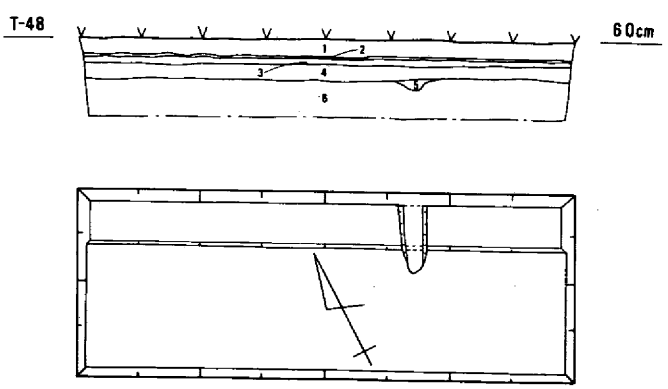
第22図　扇の端散布地Ｔ－41、42、43平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



1. 耕　土
2. 灰褐色粘質土(山土混り)
3. 黄灰褐色粘質土(山土混り)
4. 黒色粘質土
5. 濃灰褐色土(山土混り)
6. 濃灰褐色粘質土
7. 黒褐色粘質土



1. 耕　土
2. 濃灰色粘質土(砂粒含)
3. 黒色粘質土
4. 濃灰色粘質土
5. 灰白色粘質土(基盤層)



1. 耕　土
2. 黄褐色土(床土)
3. 灰色土
4. 黒灰色粘質土
5. 濃灰色粘質土
   (溝状クボミ)
6. 灰白色粘質土(基盤層)

第23図　扇の端散布地Ｔ－44、45、48平・断面図 ($\frac{1}{60}$)

チからの出土遺物は非常に少ない。

以上のことから扇の端散布地の水田部の遺跡の広がりは、T－42、44の一段高い帯状の水田と丘陵最先端周辺のT－37、38付近に想定される。

(8) **熊山田散布地**（第25～28図、図版11・12）

1．遺跡の立地と現状

灌漑排水事業に伴い、邑久町山田庄地内に実施した確認調査である。調査地区は、邑久町中心部の東端にあたり、付近には、邑久町立病院、邑久中学校が位置し、若干の新興住宅地が認められるもののほとんどが水田の景観を呈している。

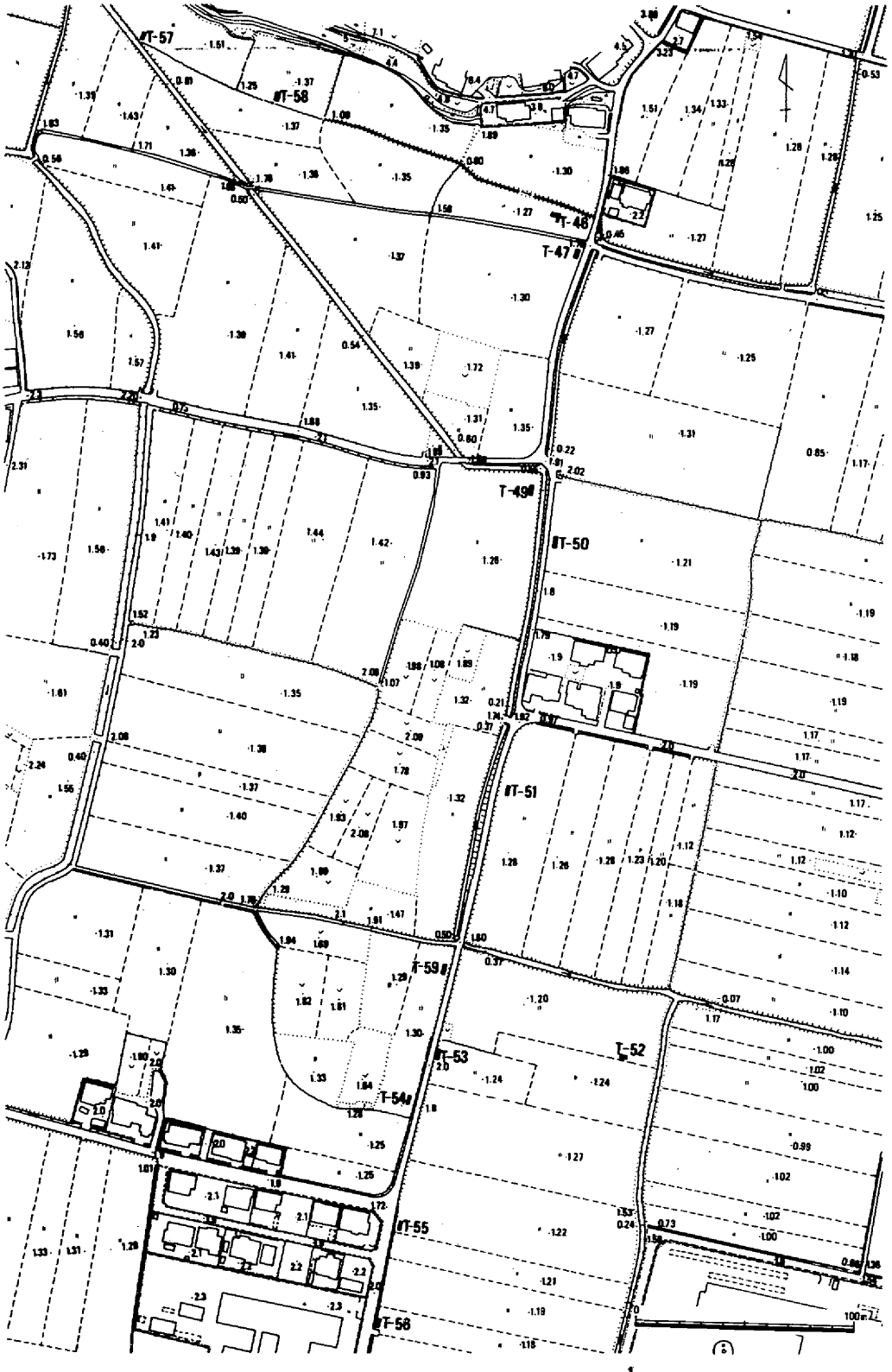
岡山県遺跡地図によると、邑久町下笠加から仁生田を含め、大きく、南北８㎞、東西３㎞程の範囲を熊山田散布地として掲載している。今回、確認調査を行った地区は熊山田散布地の東端から北東部にあたる場所である。また、この付近には、周囲の水田より若干高く、畑地となっている場所に半田前遺跡、拝登遺跡が知られている。さらに北方向の丘陵裾にも半田散布地が存在する。

2．調査の結果と概要

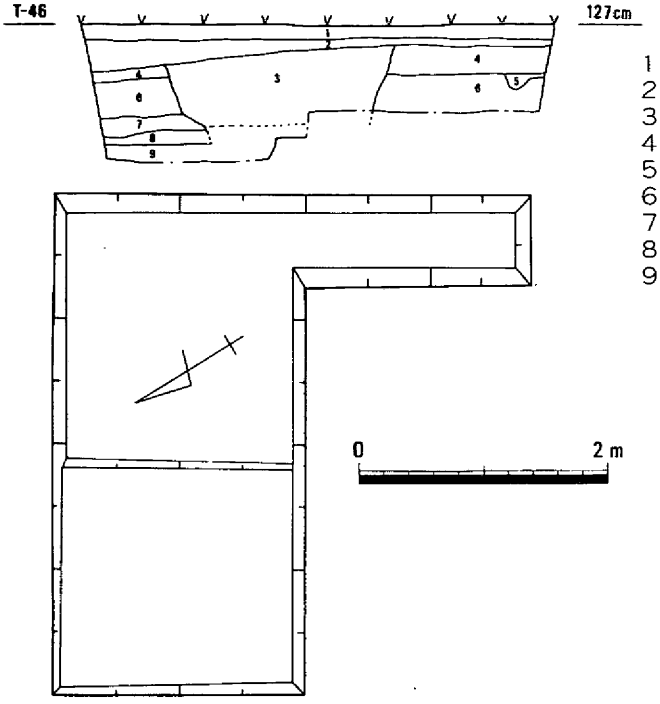
確認調査は、邑久町立病院より北側の南北の町道沿いの水田に計13ケ所のトレンチを設定した。北端コーナー付近から掘開を開始し、遺構、検出、断面観察等を順次行った。

調査の結果、北端コーナー付近から北側のトレンチは、遺物の出土は認められるものの、安定した基盤層の状態とは言えなかった。特にT－46では表土下70㎝程から、砂層と粘土層の互層となっており、旧河道の可能性が考えられる。T－49、50では耕作土下に中世と古代の二層の包含層が認められた。特にT－49では、T－59に次く多量の遺物の出土があった。T－51は各トレンチの中で最も基盤面が高く、耕土直下に柱穴等を検出している。出土遺物は、中世の柱穴から瓦器椀、包土中から古式土師器が出土している。T－53、54、59は古代と中世の二層の包含層とともに最も遺構密度の高いトレンチである。特にT－59ではトレンチ東壁に５、６本の中世の柱穴が並び、建物等を想定させる状況である。さらに、出土遺物はトレンチ中最大の出土量で緑釉片１点も出土している。

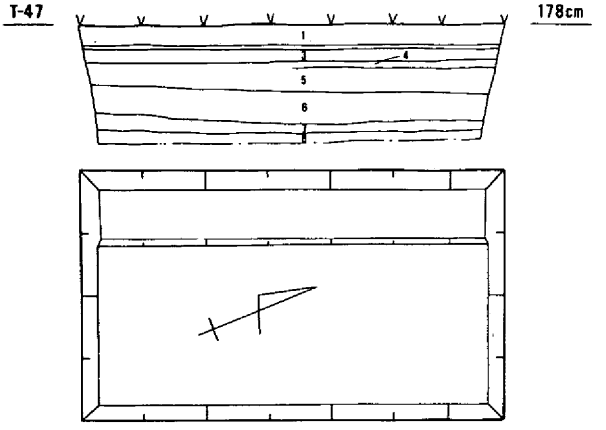
T－55は基盤層がやや低く、出土遺物も少なく、低位部もしくは、旧河道の可能性が考えられる。T－56では、徐々に基盤層が上昇し、遺物の出土量も増加する。このことからT－55、59付近とは別の新たな微高地が形成されているとみられる。T－52は、T－59付近の微高地の東方への広がりを把握する目的で設定した。土層断面の観察の結果、明瞭な包含層は形成されておらず、基盤上部に二層程の水田層と想定される土層が確認されたのみである。このことから、拝登遺跡の範囲内と想定されるT－53、54、59周辺の微高地は、T－52との間で徐々に下降し、T－52までは広がっていないことが確認された。



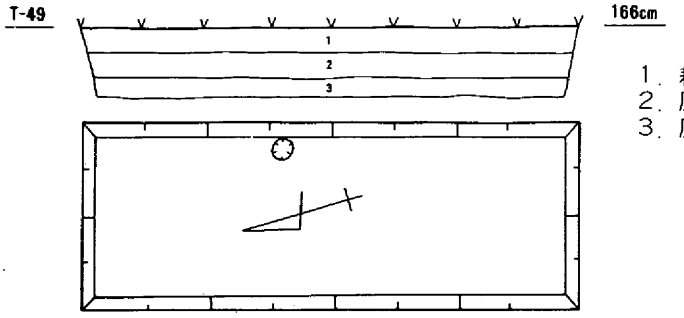
第24図　熊山田散布地トレンチ位置図（$\frac{1}{3,000}$）



1. 耕　土
2. 灰茶褐色土(Fe・Mn分離層あり)
3. 褐色・茶灰褐色混り土(クリークか)
4. 灰褐色粘質土
5. 灰茶褐色粘質微砂(Pitか)
6. 灰黄褐色粘質土
7. 砂層
8. 灰色粘質微砂
9. 砂層

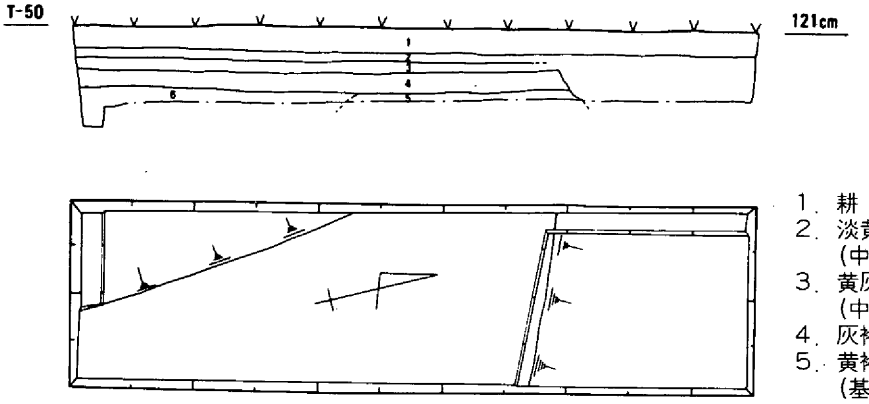


1. 耕　土
2. 黄色土(床土)
3. 灰褐色粘質土(Mn)
4. 黄灰褐色粘質土
5. 濃灰色粘質土
6. 茶褐色粘質土
7. 黄褐色土(基盤層)
8. 暗灰褐色土

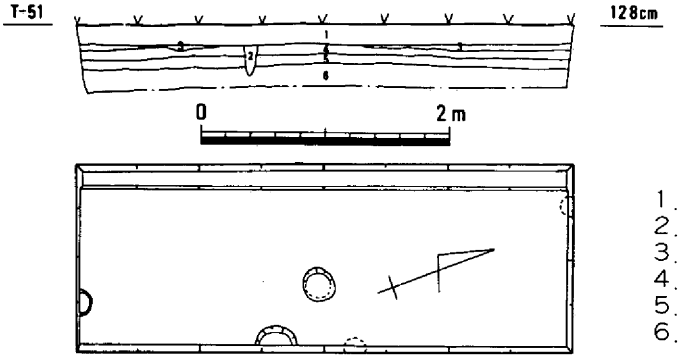


1. 耕　土
2. 灰黄褐色土(中世包含層)
3. 灰褐色土(遺物多量)

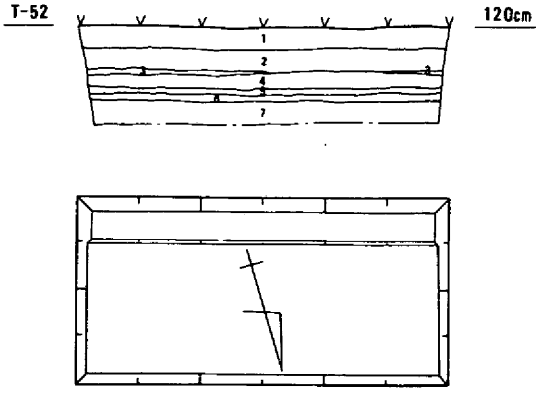
第25図　熊山田散布地T－46、47、49平・断面図 $(\frac{1}{60})$



1. 耕　土
2. 淡黄褐色粘質土
(中世包含層)
3. 黄灰褐色粘質土
(中世包含層)
4. 灰褐色粘質土
5. 黄褐色粘質土
(基盤層)
6. 灰茶褐色粘質土

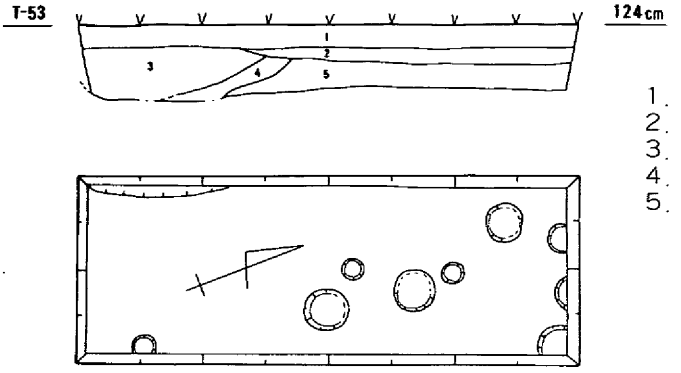


1. 耕　土
2. 灰褐色粘質土
3. 茶灰色粘質土(包含層)
4. 黄褐色粘質土(基盤層)
5. 灰黄褐色粘質土(基盤層)
6. 灰黄色粘質土

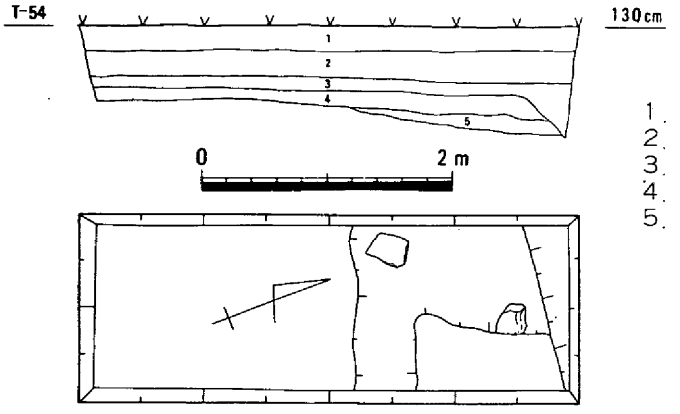


1. 耕　土
2. 灰黄色粘質土(中世包含層)
3. 灰茶褐色粘質土
4. 淡黄灰色粘質土
5. 灰茶褐色粘質土
6. 淡黄灰色粘質土
7. 黄灰褐色粘質土(基盤層？)

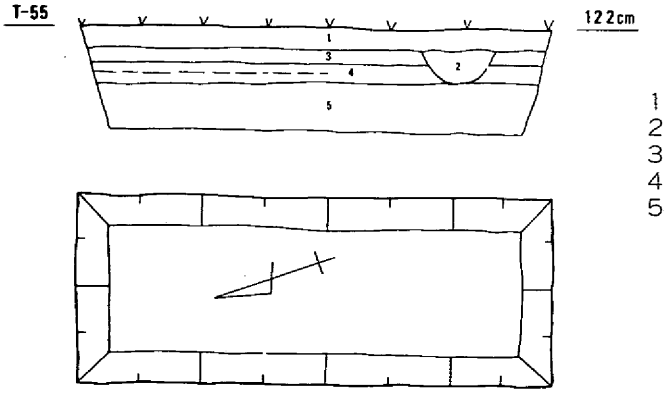
第26図　熊山田散布地Ｔ－50、51、52平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



1．耕　土
2．灰色・茶色混り粘質土(攪乱土)
3．茶灰色粘質土
4．黄褐色混り灰茶褐色土
5．灰茶褐色粘質土(須恵器包含層)

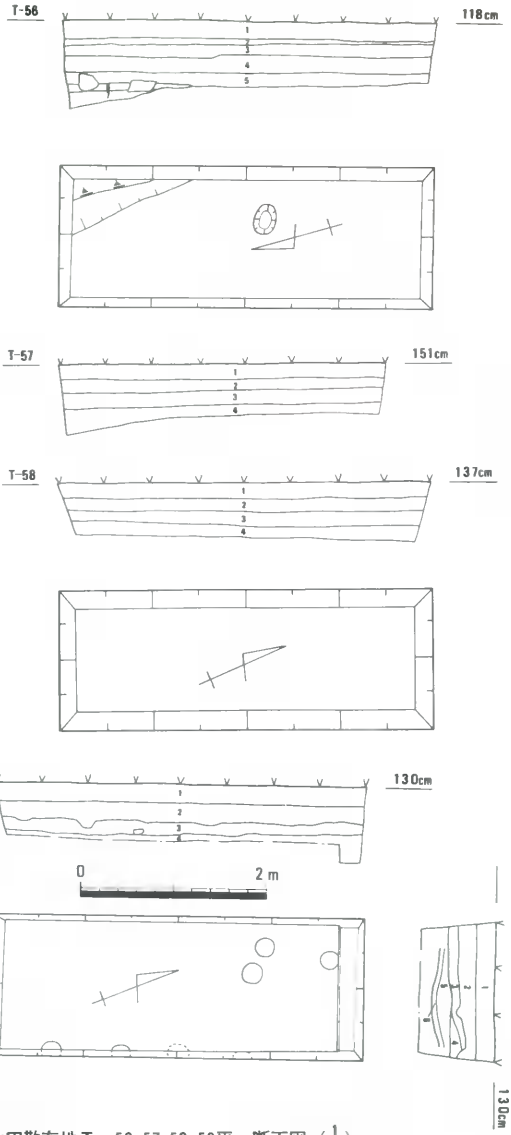


1．耕　土
2．淡灰色粘質土(複数の水田面)
3．灰褐色粘質土(包含層)
4．灰茶褐色土(包含層)
5．黄色・灰色混り土



1．耕　土
2．灰褐色粘質土
3．淡白色土(Fe層複数あり)
4．黄褐色土(Fe)
5．濃灰褐色粘質土

第27図　熊山田散布地T－53、54、55平・断面図 $(\frac{1}{60})$



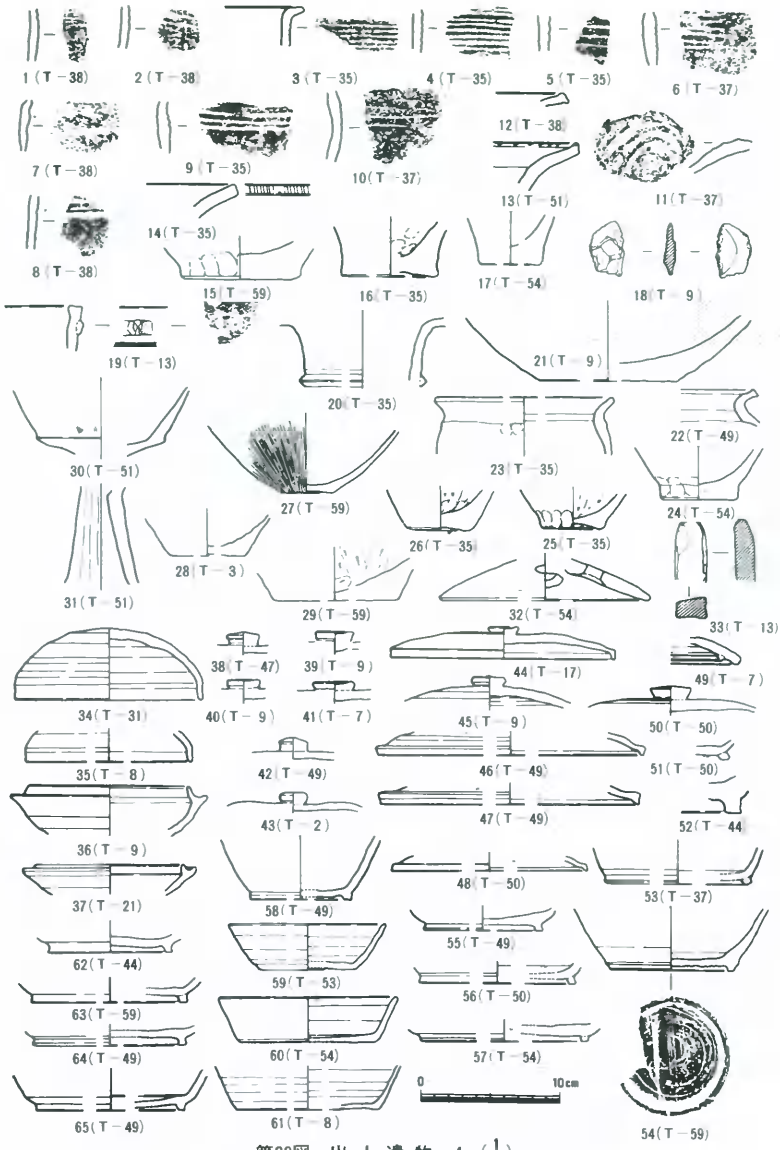
1　耕　土
2　灰色土(Fe層上部にあり)
3　淡灰色粘質土
4　濃灰褐色粘質土
5　濃灰褐色粘質土
6　黄褐色砂質土
7　灰色粘質土

1　耕　土
2　灰色土
　(耕土・マチダオシ)
3　灰褐色土
4　灰茶褐色土

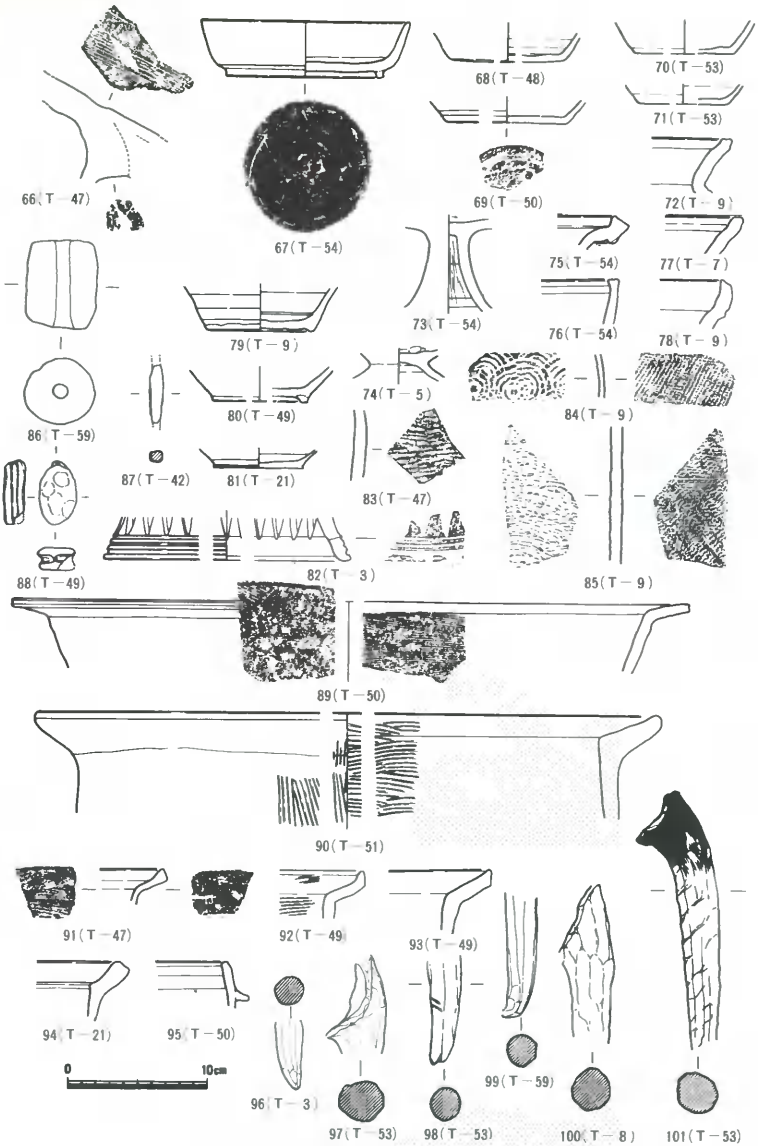
1　耕　土
2　黄灰色土(微砂混り)
3　灰茶褐色土(微砂混り)
4　茶灰色粘質土(微砂混り、
　包含層)

1　耕　土
2　淡灰茶褐色土(中世包含層)
3　暗灰褐色土(須恵器包含層)
4　黄灰褐色土(基盤層)
5　茶褐色粘質土(上部はFe、
　下部はMn含)
6　灰茶褐色土

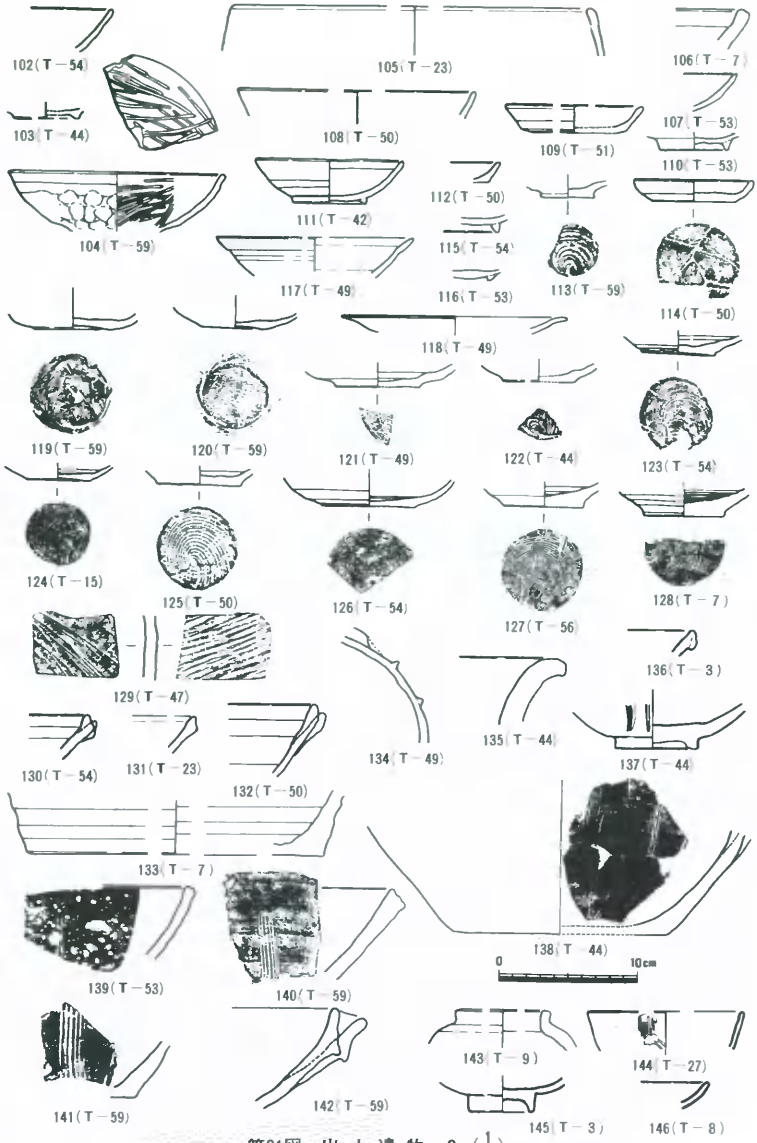
第28図　熊山田散布地T－56、57、58、59平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



第29図　出土遺物　1（$\frac{1}{4}$）



第30図　出 土 遺 物　2 $(\frac{1}{4})$



第31図　出土遺物　3　$(\frac{1}{4})$

第4章　ま　と　め

確認調査を実施した遺跡は、邑久郡邑久町土佐所在の土佐貝塚ほか7ケ所の遺跡である。調査の目的は、当該遺跡周辺一帯に、県営圃場整備事業が計画されたために、これら遺跡の規模、状況等を確認し、保護・保存の資料を作成するためのものであった。

土佐貝塚については、事業計画内に貝塚の広がりは確認されなかった。ただ一部トレンチから奈良・平安時代の溝が検出され、遺物の出土も認められた。これらの遺跡の広がりは隣接する散布地（№268）の一部水田にも広がっている様子で、円面硯等の出土があった。

散布地（№266）は、いずれのトレンチにも包含層、遺構は無く水田部まで遺跡は広がっていない。ただ谷に近い一部のトレンチの上層出土遺物中に若干の須恵器片、窯壁が含まれていることから谷奥部の猪垣窯跡から流出したものの一部が水田部に広がったものと考えられる。

石仏、佐井田東、北貝塚について、現状では貝塚の所在は確認できない。トレンチの結果は、いずれからも貝は検出されず計画内に貝塚は広がっていないものと考えられる。ただ佐井田北貝塚の一部トレンチからは、弥生時代の前半期の薄い包含層が認められており、遺構の存在も考えられる。

扇の端散布地では、丘陵北東裾の一部と丘陵北西端縁辺の水田下に遺構・包含層が確認された。このうち、T－42、44からは、上層に中世の遺物包含層が確認され、青磁、瓦器等の中世遺物がかなり出土している。またT－44下層からは弥生時代の杭列・ピット等の遺構の検出も行っている。トレンチの状況等から判断して、丘陵裾部のT－42、44の田面に遺跡が広がっていると考えられる。丘陵北西先端縁辺部のトレンチからは、弥生時代前・中期の包含層とT37、38の如く弥生時代前期の溝・落込み、杭列等の遺構も検出している。これらのことから、丘陵縁辺部には、弥生時代を中心とした遺跡の広がりが想定される。

熊山田散布地では、遺跡範囲の西端部に計13本のトレンチを設定した。いずれのトレンチからも遺物の出土が認められたものの、北端の山裾に設定したトレンチからは磨滅した遺物の出土が多く、安定した基盤面も認められず、低位部もしくは旧河道の可能性が強い。

南北の町道沿いに設定したT－49からT－56は主に、中世と古代の二時期の豊富な包含層が認められた。特にT－51では、耕土直下に遺構の検出を行っている。ただT－55では包含層も薄く、基盤面も若干低くなっており旧河道の可能性もある。T－52は中世の薄い包含層は認められたものの下層の包含層は無く、二層程の中世以前の水田層を確認したのみである。

以上が今回の圃場整備の対象となる地域内での概要である。今後、整備事業実施段階においては、関係者間の連絡と充分な協議がなされることが必要であろう。

表－2　トレンチ調査一覧表

土佐貝塚

トレンチ番号	遺構	包含層	遺物	出土量(g)	現表土レベル(m)	遺構・包含層までの深さ(cm)
1	無	－	須恵，土師		1.27	－
2	無	－	須恵，土師	100	0.95	－
3	無	－	弥生，須恵，土師	1,400	0.95	－
4	無	－	須恵，土師	100	0.63	－
5	無	－	－	－	0.57	－
6	無	－	須恵，土師	200	0.85	－
7	有	有	須恵，土師	7,150	1.08	－36

敷布地 (No. 268)

8	無	有	須恵，土師	1,100	0.90	－55
9	無	有	弥生，須恵，土師	3,300	0.97	－53
10	無	－	弥生，須恵，土師	280	0.85	－
11	無	－	須恵，土師	5,500	0.90	－
12	無	－	弥生，須恵，土師	270	0.69	－
13	無	有	弥生	100	0.70	－41
14	無	－	須恵，土師	250	0.81	－

敷布地 (No. 266)

15	無	－	須恵(糸切り)，土師	60	1.17	－
16	無	－		－	1.21	－
17	無	－	須恵，土師，備前	120	1.21	－
18	無	－	須恵，土師	140	1.23	－
19	無	－	須恵，土師，近世	110	1.23	－
20	無	－		－	1.28	－
21	無	－	窯壁片，須恵，土師(把手)，瓦質，青磁，近世	701	1.28	－
22	無	－		－	1.33	－
23	無	－	須恵，土師，瓦質，近世～	450	1.33	－

石仏貝塚

24	無	－	須恵，土師 or 弥生，近世	110	1.07	－
25	無	－	－	－	1.05	－
26	無	－	－	－	1.01	－

佐井田東貝塚

27	無	－	須恵，土師	100	0.65	－
28	無	－	－	－	0.55	－

佐井田北貝塚

29	無	－	須恵，土師，弥生，近世	120	0.68	－
30	無	－	須恵	1	0.68	－
31	有	有	須恵，土師，弥生，瓦質，近世	340	0.68	－50
32	有	有	土師，弥生，近世	90	0.63	－30

扇の端敷布地

33	無	－	鉄片，弥生，土師	440	0.60	－
35	無	有	弥生，須恵，土師	－	1.29	－31
36	無	－	弥生，須恵，近世	40	0.56	－
37	有	有	弥生，須恵	130	0.58	－40
38	有	有	弥生，須恵，木片	120	0.02	－50
39	無	－	弥生，須恵，	30	1.30	－
40	無	－		－	0.57	－
41	無	－	弥生，土器	10	0.56	－
42	無	有	弥生，土師，須恵，瓦質，サスカイト，鉄器	610	0.98	－30(中世) －60(弥生)
43	無	－	弥生，須恵，サスカイト，近世	110	0.62	－
44	有	有	タタキ石？，須恵，土師，青磁，サスカイト，備前，瓦器	1,540	1.11	－35(中世) －50(弥生)
45	無	－	弥生	1	0.64	－
48	有	有	弥生，須恵，近世	30	0.60	30

熊山田敷布地

46	無	有	須恵，土師，近世	620	1.27	－30(薄)
47	無	有	須恵，土師，陶棺，弥生，土師質	460	1.30	－30(薄)
49	有	有	須恵，土師，瓦質，土製品	7,510	1.26	－20
50	有	有	弥生，土師，須恵，白磁，瓦質，近世	1,270	1.21	－20
51	有	有	須恵，瓦器，土師，弥生	1,003	1.28	－20
52	無	有	須恵，土師	140	1.20	－20
53	有	有	須恵，白磁，瓦質，弥生，土師，須恵(内黒)，骨片スミ	93	1.24	－20
54	有	有	須恵，土師，弥生，常滑？，瓦器	3,215	1.30	－40
55	無	有	須恵，土師，土師質	170	1.22	－50(薄)
56	有	有	須恵，土師，瓦質，フイゴロ，近世，サヌカイト	1,240	1.18	－40
57	無	有	備前，焼土，サヌカイト，近世，須恵，土師		1.51	－50(薄)
58	無	有	須恵，土師，近世	280	1.37	－50(薄)
59	有	有	須恵，土師，弥生，瓦器，備前，サヌカイト，獣歯，緑釉，東播系	10,482	1.30	－20

表―3　土佐貝塚ほか遺物観察表

番号	器種		形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1(T-38)	弥生			淡灰色	0.5～3㎜砂粒	良好	
2(T-38)	〃			灰黄白色	0.5～2㎜砂粒	〃	
3(T-35)	〃	甕	外ヘラ描沈線	褐(灰黄)色	0.5～3㎜砂粒	〃	磨滅
4(T-35)	〃			淡褐色	0.5～3㎜砂粒	〃	
5(T-35)	〃			灰白褐色	0.5～3㎜砂粒	〃	
6(T-37)			ナデ	橙灰褐色	粗砂	良	磨滅
7(T-38)	〃		指頭?，列点文，沈線?	淡灰(黄)色	0.5～3㎜砂粒	良好	磨滅
8(T-38)	〃		外沈線，ケズり出し?	淡灰褐色	0.5～2㎜砂粒	〃	磨滅・黒斑
9(T-35)	〃		ヘラ描・沈線三条・ナデ	黒灰色	0.5～3㎜砂粒	〃	磨滅
10(T-37)	〃		ナデの上沈線	黒褐色	1～3㎜砂粒	不良	
11(T-37)	〃		ナデ	淡(黄)灰褐色	0.5～1.5㎜砂粒	良	磨滅
12(T-38)	〃		ヨコナデ	褐灰色	0.5～2㎜砂粒	良好	〃
13(T-51)	〃	壺		淡黄褐色	粗砂	良	〃
14(T-35)	〃			灰黄白橙色	0.5～2㎜砂粒	良好	〃
15(T-59)	〃		指頭圧	淡灰橙白色	1～2㎜細砂	良	〃
16(T-35)	〃			(暗)褐橙色	0.5～2㎜砂粒	良好	〃
17(T-54)	〃			灰色		良	〃
18(T-9)	サヌカイト						重6.8g
19(T-13)	弥生	壺	貼付凸帯 指頭凹凸文	淡灰褐色	1㎜砂粒	〃	
20(T-35)	〃	〃	貼付三角凸帯	淡黄灰色	0.5～2㎜砂粒	良好	磨滅
21(T-9)	〃		内押さえ後ヘラミガキ 外ヘラミガキ	灰白褐色	0.5～3㎜砂粒	〃	
22(T-49)	〃	甕	ヘラ削り?	灰褐色	1～3㎜砂粒	良	煤付着
23(T-35)	〃	〃		灰白褐色	0.5～2㎜砂粒	良好	磨滅
24(T-54)	〃		ナデ，指頭圧	淡白灰色	細砂	不良	
25(T-35)	〃		ヘラ削り，指頭圧	淡灰褐色	0.5～1㎜砂粒	良好	底部完
26(T-35)	〃		指頭圧後タテヘラ削り ハケメ(?)工具静止	淡灰橙色	0.5～4㎜砂粒	〃	3/4残
27(T-59)	〃		内削り後ナデか? 外細いミガキ	橙灰褐色	1～3㎜砂粒	良	
28(T-3)	〃			淡褐灰色	1～3㎜砂粒	〃	磨滅
29(T-59)	〃		内削り	淡(黄)灰色	1～4㎜砂粒	〃	
30(T-51)	土師	高杯	ハケかミガキ単位	淡灰褐色		〃	磨滅
31(T-51)	〃	〃	面取り?	橙灰色	1～2㎜砂粒	〃	
32(T-54)	弥生	〃	ナデ・四孔	淡橙灰白色	微砂	〃	磨滅
33(T-13)	石器	砥石	全面使用				
34(T-31)	須恵	杯蓋	ヘラ削り，ナデ	灰青色	0.5～2㎜砂粒	良好	
35(T-8)	〃	〃	ヨコナデ	暗灰色	0.5～1㎜砂粒	〃	
36(T-9)	〃	杯身	ヘラ削り，ロクロ石まわり	淡灰色	0.5～3㎜砂粒	〃	自然釉
37(T-21)	〃	〃	ヨコナデ，ヘラ削り	淡灰色	細砂	〃	〃
38(T-47)	〃	杯蓋	ヨコナデ	淡灰青色	細砂	〃	
39(T-9)	〃	〃	ヨコナデ	淡灰色	0.5～1㎜砂粒	〃	
40(T-9)	〃	〃	ヨコナデ	淡灰色	0.5～1㎜砂粒	〃	自然釉，磨滅
41(T-7)	〃	〃	ヨコナデ	淡灰色	0.5～3㎜砂粒	〃	
42(T-49)	〃	〃	接合痕，ナデ	灰青色	細粒	良	
43(T-2)	〃	〃		暗(青)灰色	ち密	〃	自然釉，点状
44(T-17)	〃	〃	ヘラ削り，ナデ	淡灰色	微砂	〃	自然釉
45(T-9)	〃	〃	ヘラ削り，ヨコナデ，粘土紐	青灰色	0.5～3㎜砂粒	良好	
46(T-49)	〃	〃	ヘラ削り，ナデ	淡灰青色	微砂	良	土器，右回
47(T-49)	〃	〃	ナデ	淡灰青色	微砂	〃	自然釉
48(T-50)	〃	〃	ヨコナデ	暗灰褐色	微砂	〃	〃
49(T-7)	〃	〃	ヘラ削り，ヨコナデ	灰色	0.5～1㎜微砂	良好	
50(T-50)	〃	〃	ヘラケズり，仕上げナデ	淡灰色	微砂	良	回転ヘラ庄
51(T-50)	〃	杯身	ヨコナデ	灰青色	微砂	〃	回転不明
52(T-44)	〃		ナデ	暗灰褐色	微砂	〃	
53(T-37)	〃	杯身	ヨコナデ	淡灰色	細砂	良好	
54(T-59)	〃	〃	ナデ	淡灰色	細砂	良	板目残・砂粒移動
55(T-49)	〃	〃		灰青色	1㎜前後砂粒	良好	
56(T-50)	〃	〃	ヨコナデ	灰青色		良好	回転不明
57(T-54)		椀		外灰色	細砂	良好	底部約1/2残
58(T-49)				淡灰色	1㎜前後砂粒	良	
59(T-53)		杯身	若干強いナデ	暗青灰色	1㎜前後砂粒	良好	火だすき様
60(T-54)			ナデ	淡灰色	微砂	良好	

番　号	器　種		形態・手法の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
61(T-8)			ヨコナデ，ナデ？	外淡灰色	0.5～1㎜砂粒	良　好	
62(T-44)			ナ　デ	淡(白)灰(青)色	1㎜砂粒	良	
63(T-59)			ナ　デ	灰青色	1㎜以下砂粒	良	
64(T-49)			ヨコナデ，回転ヘラ左	灰青色	半透明，微砂	良	
65(T-49)			ヨコナデ	灰　色	細　砂	良	
66(T-47)	須　恵	陶　棺	指頭圧上ナデ	淡黒灰色	0.5～1㎜砂粒	良	家　形
67(T-54)	〃	杯　身	ナデつめ跡	淡灰(青)色	1㎜以下粒		ヘラ記号
68(T-48)	〃	〃	ヨコナデ，ヘラ切り 内底部指頭圧	淡灰色	0.5～1㎜砂粒	良	
69(T-50)	〃	〃	ヨコナデ，回転ヘラ圧	暗灰青色	細　砂	良	内面に火だすき様
70(T-53)	〃	〃	ナ　デ	暗灰青色	1.5～2㎜砂粒	良　好	
71(T-53)	〃	〃	ヘラ切り，ナデ	灰　色	1㎜前後砂粒	良　好	
72(T-9)	〃	甕	ヨコナデ	淡灰色	0.5～1㎜砂粒	良　好	
73(T-54)	〃	高　杯	ナデ，絞り	淡灰色	精製粘土	良　好	
74(T-5)	〃	〃	ロクロナデ，指頭圧	暗灰青色	ち　密	良	点状自然釉
75(T-54)	〃	甕		灰　色	砂　粒	良	自然釉
76(T-54)	〃	鉢	ヨコナデ	淡灰色	細　砂	良　好	
77(T-7)	〃	甕	ヨコナデ	外淡灰色	0.5～1㎜砂粒	良　好	
78(T-9)	〃	〃	ヨコナデ	淡灰色	0.5～1㎜砂粒	良　好	
79(T-9)	〃	杯　身		青灰色	0.5～1㎜砂粒	良　好	
80(T-49)	須　恵	〃		暗灰色	1㎜前後砂粒	〃	ヘラ記号
81(T-21)	〃	〃	ヘラ切り	赤茶褐色	細　粒	良	磨　滅
82(T-3)	〃	硯		淡灰(青)色	ち　密	〃	
83(T-47)	〃		指頭圧	灰　色	1㎜前後砂粒	〃	
84(T-9)	〃		2㎜幅平行タタキ(格子目風)	灰白色	0.5～2㎜砂粒	—	
85(T-9)	〃		幅1㎜平行タタキ後，ヨコカキ目	淡灰(青)色	0.5～1㎜砂粒	良　好	
86(T-59)	土　推			淡灰橙色	0.5～2㎜砂粒	良	重172.2g
87(T-42)	鉄　釘			黒褐色		—	
88(T-49)	土　錘			黒褐色	1㎜未満砂粒	良　好	
89(T-50)	土　師	鍋	ハケ目上，指頭圧	褐灰色	細砂多	良	
90(T-51)	〃		荒いハケ目	外，(暗)灰褐色	1㎜前後砂粒	〃	
91(T-49)	〃		ヨコ，タテ方向ハケ目	暗茶灰褐色	細　砂	〃	
92(T-49)	〃			暗茶褐色	1～1.5㎜砂粒	良　好	
93(T-49)	〃		指頭圧上ハケ目	淡黄茶褐色	細　粒	良	磨　滅
94(T-21)	瓦　質		指頭圧痕	暗褐色	細　砂	良　好	
95(T-50)	〃	羽　釜		灰青色	1/4～1㎜粒砂	良	
96(T-3)	土　師			淡灰白色	1㎜以下砂粒子	〃	
97(T-1)	〃		ケズリ取りか？	暗黒灰色	1㎜砂粒	〃	
98(T-53)	〃			灰褐色	0.5㎜以下砂粒	—	粘土未処理
99(T-54)	〃			淡褐灰色	細　砂	良	
100(T-8)	〃			内，外黒灰色	0.5～2㎜砂粒	良	
101(T-53)	〃		ヨコ不定ハケメ ねじった後，ハケメ	淡灰褐色 灰(黒)褐色	1～3㎜砂粒	良　好	
102(T-54)	瓦　器	椀	ヨコナデ，指頭圧	黒灰色	精良粘土	良	
103(T-44)	〃		ナデか？	暗黒灰色	微　砂	良	
104(T-51)	〃		ヨコナデ	内，外黒灰色	0.5～1㎜砂粒	良	
105(T-23)	瓦　質	羽　釜	ナ　デ	黒褐色	1㎜未満砂粒	良　好	
106(T-7)	〃		ヨコナデ	淡灰(緑)色	0.5～1㎜砂粒	良　好	自然釉，使用痕
107(T-53)	〃		ナ　デ	淡灰(黄)色	0.5㎜以下砂粒	良	有機物付着
108(T-50)	土　師	椀	ヨコナデ	暗灰黄褐色	微　砂	良	
109(T-51)	〃	小　皿	ヨコナデ，ヘラ切り	淡黄褐色	細　粒	良	
110(T-53)	〃		ナデ，貼付高台脚	淡灰(黄)白色	1㎜以下砂粒	良	
111(T-42)	〃	高台付椀	ヨコナデ，粘土接合痕	淡黄灰白色	微　砂	良	
112(T-50)	〃	灯明皿	ヨコナデ，糸切り，ヘラ先圧	黄灰茶褐色	中粒砂	良	
113(T-59)	須　恵		ナデ，糸切り	淡灰色	1㎜以下粒	良	
114(T-50)	〃		底部ヘラ切り	淡灰白色	細　粒	良	磨滅，重ね焼き
115(T-54)	土　師		ナデ，貼付高台脚	淡灰橙色	若干砂粒	良	
116(T-53)	〃		ナデ，貼付高台脚	淡灰(黄)白色	1㎜以下砂粒	良	
117(T-49)	須　恵			淡灰色	1㎜未満砂粒	良	重ね焼き
118(T-49)	〃		ナ　デ	灰青色	1㎜未満砂粒	良　好	
119(T-59)	〃		糸切り	灰白色	1㎜以下砂粒	やや良	
120(T-59)	〃		糸切り，ロクロの方向	灰白色	水濾粘土	やや良	
121(T-49)	〃	椀	ヨコナデ，糸切り	淡灰色	細　砂	良	
122(T-44)	〃		ナデ，糸切り	灰青色	ち　密	良	
123(T-54)	〃	椀	ナデ，糸切り	灰色	微　砂	良	

番号	器種		形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
124(T-54)	須恵		ヨコナデ，仕上げナデ，糸切り	淡灰色	精製粘土	良好	
125(T-50)	〃	椀	ヨコナデ，糸切り	暗灰色	微砂	良	
126(T-54)	〃	椀	ヨコナデ，糸切り	淡灰色	細砂	良好	
127(T-56)	〃	椀	ヨコナデ，糸切り	淡灰色	細砂	良好	マンガン付着
128(T-7)	〃		ヨコナデ，糸切り	灰(青)色	0.5～1mm砂粒	良好	重厚
129(T-47)	〃		タタキ目，板状工具，ナデ	外淡灰色	1mm前後砂粒	良	
130(T-54)	東播系	こね鉢	ナデ	灰青色	砂粒	良好	重ね焼き
131(T-23)	〃	〃	ナデ，端部磨滅	灰色	細砂	良	
132(T-50)	〃	〃	ヨコナデ	淡灰色	粗粒	良	重ね焼き
133(T-7)	須恵		指頭圧	暗灰(青)色	1～2mm砂粒	良	
134(T-49)	〃	壺	ナデ，斜方向平行タタキ	淡灰青色	1～1.5mm砂粒	良好	
135(T-44)	〃		ナデ	(暗)灰青色	ち密	良	
136(T-3)	白磁	椀		淡白灰色	ち密	良	
137(T-44)	青磁	〃	ナデ，工具，指紋	暗緑色	ち密	良	
138(T-44)	備前	スリ鉢		淡灰褐色	3mm砂粒	不良	
139(T-53)	瓦質	〃	条痕	黒灰色	2mm以下砂粒	良	
140(T-59)	備前	〃	条痕，ナデ	淡灰色	1mm以下砂粒	良	
141(T-59)	〃	〃	ナデ，条痕	黒灰色	2mm前後砂粒	良	自然釉
142(T-59)	〃	〃	ナデ	暗茶褐色	1～2mm砂粒	良	重ね焼き
143(T-9)	〃	壺	ヨコナデ	黒灰色	0.5～1mm砂粒	良好	
144(T-27)	伊万里	磁器		淡褐白色	ち密	良	釉
145(T-13)	京焼	〃	ロクロナデ	淡褐色	ち密	良	釉，細貫入
146(T-8)	伊万里	〃	ヨコナデ，糸切り	黒灰色	0.5～1mm砂粒	良	
147	須恵	椀	内外回転ナデ，外下端末調整，糸切り	暗灰色	0.5～2mm砂粒	良好	
148	〃	〃		〃	〃	〃	剝落
149	〃	〃	内外回転ナデ，糸切り	〃	〃	〃	
150	〃	〃	〃　〃	〃	〃	〃	
151	〃	〃	〃　，外下端末調整，糸切り	〃	〃	〃	底部火襷
152	〃	〃	〃　〃	〃	〃	〃	
153	〃	〃	〃　〃　，ヘラ切り	〃	〃	〃	底部板目
154	〃	〃	〃　，糸切り	淡灰色	〃	〃	内底部重ね焼
155	〃	〃	〃　，外下端末調整，糸切り	暗灰色	〃	〃	
156	〃		〃　〃　，ヘラ切り	〃	〃	〃	
157	〃	高台付杯	〃　，貼付高台　，底部ヘラケズリ	〃	〃	〃	剝落
158	〃	〃	，貼付高台	灰褐色	〃	〃	
159	〃	鉢	回転ナデ	暗灰色	〃	〃	歪み大・自然釉
160	〃	不明	内外回転ナデ	〃	〃	〃	
161	〃	壺	回転ナデ，胴部貼付凸帯2条	外一灰青色	〃	〃	自然釉
162	〃	甕	外格子目風タタキ，内同心円文	暗灰色	〃	〃	
163	〃	甕	内上位，平行タタキ，下同心円文，外格子目風平行タタキ	〃	〃	〃	
164	〃	甕	〃	〃	〃	〃	

図版 1

1.　土佐貝塚遠景（南から）

2.　散布地(No. 268)遠景（西から）

図版 2

1.　扇の端散布地遠景（東から）

2.　熊山田散布地遠景（邑久町立病院から北方向）

図版 3

1、熊山田散布地遠景（北から）

2、石仏貝塚遠景（西から）

3、散布地（No.266）遠景（南から）

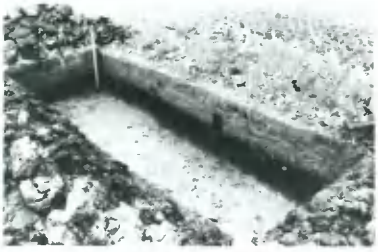
図版 4

1、佐井田東貝塚（手前）、土佐貝塚（上手）遠景（南西から）

2、佐井田北貝塚遠景（南東から）

3、散布地（No.266）埋戻し風景

図版 5



1.　土佐貝塚　T－1（南々西から）

2.　土佐貝塚　T－2（西北西から）

3.　土佐貝塚　T－3（北西から）

4.　土佐貝塚　T－4（南西から）

5.　土佐貝塚　T－5（南西から）

6.　土佐貝塚　T－6（南西から）

7.　土佐貝塚　T－9（北西から）

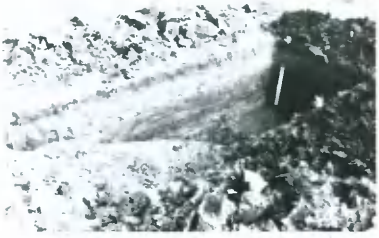
8.　土佐貝塚　T－7（南西から）

図版 6

1.　散布地(No. 268) T－8 (西から)

2.　散布地(No. 268) T－9 (南西から)

3.　散布地(No. 268) T－10 (西から)

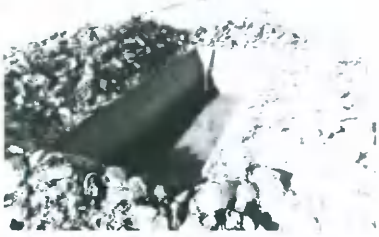


4.　散布地(No. 268) T－11 (西から)

5.　散布地(No. 268) T－13 (南々東から)

6.　散布地(No. 266) T－15 (南東から)

7.　散布地(No. 266) T－15 (東から)



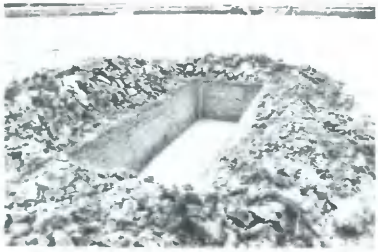
8.　散布地(No. 266) T－16 (南東から)

図版 7

1.　散布地(No. 266) T－17（南東から）

2.　散布地(No. 266) T－18（南東から）

3.　散布地(No. 266) T－19（南東から）



4.　散布地(No. 266) T－20（南東から）

5.　散布地(No. 266) T－21（北西から）

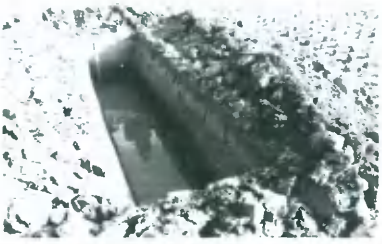
6.　散布地(No. 266) T－22（南東から）

7.　散布地(No. 266) T－23（南東から）

8.　石仏貝塚　T－24（南東から）

図版 8

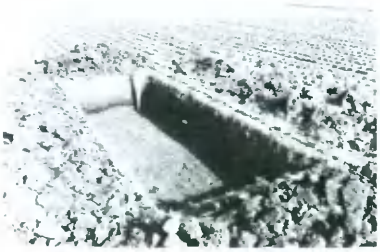
1.　石仏貝塚　T－25（南東から）



2.　石仏貝塚　T－26（南西から）

3.　佐井田東貝塚　T－27（南東から）

4.　佐井田東貝塚　T－28（北西から）



5.　佐井田北貝塚　T－29（南西から）

6.　佐井田北貝塚　T－30（北東から）

7.　佐井田北貝塚　T－31（南から）

8.　佐井田北貝塚　T－32（北から）

図版 9

1.　扇の端散布地　T－33（西から）

2.　扇の端散布地　T－35（西から）

3.　扇の端散布地　T－36（南から）

4.　扇の端散布地　T－37（北西から）

5.　扇の端散布地　T－37（北東から）

6.　扇の端散布地　T－38（南東から）

7.　扇の端散布地　T－39（南東から）

8.　扇の端散布地　T－40（西から）

図版10

1.　扇の端散布地　T－41（南東から）

2.　扇の端散布地　T－42（南東から）

3.　扇の端散布地　T－43（南東から）

4　扇の端散布地　T－43（東から）

5.　扇の端散布地　T－44（北東から）

6.　扇の端散布地　T－44（北東から）

7.　扇の端散布地　T－45（南西から）

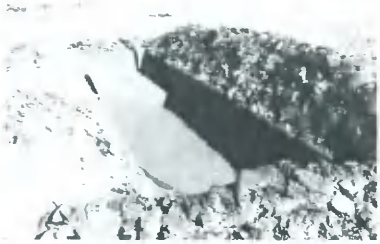
8.　扇の端散布地　T－48（南東から）

図版11

1.　熊山田散布地　T－46（北西から）

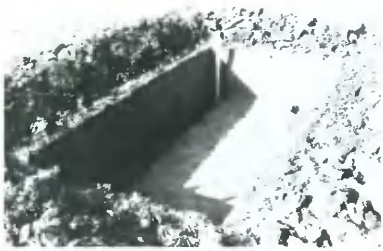
2.　熊山田散布地　T－47（南から）

3.　熊山田散布地　T－49（南西から）



4.　熊山田散布地　T－50（南西から）

5.　熊山田散布地　T－51（南から）



6.　熊山田散布地　T－52（東から）

7.　熊山田散布地　T－53（南西から）

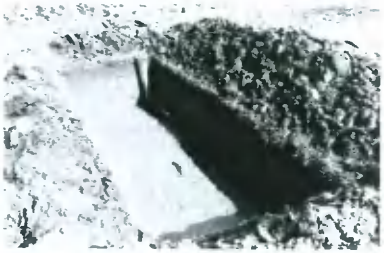
8.　熊山田散布地　T－53（東から）

図版12

1.　熊山田散布地　T　54（東から）

2.　熊山田散布地　T－54（南から）

3.　熊山田散布地　T－55（南西から）



4.　熊山田散布地　T－56（南西から）

5.　熊山田散布地　T－57（東から）

6.　熊山田散布地　T－58（南から）

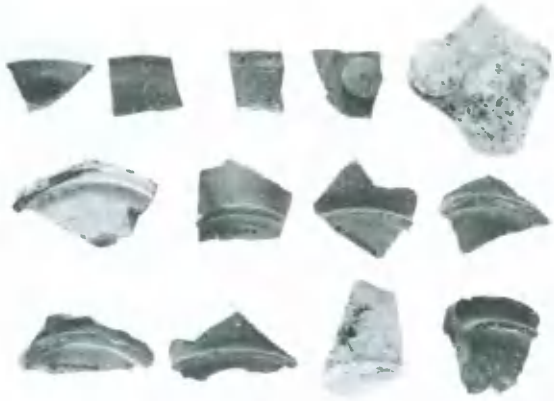
7.　熊山田散布地　T－59（南西から）

8.　熊山田散布地　T　59（北西から）

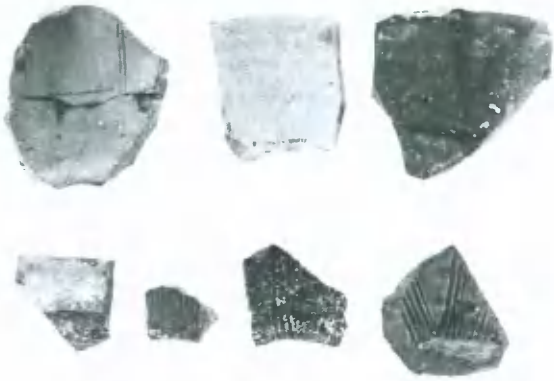
図版13

土佐貝塚ほか出土　硯、青磁、瓦器ほか

図版14



1.　土佐貝塚ほか出土須恵器



2.　土佐貝塚ほか出土備前焼

美土路遺跡ほか

例　　言

1. 本書は、岡山県教育委員会が昭和61年度国庫補助を受けて実施した圃場整備事業に伴う「美土路(みどろ)遺跡ほか」の発掘調査概要報告書である。

2. 遺跡は英田郡大原町川上 2948 他に美土路遺跡が、同町野形 89－1 他に野形(のがた)A 遺跡が所在する。

3. 発掘調査は岡山県古代吉備文化財センター職員山磨康平が担当し、専門委員の指導、助言を得て昭和61年 5 月19日から昭和61年 7 月12日まで実施した。

4. 発掘調査にあたっては、大原町役場、大原町教育委員会、地権者等関係各位から多大な援助を受けた。

5. 本報告書の作成は、文化財センター職員諸氏の協力を得、山磨が編集、執筆を行った。

6. 出土遺物、実測図、写真等は文化財センター（岡山市西花尻 1325－3）に一括保管している。

7. 本書に使用した数値は海抜高である。方位は、第 1 、 2 、 4 、19図が真北、他は磁北である。

8. 本書第 2 図に使用した地形図は建設省国土地理院発行の 25,000 分 の 1 地形図（古町、佐用）を複製したものである。

目　　次

例　言
目　次
第１章　地理的、歴史的環境……127
第２章　調査の経緯……130
第３章　発掘調査の概要……132
第４章　まとめ……149

図　目　次

第１図　美土路遺跡ほか位置図 ……127
第２図　周辺遺跡分布図（１／25,000）……128
第３図　大原町川上出土鉄剣（１／４）……129
第４図　美土路遺跡　トレンチ設定図（１／1,500）……133
第５図　美土路遺跡　トレンチ１・２・３平・断面図（１／60）……134
第６図　美土路遺跡　トレンチ４・５・７平断面図（１／60）……135
第７図　美土路遺跡　トレンチ６平・断面図（１／60）……136
第８図　美土路遺跡　トレンチ６・10・11付近全体図（１／400）……137
第９図　美土路遺跡　トレンチ８平・断面図（１／60）……138
第10図　美土路遺跡　トレンチ10・12・13平・断面図（１／60）……139
第11図　美土路遺跡　トレンチ９・11・14・15・16平・断面図（１／60）……140
第12図　美土路遺跡　トレンチ16拡張区全体図（１／150）……141
第13図　美土路遺跡　トレンチ16拡張区土壙１（１／40）……142
第14図　美土路遺跡　トレンチ16拡張区土壙２（１／40）……142
第15図　美土路遺跡　出土遺物１（１／４）……144
第16図　美土路遺跡　出土遺物２（１／４）……145
第17図　美土路遺跡　出土遺物３（１／４）……146
第18図　野形Ａ遺跡　トレンチ１・２断面図（１／60）……147
第19図　野形Ａ遺跡　トレンチ設定図（１／1500）……148

図　版　目　次

図版１　１．美土路遺跡遠景（南西から）
図版１　２．美土路遺跡遠景（北から）
図版２　１．美土路遺跡Ｔ－16拡張区発掘風景

図版２　２．美土路遺跡Ｔ－８遺構発掘風景
図版２　３．美土路遺跡埋戻し風景
図版３　１．美土路遺跡Ｔ－１（西から）
図版３　２．美土路遺跡Ｔ－２（東から）
図版３　３．美土路遺跡Ｔ－３（西から）
図版４　１．美土路遺跡Ｔ－４（西から）
図版４　２．美土路遺跡Ｔ－７（南西から）
図版４　３．美土路遺跡Ｔ－９（南東から）
図版５　１．美土路遺跡Ｔ－６（南から）
図版５　２．美土路遺跡Ｔ－６（南東から）
図版６　１．美土路遺跡Ｔ－８（北東から）
図版６　２．美土路遺跡Ｔ－10（南から）
図版７　１．美土路遺跡Ｔ－11（北から）
図版７　２．美土路遺跡Ｔ－11（東から）
図版８　１．美土路遺跡Ｔ－12（南から）
図版８　２．美土路遺跡Ｔ－13（西から）
図版８　３．美土路遺跡Ｔ－14（南から）
図版９　１．美土路遺跡Ｔ－16拡張区（南西から）
図版９　２．美土路遺跡Ｔ－16拡張区（北東から）
図版10　１．美土路遺跡Ｔ－16拡張区土壙－１（南東から）
図版10　２．美土路遺跡Ｔ－16拡張区土壙－２（北西から）
図版10　３．美土路遺跡Ｔ－16拡張区土壙－２（北から）
図版11　１．野形Ａ遺跡遠景（北から）
図版11　２．野形Ａ遺跡遠景（南東から）
図版12　１．野形Ａ遺跡Ｔ－１（南から）
図版12　２．野形Ａ遺跡Ｔ－２（南西から）
図版12　３．野形Ａ遺跡Ｔ－２土層断面（南東から）
図版13　　美土路遺跡出土　土師器、瓦質土器、須恵器（勝間田焼）
図版14　１．美土路遺跡出土　須恵器（勝間田焼ほか）
図版14　２．美土路遺跡出土　土錘、鉄釘、炉壁片
図版15　　美土路遺跡出土　青磁、白磁、青白磁
図版16　　美土路遺跡出土　東播系須恵器

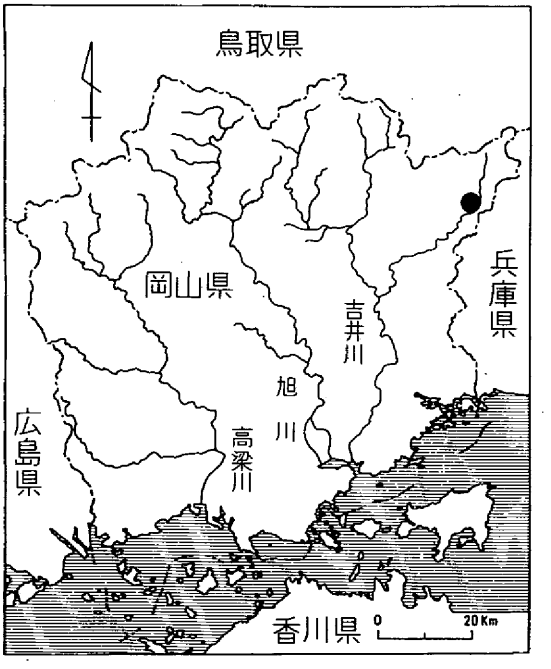
表　目　次

表－１　トレンチ調査一覧表……150
表－２　美土路遺跡遺物観察表……150

第１章　地理的・歴史的環境

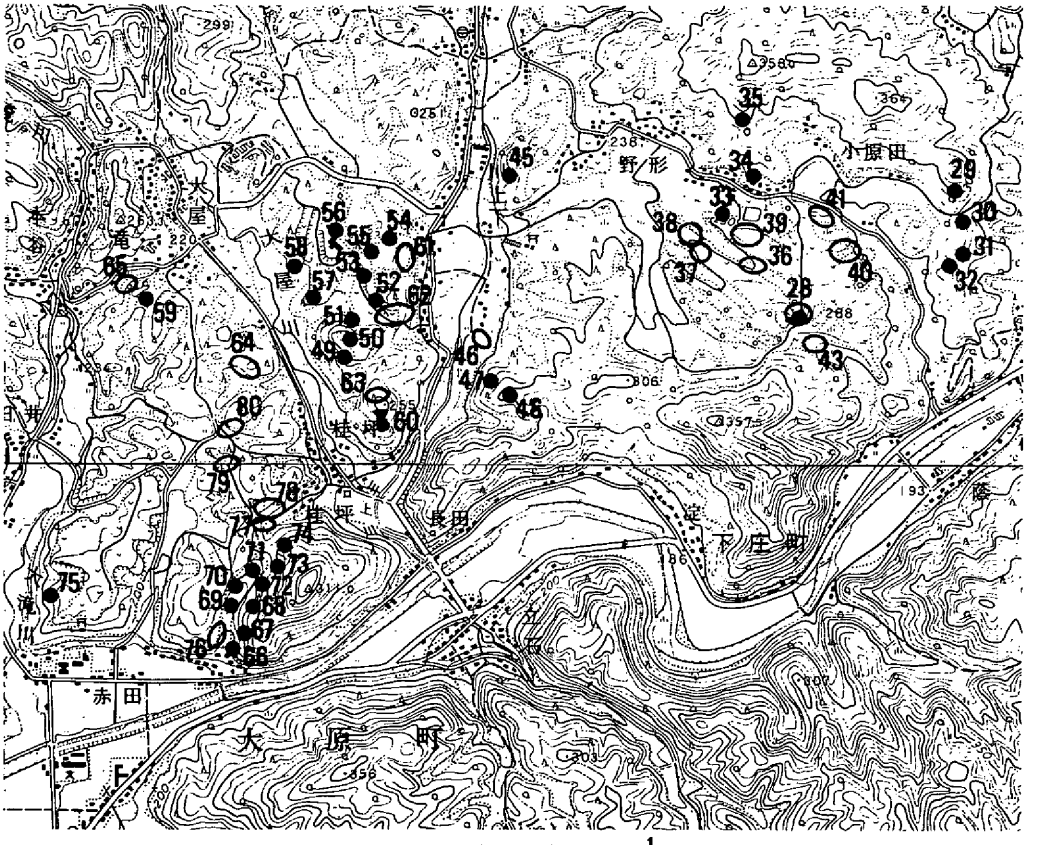
美土路遺跡は、英田郡大原町川上に、野形Ａ遺跡は、同野形に所在する。県下３大河川の一つである吉井川の支流吉野川とこの一支流川上川とに狭まれた低丘陵部に野形Ａ遺跡が、川上川の谷底平野に美土路遺跡が、それぞれ位置する。吉野川は英田郡粟倉村大茅の岡山・兵庫・鳥取の三県境付近に源を発する。大原町・作東町を流下し、美作町林野で梶並川を合わせ、英田町を通り、月の輪古墳（註１）のある柵原町飯岡で吉井川本流と合流する。延長約50㎞の岡山県北山間の中河川である。吉野川流域では、河川の合流点付近を中心に狭長な谷底平野が形成され、そこを基盤として遺跡が分布する。古墳は大原町庄田に所在するものを北限とする。作東町山手地区には大海廃寺が北東から南西へ流れる吉野川の北岸河岸段丘上にあり、東西１㎞、南北0.2㎞の広地をもつ。東の対岸には、河内川沿いに五名の谷底平野が長さ1.5㎞、幅0.25㎞の規模で接している。また上流では、狭隘部を境として大原町壬生を中心に長さ２㎞、幅0.5㎞の平地が広がっている。この三つの平野が接近して一つの地域的なまとまりをもっている。この地域内に後期古墳が二十基前後所在するが、壬生の北方赤田では赤田古墳群が形成されている。隣接する平野部としては、上流に大原町古町・中町・下町・宮本と南北に続くものがあり、前期の山の後２号墳（註２）をはじめ二十基前後の古墳が形成され、また奈良前期の寺跡である長大寺跡がある。下流には、山家川との合流点である作東町江見を中心にした長さ2.5㎞、幅0.75㎞の平野部があり、弥生中期以降の複合遺跡である高本遺跡（註３）、奈良前期の江見廃寺が立地する。なお、奈良前期の寺跡としては、山家川上流沿いに、竹田廃寺、土居廃寺が近接して分布している。

大原町は、美作国の東端に位置する。隣国との交通路を考えてみると、現在の交通路がほとんどそのまま古代



第１図　美土路遺跡ほか位置図

の道として復原されるようである。すなわち、江見から山家川を溯れば万能峠を越えて千種川上流域の佐用郡上月町に至るが、これは現在の国鉄姫新線の路線である。また中国縦貫自動車道は江見から東へ杉坂峠を越え、佐用川支流の幕山川沿いに佐用郡佐用町に至る。これらは美作国と播磨国を結ぶ通路で、とくに前者は古代に出雲街道といわれる幹線道路であった。一方、大海廃寺付近からは、作東町五名から東へ進み、佐用川支流江川の上流佐用町豊福へ出る道路があり、大原町中町から佐用川上流域の佐用町上石井へ出、川を下って佐用町中心部へ至る道

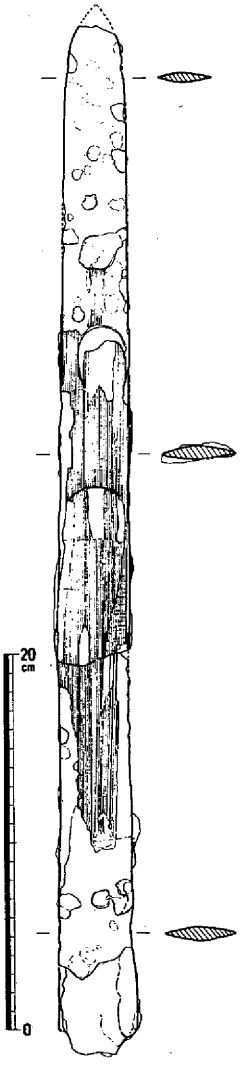


第2図　周辺遺跡分布図 $\left(\frac{1}{25,000}\right)$

28. 竹谷古墳
29. 才の屺2号墳
30. 小原田火釜
31. 御霞1号墳
32. 御霞2号墳
33. 野形1号墳
34. 野形2号墳
35. 野形3号墳
36. 野形A遺跡(弥生)
37. 野形B遺跡(弥生)
38. 野形C遺跡(弥生)
39. 野形D遺跡(弥生)
40. 野形E遺跡(弥生)
41. 野形F遺跡(弥生)
42. 野形G遺跡(弥生)
43. 野形H遺跡(弥生)
44. 真船遺跡(室町)
45. 川上古墳
46. 美土路遺跡
47. 岩戸1号墳
48. 岩戸2号墳
49. 桂坪1号墳
50. 桂坪2号墳
51. 桂坪3号墳
52. 桂坪4号墳
53. 桂坪5号墳
54. 桂坪6号墳
55. 桂坪7号墳
56. 桂坪8号墳
57. 桂坪9号墳
58. 桂坪10号墳
59. 桂坪11号墳
60. 桂坪12号墳
61. 桂坪A遺跡(弥生)
62. 桂坪B遺跡(弥生)
63. 桂坪C遺跡(弥生)
64. 桂坪D遺跡(弥生)
65. 桂坪E遺跡(弥生)
66. 赤田1号墳
67. 赤田2号墳
68. 赤田3号墳
69. 赤田4号墳
70. 赤田5号墳
71. 赤田6号墳
72. 赤田7号墳
73. 赤田8号墳
74. 赤田9号墳
75. 赤田10号墳
76. 赤田A遺跡(弥生)
77. 赤田B遺跡(弥生)
78. 赤田C遺跡(弥生)
79. 赤田D遺跡(弥生)
80. 赤田E遺跡(弥生)

路も播磨と継がる。これに対して吉野川を溯れば大原町から西粟倉村へ入り、坂根から志戸峠を越えると八頭郡智頭町の千代川最上流域に下りる。千代川沿いに下れば用瀬町を経て、郡家町を通り、因幡国府へ通じる。このように、吉野川上流域は播磨から因幡に抜ける交通路である。現在も国鉄智頭線が佐用から大原を通り、智頭まで建設されつつある。

なお、第3図に掲載した鉄剣は、1983年秋から冬にかけての同町川上の圃場整備にともなう工事中に出土したものである。出土時の状況は詳しく伝えられていないが水田中の組合式石棺（箱式石棺？）から発見されたようである。おそらく、墳丘を失った古墳の主体部に副葬されたものであることに、まちがいないと思われる。全体は、銹化が著しく所々に銹ぶくれがみられ、気泡状の銹が全体にひろがっている。全長は、茎部が切損して失われているため不明であるが、残存長54.6㎝、身幅は中央部で3.6㎝、厚さ7㎜を測り、切先近くも折損する。身部には鎬は認められないが、切先にかけて徐々に身幅がせまく、鋭くなっている。身部の中央部には柾目方向の木理が看取される木質が遺存しており、鞘の木質遺体と考えられる。茎部との境界に近い部分で切損しているものと推定され、復元推定全長は約60㎝ほどの比較的長い剣であることが注目される。時期的には、共伴遺物が発見されていないことから不明であるが、鉄剣の出土する古墳の時期は、概ね限定されることから、5世紀代に推定できることが指摘できる。



第3図　大原町川上出土鉄剣（$\frac{1}{4}$）

註

（1）　近藤義郎他『月の輪古墳』月の輪古墳刊行会　1960年

（2）　栗野克己・福田正継「（5）山の後2号墳発掘調査報告」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告（13）』1976年

（3）　井上弘・山磨康平・岡田博・高畑知功「高本遺跡（1）」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告（8）　1975年

本章は、岡本寛久他「大海廃寺緊急発掘調査報告Ⅱ」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』33岡山県教育委員会　1979年の第1章を加筆、修正したものである。なお、後半の大原町川上出土の鉄剣の項は、岡田博による。

第2章　調 査 の 経 緯

第1節　調査に至る経緯

英田郡大原町川上、野形一帯における、土地改良総合整備事業が計画されたのに伴い、昭和61年1月17日付で、大原町長より文化財保護法第57条の3にもとづく協議の文書が岡山県教育委員会あてに提出された。内容は、ともに周知の遺跡の同町川上地内における美土路遺跡と同野形地内における野形A遺跡の取扱いについてである。関係者による協議の結果、これらの遺跡について、工事施行前に遺跡の規模、状況等を明らかにし、遺跡の保護、保存を講ずるための基礎資料を得るため、昭和61年度国庫補助を受けて発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが、専門委員の指導、助言を得て、昭和61年5月19日から7月12日の間実施した。

調査にあたっては、大原町役場、大原町教育委員会をはじめ地権者等関係各位から多大の御協力を得た。また、発掘作業にあたっては、地元有志の方々にご協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。

第2節　調査体制および日誌抄

調査体制

専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　　橋本泰夫

総務課長　　佐々木　清

調査課長　　河本　清

文化財保護主査　　山磨康平（調査担当）

発掘作業員

片山満夫、小渕学美、下山　泉、春名末子、平田詮昭、平田平吉、平田正枝、本位田ハルヨ、中尾美留枝、野々上力、矢田隆

日誌抄

昭和61年

5月19日（月）　発掘器材の搬入

5月20日（火）　美土路遺跡トレンチ設定

5月21日（水）　美土路遺跡Ｔ－１～３掘り下げ

5月26日（月）～30日（金）　美土路遺跡Ｔ－１～３断面実測、Ｔ４～７掘り下げ

6月２日（月）　美土路遺跡Ｔ－６・７掘り下げ、野形Ａ遺跡トレンチ設定

6月３日（火）　野形Ａ遺跡Ｔ－１・２掘り下げ

6月４日（水）～６日（金）　美土路遺跡Ｔ－８～11掘り下げ、Ｔ－６・８遺構の掘り下げ、野形Ａ遺跡トレンチ、写真、実測

6月７日（土）　美土路遺跡Ｔ－４・５・６・８・９断面実測

6月９日（月）　美土路遺跡Ｔ－10～16掘り下げ

6月12日（木）　美土路遺跡Ｔ－12・13掘り下げ、Ｔ－14・５実測及び埋戻し

6月13日（金）　野形Ａ遺跡Ｔ－１・２埋戻し

6月18日（水）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張区設定、Ｔ－９・11断面実測

6月19日（木）～21日（土）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張掘り下げ、Ｔ－10・11写真撮影

6月24日（火）～25日（水）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張掘り下げ、Ｔ－10・11写真撮影

6月26日（木）～28日（土）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張掘り下げ、検出開始、各トレンチ平板実測

6月30日（月）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張掘り下げ、Ｔ－３・８補足

7月１日（火）～３日（木）　美土路遺跡Ｔ－16周辺遺構検出、Ｔ－12・13実測、Ｔ－１・４・９埋戻し

7月４日（金）～５日（土）　美土路遺跡Ｔ－16周辺検出、遺構掘り下げ、一部拡張、Ｔ－12・13実測、Ｔ－３・７・12・13埋戻し

7月７日（月）～８日（火）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張区、遺構精査、全景写真Ｔ－６・８・10・11・12・３埋戻し

7月９日（水）～10日（木）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張区、補足調査、各トレンチ平板実測

7月11日（金）　美土路遺跡Ｔ－16周辺拡張区、土壙１実測、器材撤収

7月12日（土）　美土路遺跡各トレンチ平板実測及び補足調査、現場作業終了。

第3章 発掘調査の概要

第1節 美土路遺跡

(1) 遺跡の立地と調査前の状況

町内中央を南北に貫流する吉野川には、いく筋もの支流が合流している。その一支流である川上川の下流域には、幅0.5km、長さ2km程の狭少な谷底平野を形成している。

当遺跡は、この下流部の河川左岸に位置している。幅80m程が丘陵端より突出した様に付近の水田面より一段高くなり、やや段丘状の形状を呈している。この高まりの水田耕作土、用水路等から須恵器、土師器等の遺物が採集されている。なお遺跡台帳には、弥生土器の記載がみられるが、確認調査からは出土していない。遺跡周辺では、東側に続く丘陵端部に2基の円墳（岩戸古墳）が認められる。対岸の南北に延びる丘陵先端部には町内唯一の前方後円墳が位置する。また、この丘陵上には、10数基の桂坪古墳群や、弥生時代の土器片散布地も確認されている。

なお、第3図に掲載の鉄剣は、この丘陵裾部より出土のものである。

(2) 発掘調査の方法と結果の概要

発掘調査は、遺跡の範囲、規模等の把握のため、遺跡中心部から周辺部へと幅2mのトレンチを計16本設定し、遺構、遺物の確認を行った。

なお、T－16周辺部の、一部設計変更の不可能な地区については、拡張し、調査を行った。

以下各トレンチの概要を記す。

T－1・2・3・7（第5・6図、図版3・4）

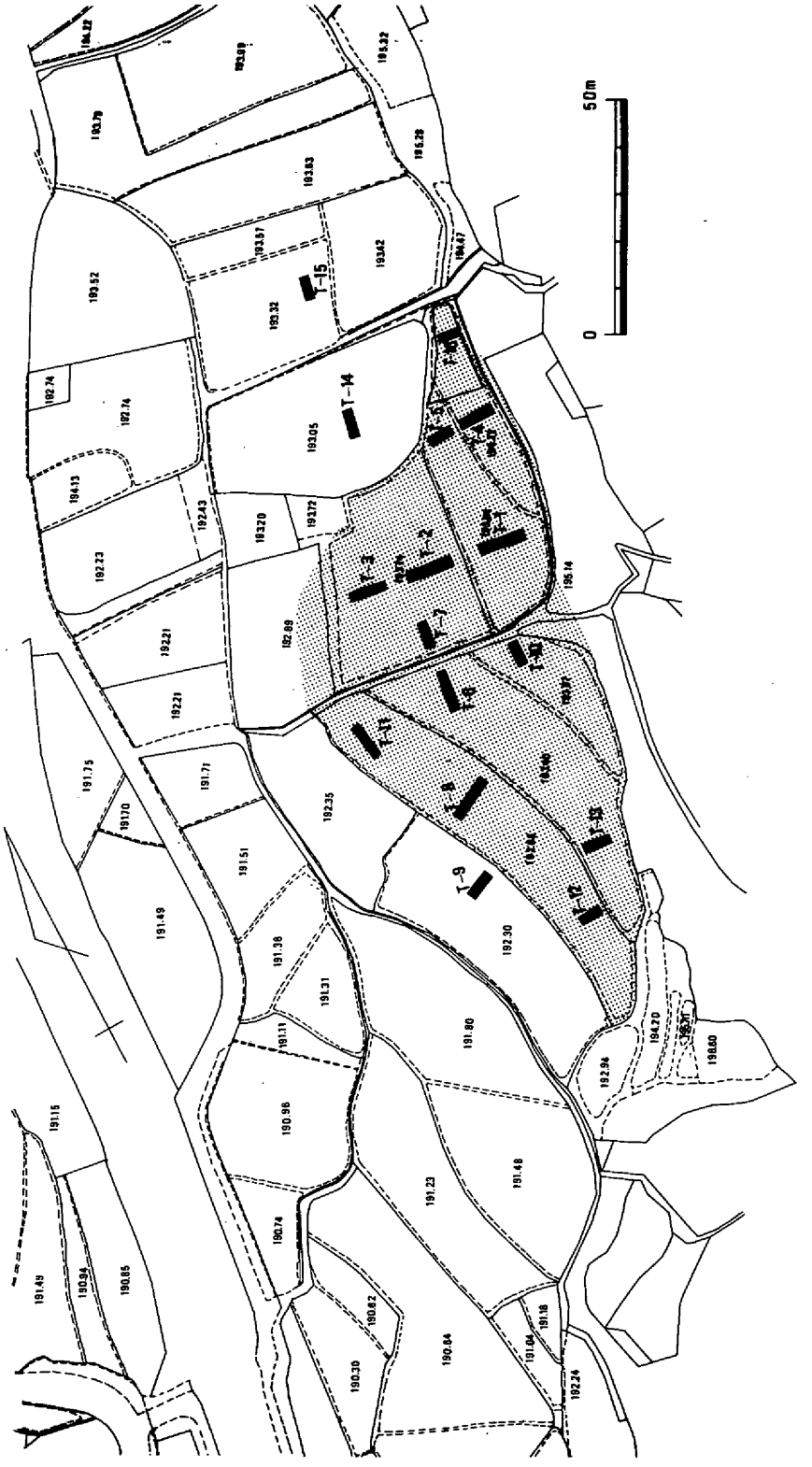
遺跡のほぼ中心部と想定される場所に東西方向に3本とこれに直交する方向に1本の計4本設定した。基本層序は、第1層耕作土（T－3・7では二層）、第2層黄色～黄褐色土の床土（もしくは中世以後の数層の水田層）第3層に中世遺物包含層、第4層基盤層である。

包含層はT－1で最も厚く、最厚25cmを測り、西に向って徐々に薄くなる傾向にある。包含層除去後の中世基盤層はT－1ではやや安定した灰白色の粘質微砂層が広がる。

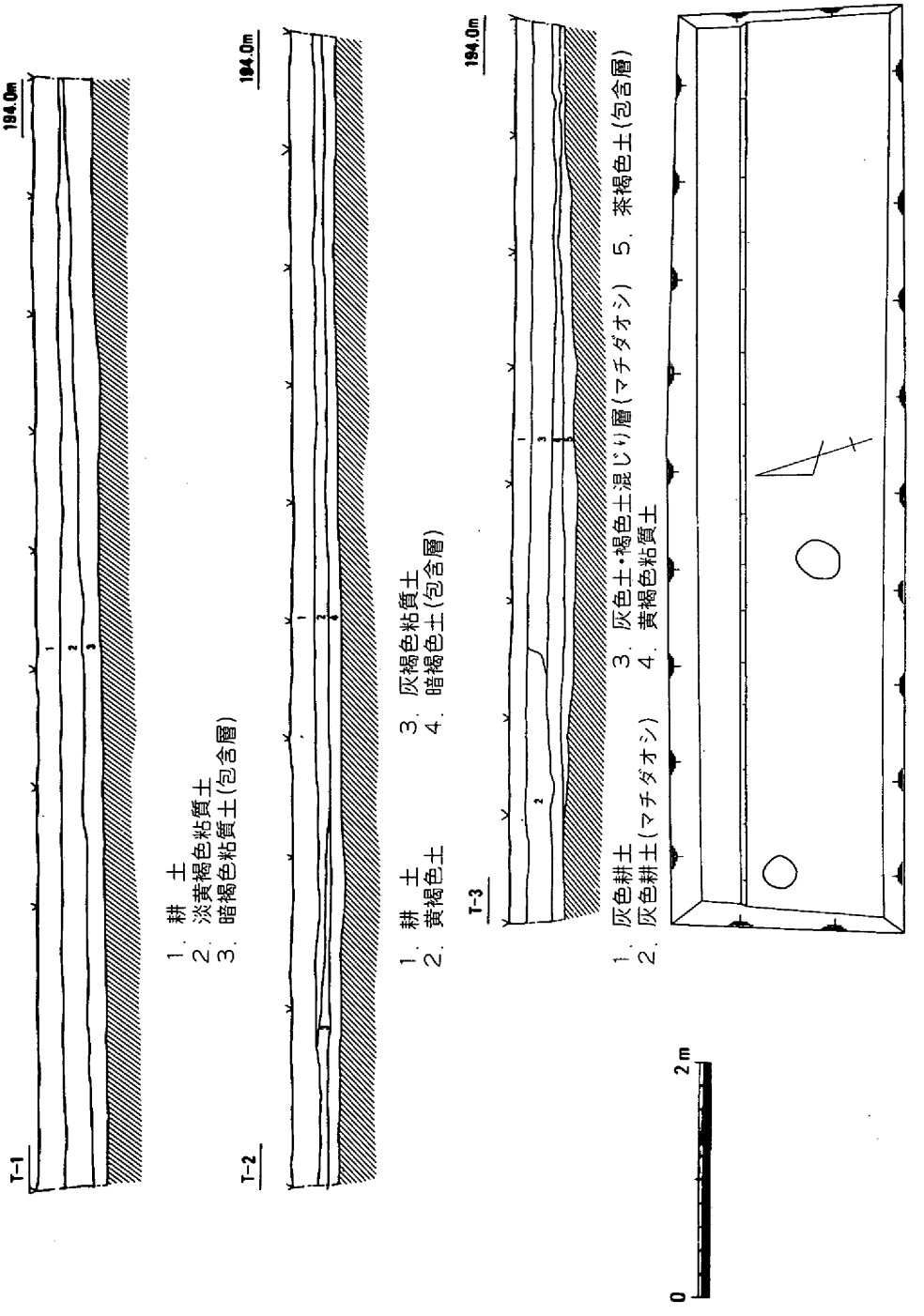
T－2・3では、礫層（ジャリ）もしくは、砂層と礫層が交互に広がる状況をなす。

検出遺構は、T－3・4で、径20cm程の小ピットをわずかに検出したのみで、他には認められなかった。

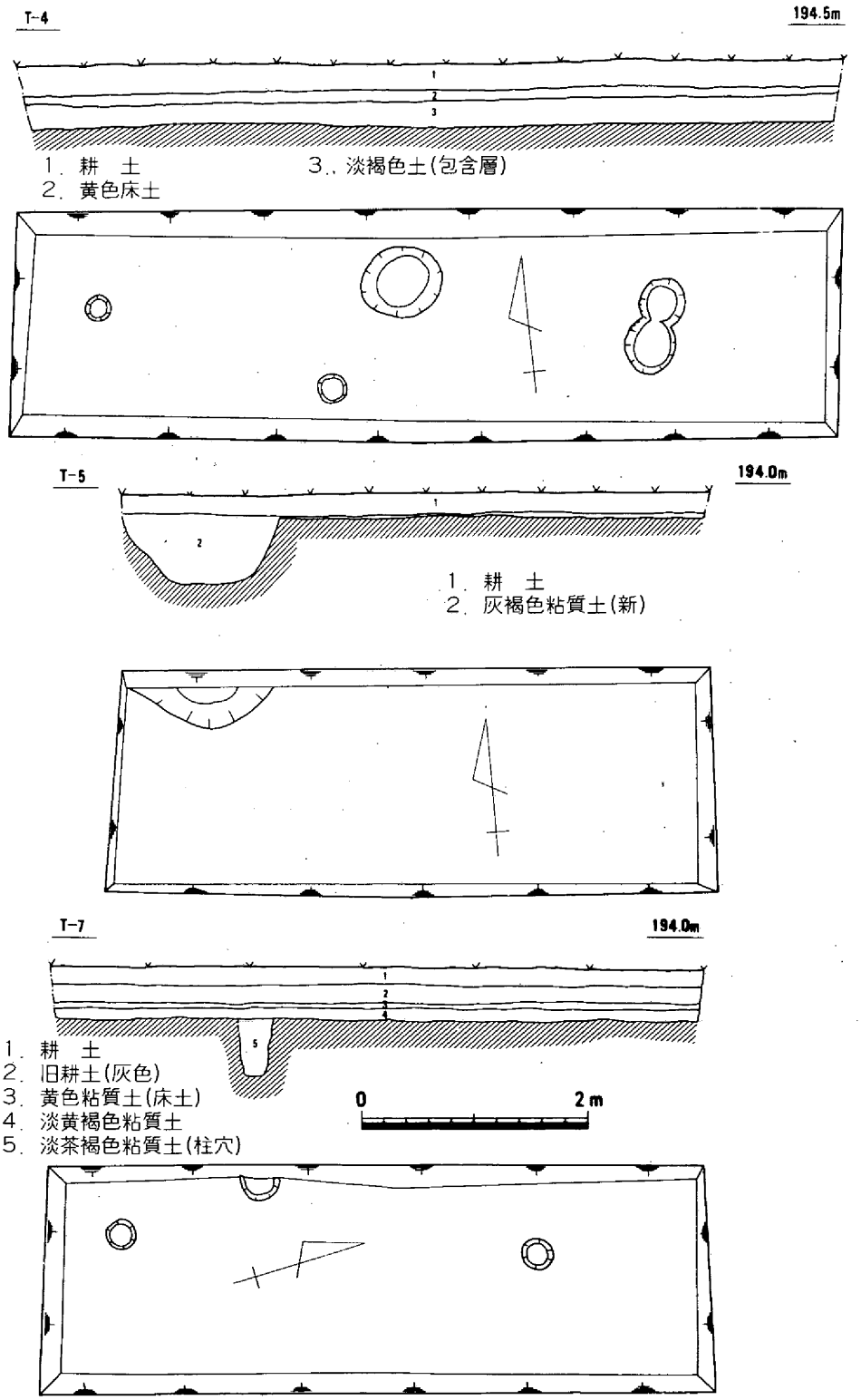
出土遺物は、勝間田焼を中心とする中世の須恵器、土師器、瓦質土器、青磁、白磁等が出土している。



第4図　美土路遺跡トレンチ設定図 $\left(\frac{1}{1,500}\right)$



第5図　美土路遺跡トレンチ1、2、3平・断面図 $(\frac{1}{60})$



第6図 美土路遺跡トレンチ4、5、7平・断面図 ($\frac{1}{60}$)

T－4（第6図、図版4）

調査区の最高所（海抜194 22m）に設定したトレンチである。T－1～3に認められた包含層の丘陵裾部への広がりを確認する目的で設定した。遺物包含層は、厚さ35cmを測り、調査区内最大を測る。

検出遺構は、径70cm、深さ30cmのやや大形のピットの他に径20cm程のピットを検出している。

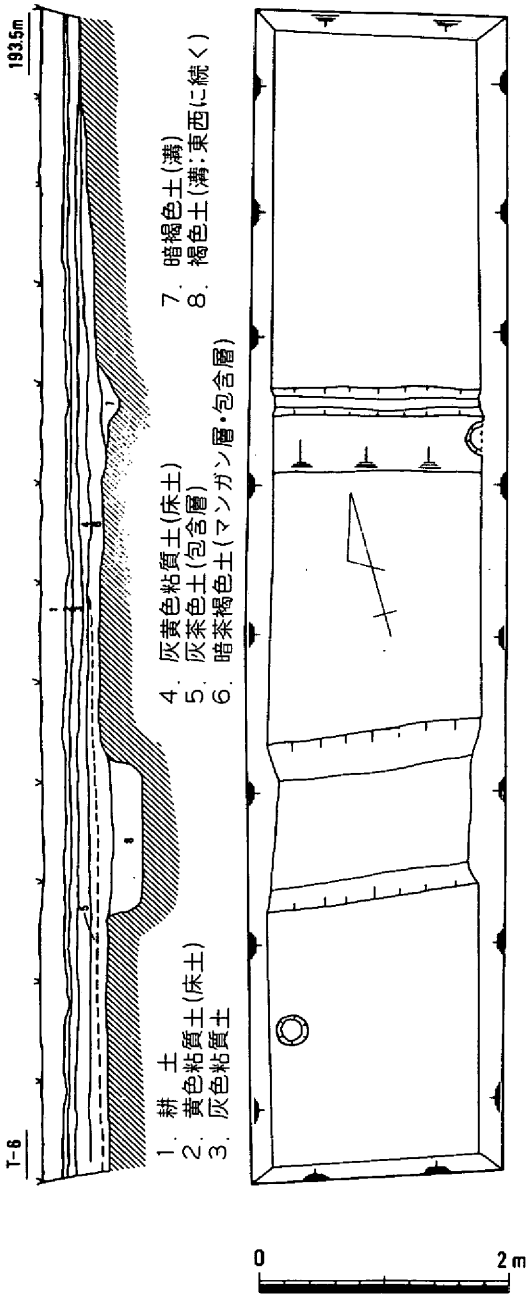
出土遺物は、須恵器（勝間田焼）、土師器、瓦質土器、青磁、白磁等である。他に炉壁片1点が出土している。

T－5（第6図）

T－4の西側に設定した東西方向のトレンチである。同一水田面に設定したT－1付近と比較し、基盤面が若干高い。このため包含層が削平され、厚さ5cm程と非常に薄い。北西隅に新しい土壙を検出したのみである。

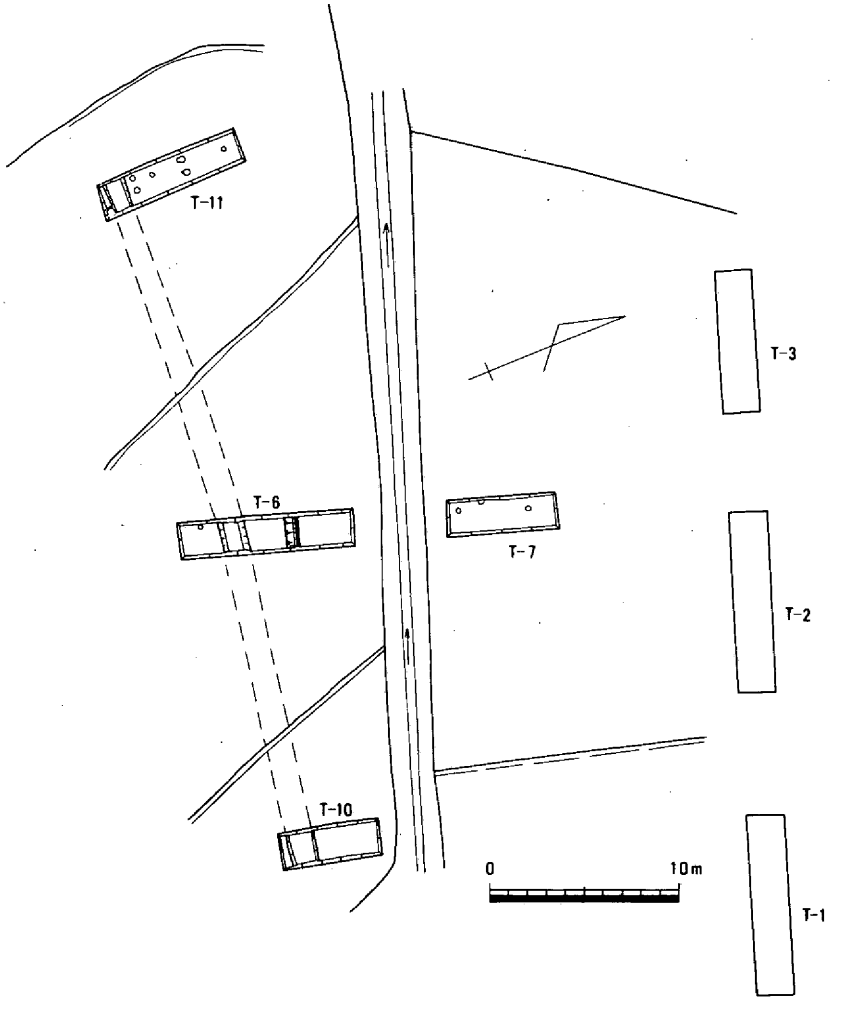
出土遺物は、須恵器（勝間田焼）、土師器、瓦質土器、青磁等が出土している。トレンチの南東部から勝間田焼小皿数点がまとまって出土している。

T－6・10・11（第7・10・11図、図版5・6・7）



第7図　美土路遺跡トレンチ6平・断面図（$\frac{1}{60}$）

T－1～3に直交する南北方向にT－7とともにT－6を設定した。このT－6から大、小2本のほぼ並走する東西方向の溝状遺構を検出した。このためT－10・11を設定し、溝の延長方向の確認につとめたところ、いずれのトレンチからも大形の溝状遺構を検出した。溝は、幅130cm，深さ30cm前後を測り，総延長50m以上と想定され、T－10からT－11までのレベル差—60cmほどでゆるやかに下降している。当初、T－6の大、小2本の平行する溝



第8図　美土路遺跡トレンチ6、10、11付近全体図（$\frac{1}{400}$）

の状況から築地状の遺構も考えられたが、T－10・11からは、平行する溝状遺構を明瞭に検出できなかった。ただ断面観察からは、T－10で大形溝と1.3mの間隔を置き浅い皿状のくぼみが認められた。T－11でも北側が幅3m程、浅くくぼんでいる。これらのことから、何らかの遺構が平行して存在してT－8と同様の状況であった可能性が強い。この他の検出遺構は、T－11で溝に接し、南東隅にやや大形の土壙を検出している。

溝内出土遺物は、包含層と同様な須恵器（勝間田焼）、白磁、青磁等が出土している。包含層中からは、これ以外に、土師器、瓦質土器等が出土している。

T－8（第9図、図版6）

最も多くの柱穴状のピットを検出したトレンチである。層序は耕土下30～35cm程に10cm未満の

他と比較してやや薄い包含層が広がっている。包含層除去後、幅２m、長さ10ｍのトレンチ全面に、径20～30cm、最大深さ40cm程の柱穴を多数検出した。一部の柱穴から柱痕も確認できた。柱穴の配列から北東から南西方向への柱列が想定され、掘立柱建物の存在が考えられる。

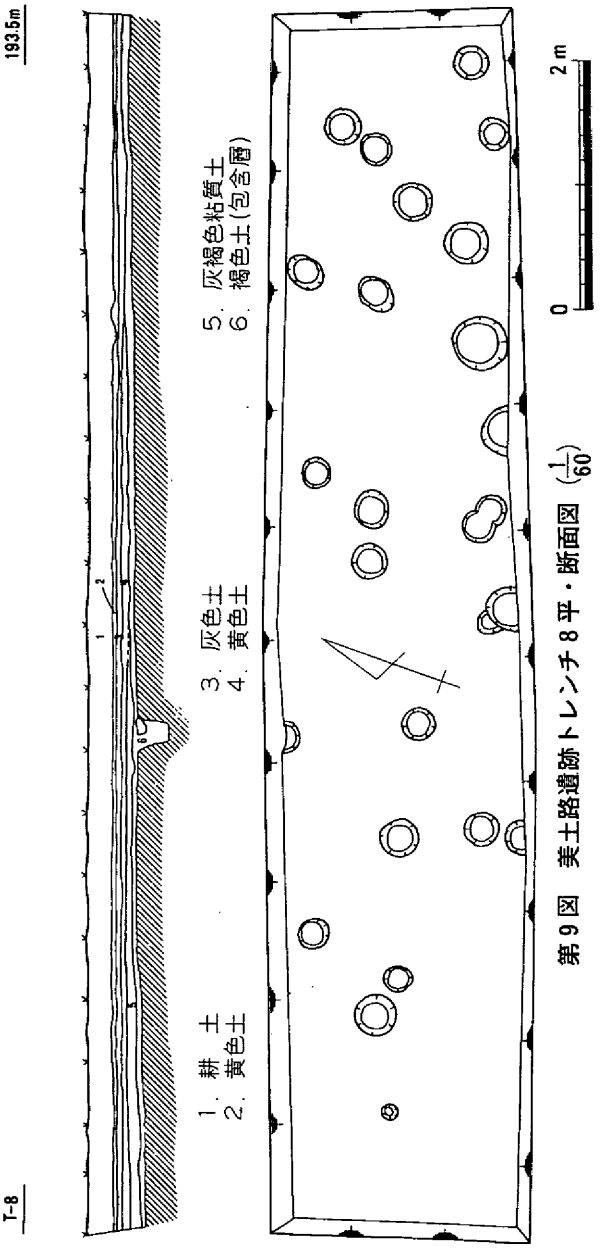
出土遺物は、柱穴及び包含層中から、須恵器（勝間田焼）、土師器等が出土している。

Ｔ－９（第11図、図版４）

遺跡範囲の南端を確認のため設定したトレンチである。調査区内の最も下方の海抜192.30ｍの水田面である。調査の結果、耕作土下に包含層は認められず、遺構も検出されなかった。

Ｔ－12・13（第10図、図版８）

遺跡の南側への広がりを確認のため設定したトレンチである。いずれも耕土下30～40cmで厚さ20～30cmの包含層が認められた。基盤層は、Ｔ－13からＴ－12に向ってゆるやかに下降する状況を呈している。当トレンチの結果、Ｔ－10からＴ－９方向に向って地形が徐々に下降する状況が、南端部のＴ－12・13付近でも把握することができ、同じく包含層も広がることが確認された。

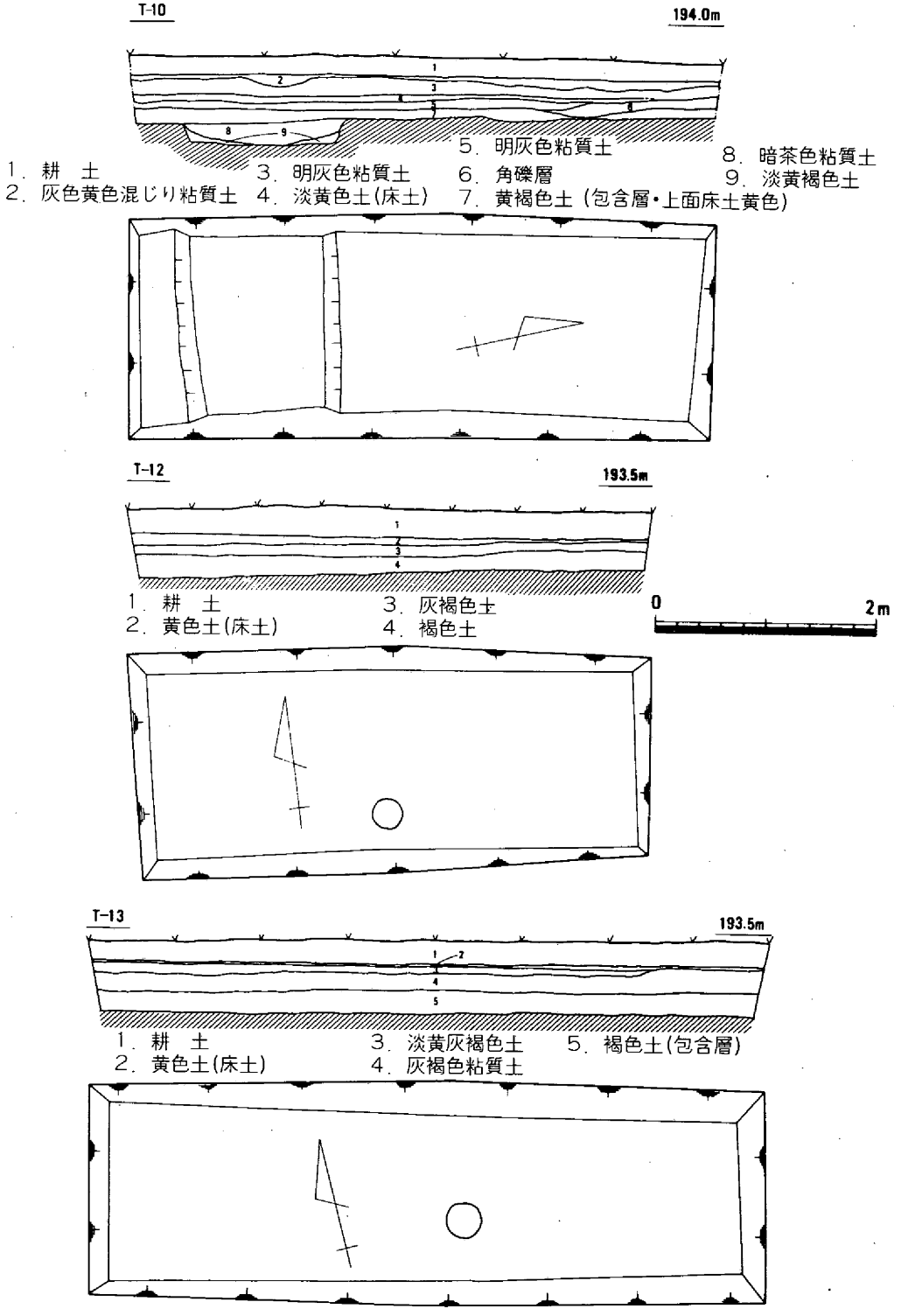


第９図　美土路遺跡トレンチ８平・断面図（1/60）

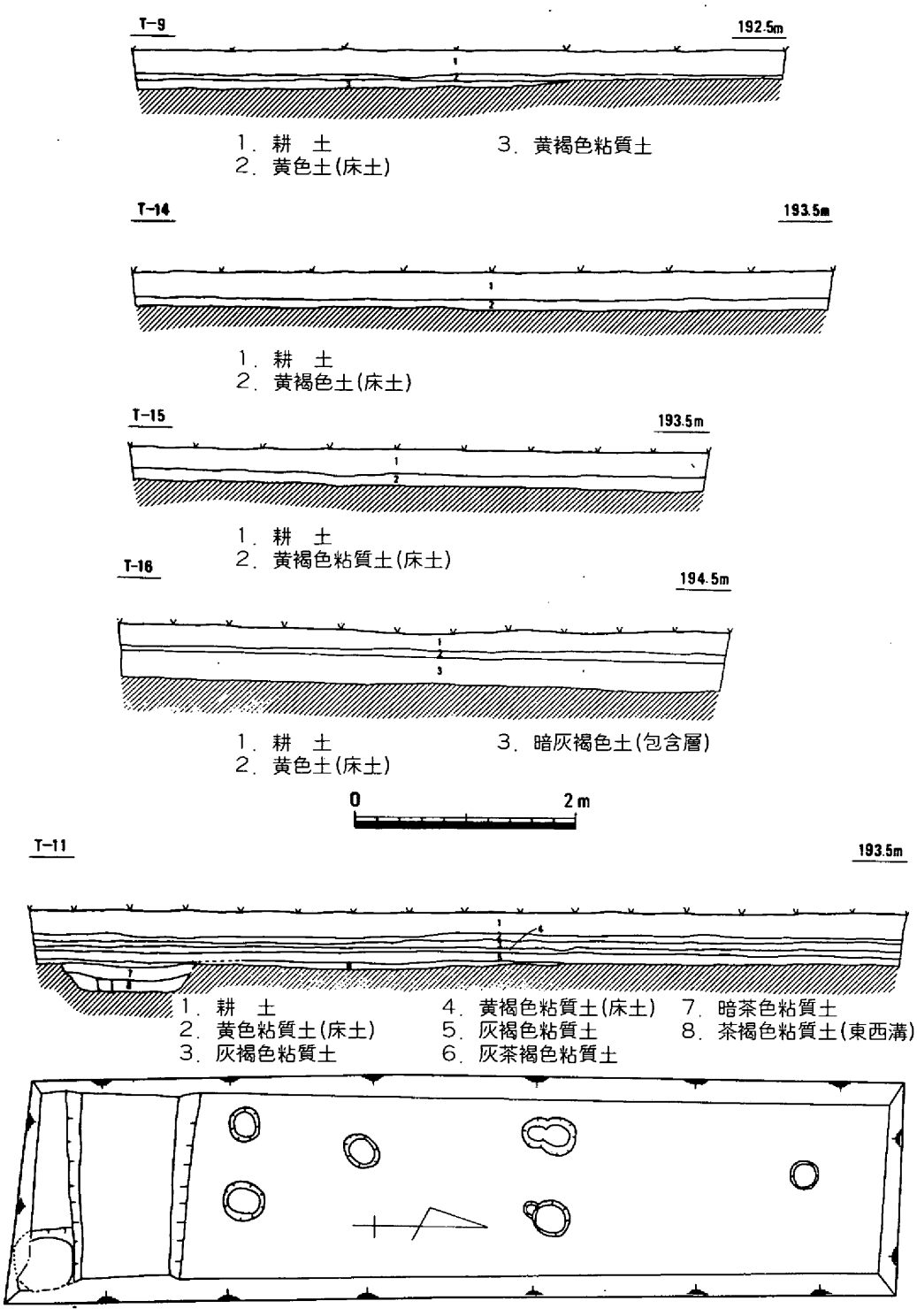
出土遺物は、須恵器（勝間田焼）、土師器、瓦質土器等である。

Ｔ－14・15（第11図、図版８）

遺跡の北限を確認のため設定したトレンチである。現状は、Ｔ－１・２付近の水田面より



第10図 美土路遺跡トレンチ10、12、13平・断面図 ($\frac{1}{60}$)



第11図　美土路遺跡トレンチ9、11、14、15、16平・断面図 ($\frac{1}{60}$)

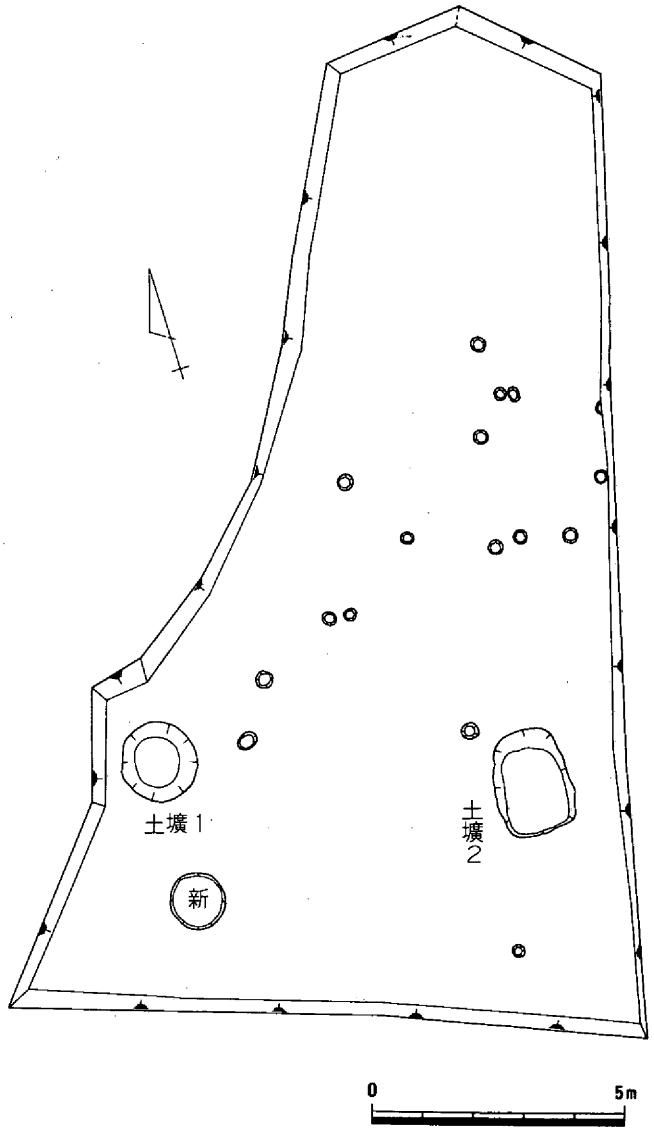
70～100cmと低く、急激な段差がつく。耕作土の下層には粗い礫層が広がり、包含層、遺構は認められない。

T－16、T－16拡張区（第11・12図、図版９）

T－16は、T－４と同様に調査区内最高所の水田面に設定したトレンチである。T－４と同様に厚さ25cm程を測る包含層が堆積している。

なお、この地区は圃場整備計画上、設計変更が不可能となったため、周辺部を一部拡張して調査を行った。

検出遺構は、円形と長方形の土壙２基と調査区中央で径20～30cmの柱穴状のピットを若干検出している。ピットは、柱穴と明瞭に断定できるものは少ない。この他に近世以後の土壙ある。



第12図　美土路遺跡トレンチ16拡張区全体図（$\frac{1}{150}$）

土壙１（第13図、図版10）

径150cm、深さ40cm、断面擂鉢状を呈す円形の土壙である。土壙内には拳大から人頭大の主に河原石が埋積していた。

出土遺物は、埋積土中から須恵器（勝間田焼）、土師器，白磁，鍛冶滓等が出土している。

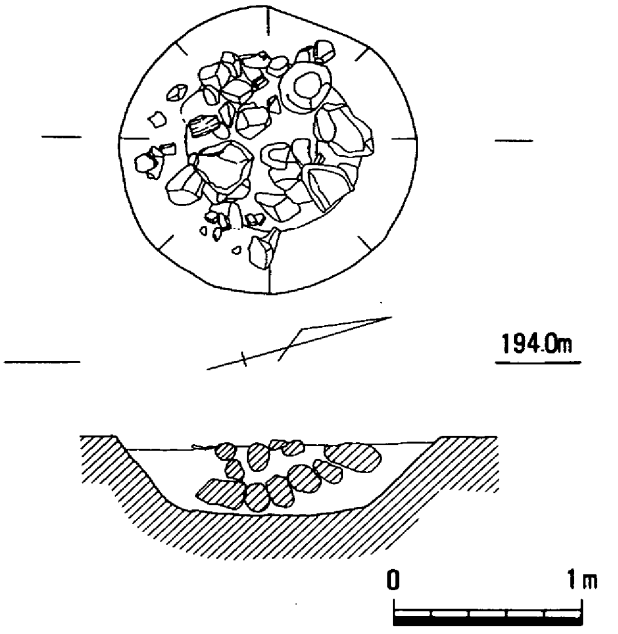
土壙２（第14図、図版10）

長辺205cm×短辺150cmの隅丸長方形を呈す土壙である。最大深さ10cm程と浅く、掘り方

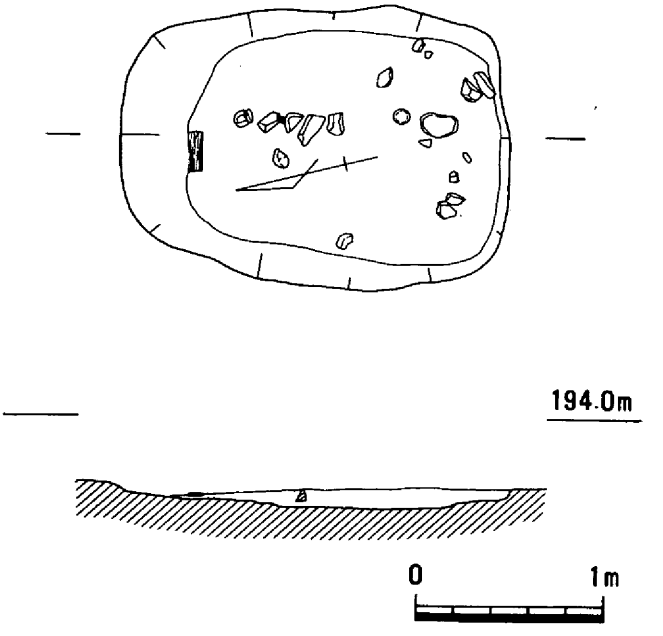
も不明瞭である。掘り方中央部に長辺に平行して挙大の割石が、5個並んで認められた。また、底面の北端に木片がわずかに認められた。土壙中から須恵器（勝間田焼）、土錘、白磁が、出土している。

(3) 出土土器

美土路遺跡出土遺物は基盤層上面に認められた単一包含層中、並びに包含層除去後に検出した溝、土壙、柱穴等の遺構中からのものが大半を占め、時期的にもかなり限定されたものとみられる。種類は、中世の須恵器、土師器、瓦質土器、輸入磁器、若干の備前焼等に分類可能である。このうち全出土量の2／3程度を占める中世須恵器の器種構成は、椀、台付椀、皿、鉢、壺、甕からなる。これらのうち大半は、勝田郡勝央町近辺にて生産された底部糸切りを施こす椀形の器種や、外面、格子目タタキ、内面にハケ目調整を施こす甕等に代表される中世須恵器、勝間田焼である。勝間田焼については、いまだ充分な編年が公表されてなく、時期の決定には、不確定な要素が多いが、おおよそ、12～14世紀代の間に生産されたと考えられてい



第13図　美土路遺跡トレンチ16拡張区土壙1　(1/40)



第14図　美土路遺跡トレンチ16拡張区土壙2　(1/40)

る。（註１）また、近年の報告によると11世紀代後半と考えられる古式の窯跡資料も公表されている。（註２）

出土勝間田焼に共伴する資料は備前焼（№66を除く）、中国製輸入磁器、東播系の須恵器がみられる。備前焼（№44）のスリ鉢については、口縁の特徴から判断すれば、備前焼編年のⅡ期、鎌倉時代前半期が想定される。ただ明瞭に判断できる備前焼の点数が、僅少で、しかも古式の備前焼については、勝間田焼と識別困難な点もあり、不明瞭である。

中国製輸入磁器は、調査区内の各トレンチからまんべんなく出土し、破片総点数71点を数える。

器種は、白磁椀、皿、壺片、青磁椀、青白磁合子片の出土がある。このうち白磁が大半を占る。輸入磁器の編年からすれば13世紀代（もしくは12世紀末から）に属するものとみられる。

東播系の土器は、口縁端が三角形の断面を呈し、底部糸切りの灰白、青灰色のやや軟質に焼成された鉢類と、外面に平行タタキ、内面ナデか圧痕の甕形土器がかなり目につく。最近の森田稔氏の編年によると東播系中世須恵器は３期５段階に編年されている。（註３）当遺跡出土の鉢口縁部の形状から判断すれば、神出Ⅱ期第２段階（12世紀末から13世紀前半）の時期が想定される。ただ椀形土器の器種については、一部東播系とみられるものも存在するが、勝間田焼との識別が困難である。

以上、勝間田焼の年代観や、共伴する備前焼、輸入磁器、東播系須恵器の編年から13世紀代、ほぼ鎌倉時代前半期を中心とする出土遺物と考えられる。

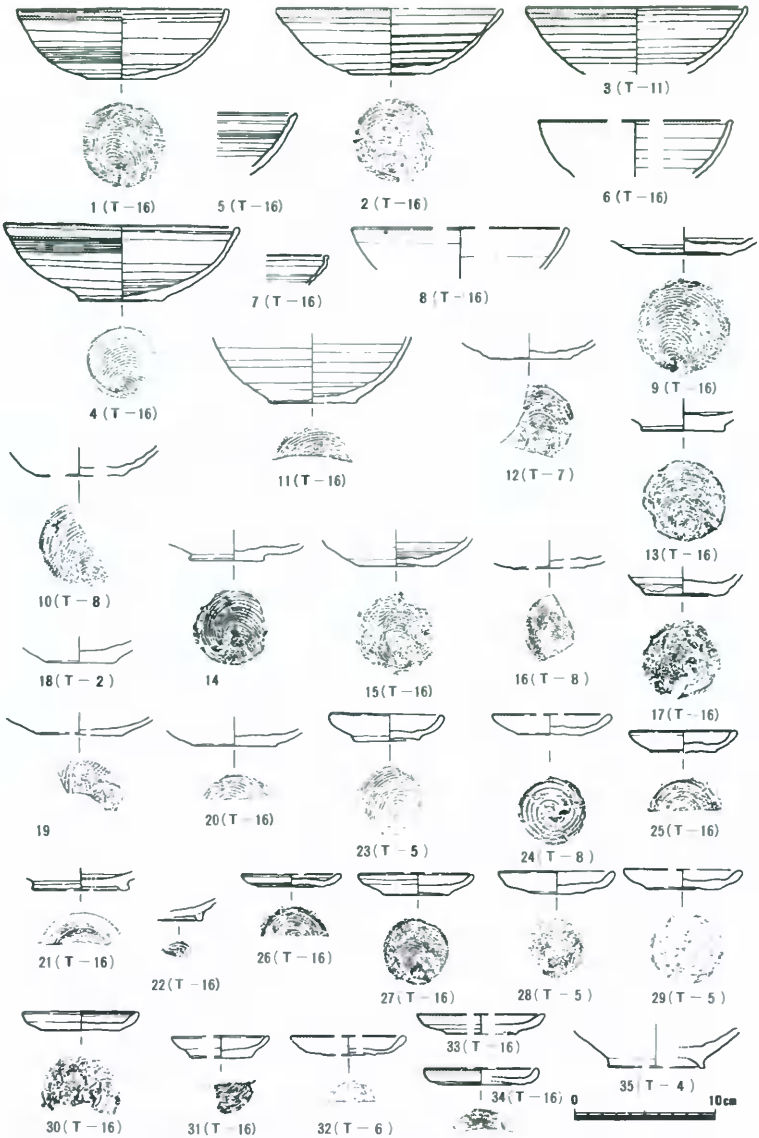
註

１．伊藤晃「山陽路の古代中世窯」『日本やきもの集成９』1981

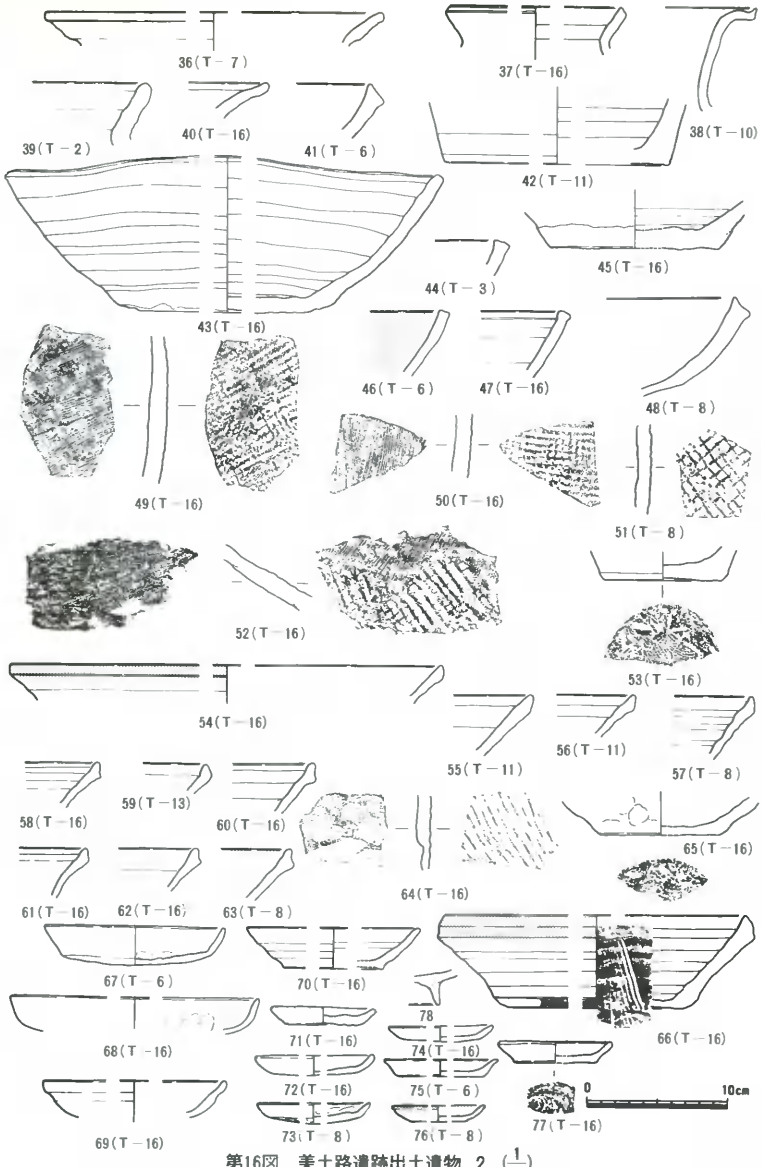
２．安川豊史『美作国府跡発掘調査報告』津山市教育委員会1984

３．森田稔「東播系中世須恵器生産の成立と展開」神戸市立博物館研究紀要第３号1986

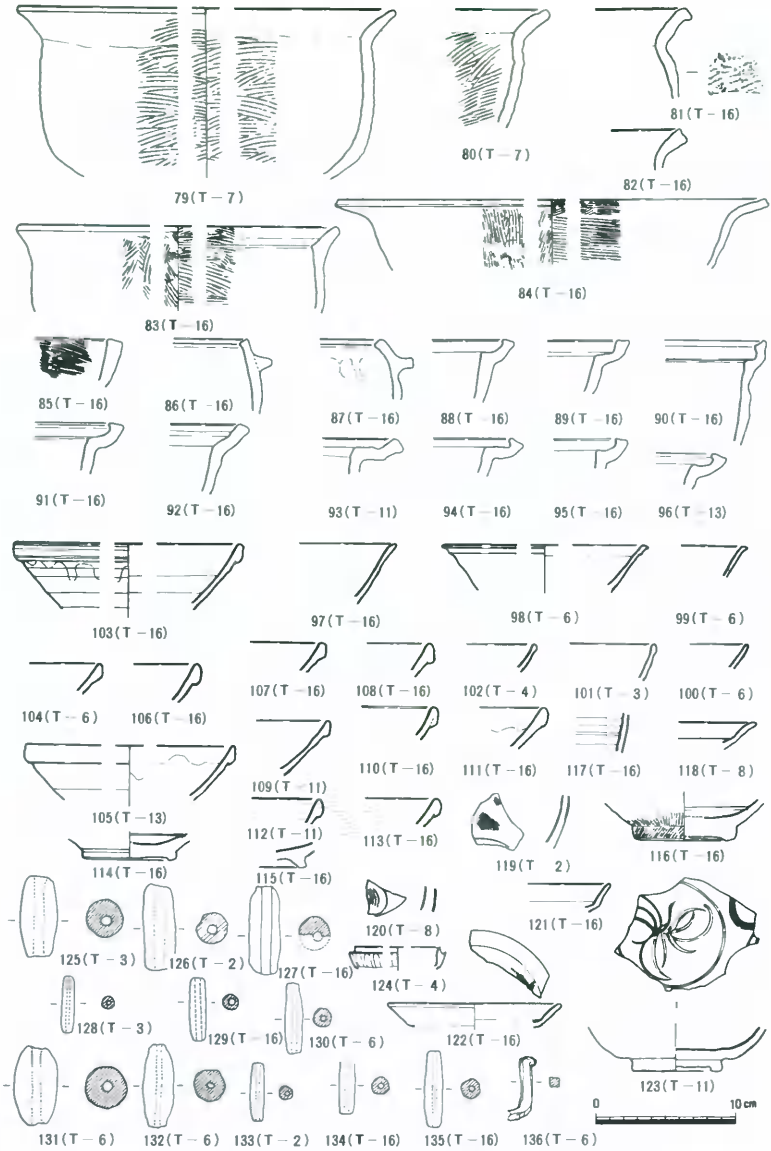
なお、一部の出土遺物について不手際から掲載できなかった。改めて報告を行いたい。



第15図　美土路遺跡出土遺物 1 ($\frac{1}{4}$)



第16図　美土路遺跡出土遺物 2 ($\frac{1}{4}$)



第17図　美土路遺跡出土遺物 3 （$\frac{1}{4}$）

第２節　野形Ａ遺跡

(1)　遺跡の立地

遺跡は、大原町野形に所在する。調査地点は、野形89－１水田である。前述の美土路遺跡の東方、直線距離にして700ｍ程の丘陵部に位置する。

吉野川と一支流川上川との間に位置する標高250～300ｍの野形地区は、狭小な谷が入りくみ、谷頭まで水田化されている。また、丘陵上は、町特産の花木の主生産地となり、広く開墾がゆきとどいている。当遺跡は南東から北西方向に延びる舌状丘陵の一つに、野形Ｂ、Ｃ遺跡とともに、弥生土器片を出土する遺跡として知られている。今回の調査対象となった野形Ａ遺跡は、谷頭近くの丘陵斜面が中心と想定されるものの、圃場整備の予定されている谷水田部にも、遺跡の広がりが想定されたため、確認調査を実施したものである。

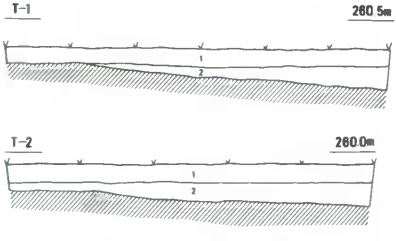
周辺の古墳時代の遺跡としては、野形、小原田地区に古墳時代後半期の横穴式石室古墳が10基程確認されている。このうち野形の横穴式石室構造の円墳から、かって土師質亀甲形陶棺（岡山県通史第１編上古写真掲載）が出土している。また、周辺には、須恵器、土師器片とともに鉄鉢出土の遺跡が知られており、製鉄関連の遺跡が想定される。

(2)　発掘調査の概要

谷頭近くの遺跡の広がりが想定される場所に、幅２ｍ×長さ４ｍのトレンチを２本設定した。トレンチの設定した田面は、海抜260ｍ程である。

トレンチ調査の結果、いずれのトレンチも約20cmの耕土下に淡灰色の粘質土層が谷に向かって徐々に厚く認められた。この粘質土層の下層は地山で、谷に向って、下降する状況である。

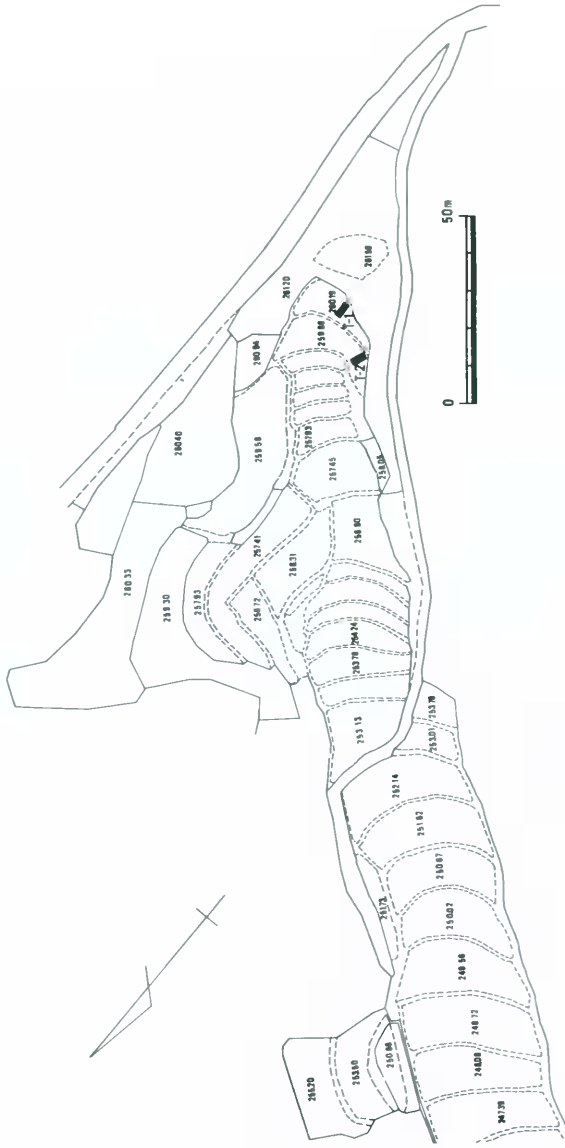
耕作土中から磨滅した須恵器片、近世陶磁器が数点出土したのみである。遺構、包含層ともに確認されなかったことから、野形Ａ遺跡の範囲は、谷水田まで広がっていないと考えられる。



1　耕　土
2　淡灰色粘質土

1　耕　土
2　淡灰色粘質土

第18図　野形Ａ遺跡トレンチ１、２断面図（$\frac{1}{60}$）



第19図　野形A遺跡トレンチ設定図（$\frac{1}{1,500}$）

第4章 ま と め

今回発掘調査の対象となった遺跡は、英田郡大原町川上所在の美土路遺跡と、同野形所在の野形A遺跡である。調査の目的は、当該遺跡一帯に、圃場整備事業が計画されているため、事前に確認調査を実施し、保存協議の基礎資料を作成するためである。

ただ今回の調査が圃場整備地区内に限定されていることや、トレンチによる確認調査のため、制約があったものの、遺跡の規模、範囲等につき有益な資料をえることができた。

野形A遺跡については、2本のトレンチ調査の結果、遺跡の主体が、丘陵斜面を中心に立地している様子で、今回の圃場整備の対象となった狭小な谷水田部まで、弥生時代後半期と想定される遺跡は、広がっていないものと判断された。

美土路遺跡については、計16本トレンチを遺跡が想定される水田面を中心に設定した。その結果、ほとんどのトレンチから中世の包含層が検出された。遺跡の範囲については、包含層の広がりや、遺構の有無、基盤面や地形等から判断して東側丘陵裾から突出した三角形状の東西60m、南北160mの約5300㎡が範囲と想定される。

遺物包含層は、T－4・10で約30cmの厚さを測り、薄い場所でも約10cm認められた。出土遺物は、整理箱8箱程の量である。遺物は、地元勝央町を中心として生産された勝間田焼を主体とする須恵器、土師器、瓦質土器、青磁、白磁、さらに東播系の須恵質の鉢等が出土している。これらの遺物は諸特徴から、13世紀代、ほぼ鎌倉時代前半期の時期が想定される。

検出遺構は、T－16拡張区の土壙、T－6・10・11の東西方向の溝、T－8の柱穴群等である。特にT－6・10・11に検出した溝状遺構は、遺跡想定範囲内の中央を東西に分断する様に最大幅1.5m、推定総延長50mを測る直線的なものである。またT－6ではこの溝に付随する様に、約2.2mの間隔を置き平行する小溝を検出している。T－10・11でも明瞭ではないが、平行する溝、浅い窪みが伴っている。T－8では、当遺跡の確認調査のうち最も多くの柱穴を検出し、柱の配列や方向から掘立柱建物の存在が想定される。

以上の様に、当遺跡想定範囲内には当時の水田遺構等は認められず、柱穴や広範囲の包含層等から居住区であったことは先ずまちがいない。さらに遺跡中央を南北に掘削した溝は、規模や、構造等からかなり企画性を持つ遺構と考えられる。

なお、文献によると、中世には当地一帯に大野庄が設けられており、これらの検出遺構が、荘園内の何らかの施設であった可能性も否定できない。

表－1　トレンチ調査一覧表

美土路遺跡

トレンチ番号	遺構	遺物包含層	出土遺物	出土量(g)	現表土レベル(m)	遺構・遺物包含層までの深さ cm
T－1	無	有	須恵器，土師器，瓦質土器，近世陶磁器	1,340	193.94	26－47
2	柱　穴	有	須恵器，土師器，瓦質土器	1,845	193.74	27－34
3	柱　穴	有	須恵器，土師器，青磁，白磁，黒釉？	1,080	193.74	37－45
4	土壙・柱穴	有	須恵器，土師器，瓦質土器，青磁，白磁，かわらけ	1,460	194.22	28－37
5	土壙(新)	有	須恵器，土師器，瓦質土器，青磁，近世陶磁器	650	193.94	20
6	溝・柱穴	有	須恵器，土師器，瓦質土器，青磁	2,515	193.40	32－40
7	柱　穴	有	須恵器，土師器，青磁，備前	1,465	193.74	37
8	柱　穴(多数)	有	須恵器，土師器，近世陶磁器	2,815	192.96	26－42
9	無	無	須恵器，土師器，近世陶磁器	105	192.30	－
10	溝	有	須恵器，土師器	845	193.67	41－53
11	溝・土壙・柱穴	有	須恵器，土師器，白磁	2,865	192.96	40
12	小ピット	有	須恵器，土師器，瓦質土器	630	192.96	－
13	小ピット	有	須恵器，土師器，瓦質土器	525	193.40	－
14	無	無	須恵器，土師器	30	193.05	－
15	無	無	須恵器，近世陶磁器	25	193.32	－
16．拡張区	土壙・柱穴	有	須恵器，土師器，瓦質土器，青磁，白磁	31,760	194.22	21－28

野形Ａ遺跡

トレンチ番号	遺構	遺物包含層	出土遺物	出土量(g)	現表土レベル(m)	遺構・遺物包含層までの深さ cm
T－1	無	無	須恵器，瓦質土器，近世磁器	151	260.19	－
2	無	無	近世磁器	10	259.88	－

表－2　美土路遺跡遺物観察表

番号	器種		形態・手法の特徴		色調	胎土	焼成	備考
1(T-16)	須恵	椀	内外回転ナデ，ロクロ左		灰青色	0.1mm砂粒	良好	重ね焼
2(T-16)	〃	〃	内板状工具ヨコナデ，回転ナデ，外回転ナデ，ロクロ右		灰白色	0.1～2mm砂粒	軟質	重ね焼
3(T-11)	〃	〃	内外回転ナデ，ロクロ右		灰　色	〃	やや軟質	〃
	(東播?)	〃						
4(T-16)	〃	〃	内外回転ナデ，外上位板状工具ヨコナデ，ロクロ右		灰青色	〃	良好	〃
5(T-16)	〃	〃	内外回転ナデ		淡灰青色	0.1～1mm砂粒	〃	〃
6(T-16)	〃	〃	〃		淡灰色	〃	〃	〃
7(T-16)	〃	〃	〃		灰　色	〃	〃	
8(T-16)	〃	〃	〃		〃	〃	〃	重ね焼
9(T-16)	〃	〃	〃	ロクロ右	灰青色	〃	〃	
10(T-8)	〃	〃	〃	ロクロ右	淡灰色	〃	〃	
11(T-16)	〃	〃	〃		灰白色	〃	軟質	
12(T-7)	〃	〃	〃	ロクロ左	淡灰青色	〃	良好	
13(T-16)	〃	〃	〃	ロクロ右	橙褐灰色	〃	軟質	
14採集	〃	〃	〃	ロクロ右	暗灰青色	〃	良好	
15(T-16)	〃	〃	〃	ロクロ右	灰　色	〃	〃	
16(T-8)	〃	〃	〃	ロクロ右	淡灰青色	〃	良好	
17(T-16)	〃	〃	〃	ロクロ右	〃	〃	〃	
18(T-2)	〃	〃	〃	底部糸切り	淡褐色	〃	不良	剥落
19採集	〃	〃	〃		淡灰色	〃	〃	
20(T-16)	〃	〃	〃		暗青灰色	〃	良好	
21(T-16)	〃	高台付椀	〃	貼付高台	灰青色	〃	〃	
22(T-16)	〃	椀	〃	〃	灰　色	〃	〃	
23(T-5)	〃	小　皿	〃		灰白色	0.1～2mm砂粒	やや軟質	重ね焼
24(T-8)	〃	〃	〃	ロクロ右	〃	〃	〃	〃
25(T-16)	〃	〃	〃		淡灰色	〃	良好	
26(T-16)	〃	〃	〃		灰　色	0.1～1mm砂粒	〃	重ね焼
27(T-16)	〃	〃	〃	ロクロ右	淡橙褐色	1/2～2mm砂粒	やや軟質	
28(T-5)	〃	〃	〃		淡橙灰色	〃	軟質	剥落
29(T-5)	〃	〃	〃		淡灰褐色	0.1～3mm砂粒	〃	
30(T-16)	〃	〃	〃	ロクロ左	〃	〃	やや軟質	
31(T-16)	〃	〃	〃		淡橙灰色	0.1～1mm砂粒	良好	
32(T-6)	〃	〃	〃		淡灰色	〃	〃	重ね焼

番号	器種		形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
33(T 16)	須恵	小皿	内外回転ナデ	淡灰色	0.1～1mm砂粒	良好	重ね焼
34(T-16)	〃	〃	〃	灰色	〃	〃	〃
35(T-4)	〃	高台付椀	〃 貼付高台	灰青色	0.1～2mm砂粒	〃	
36(T-7)	土師	土鍋	口縁内外ヨコナデ	淡褐灰色	0.1～3mm砂粒	〃	外煤付着
37(T-16)	須恵	甕	〃	淡灰褐色	0.1～2mm砂粒	〃	
38(T-10)	〃	壺	〃	〃	〃	〃	
39(T-2)	〃	甕	口縁内ヨコナデ、外タテ方向粗ハケメ	暗灰青色	0.1～2mm砂粒	〃	
40(T-16)	〃	〃	口縁内外ヨコナデ	灰色	〃	〃	
41(T-6)	〃	鉢	内外回転ナデ	淡灰褐色	0.1～1mm砂粒	やや軟質	
42(T 11)	〃	こね鉢	〃 底部不明	暗灰色	0.1～2mm砂粒	良好	
43(T-16)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	歪み
44(T-3)	備前	鉢	〃	〃		〃	重ね焼
45(T-16)	須恵	こね鉢	〃 底部ヘラ切り	淡灰色	0.5～2mm砂粒	〃	
46(T-6)	〃	鉢	〃	〃	〃	〃	重ね焼
47(T 16)	須恵	鉢	内外回転ナデ	灰褐色	〃	〃	
48(T 8)	〃	〃	〃	淡灰色	〃	〃	剥落
49(T-16)	〃	甕	内ハケメ、外格子タタキのちハケメ	暗灰青色	〃	〃	
50(T-16)	〃	〃	〃 〃	内－灰青色 外－黒灰色	〃	〃	
51(T-8)	〃	〃	内指頭圧のちナデ、外粗格子タタキ	内－灰色 外－黒灰色	〃	〃	
52(T-16)	〃	〃	内ハケメ、外格子タタキのちハケメ	内－灰褐色 外－暗灰褐色	〃	〃	
53(T-16)	〃	壺 ?	内外ヨコナデ、外下端ヘラケズリ、底部糸切り	淡灰色	〃	〃	
54(T 16)	〃 東播	こね鉢	内外回転ナデ	灰色	〃	〃	重ね焼
55(T 11)	〃	〃	〃	灰青色	〃	〃	〃
56(T-11)	〃	〃	〃	灰白色	〃	やや軟質	
57(T-8)	〃	〃	〃	淡灰色	〃	良好	重ね焼
58(T 16)	〃	〃	〃	灰色	〃	〃	〃
59(T-13)	〃	〃	〃	暗灰青色	〃	〃	〃
60(T-16)	〃	〃	〃 剥落	灰白色	〃	やや軟質	〃
61(T-16)	〃	〃	〃	青灰色	〃	良好	〃
62(T-16)	〃	〃	〃	淡灰色	〃	〃	〃
63(T-8)	〃	〃	〃 剥落	〃	〃	〃	〃
64(T-16)	〃	甕	内ナデ、外平行タタキ	内－灰青褐色 外－暗灰褐色	〃	〃	内当て具痕
65(T-16)	〃	こね鉢	内外回転ナデ、外下部指頭圧残、底部糸切り	灰色	〃	〃	内使用痕
66(T-16)	備前	擂鉢	〃 、内おろし目、外下端ハケメ、底未調整、指頭圧痕	暗灰茶褐色	0.5～5mm砂粒多	〃	重ね焼煤付着
67(T-6)	土師	皿		淡橙灰色	0.5～5mm砂粒	良好	
68(T-16)	〃	〃	内底指頭圧痕	淡褐色	0.1～2mm砂粒	〃	外剥落
69(T-16)	〃	〃	内ヨコナデ、底指頭圧痕	〃 〃	0.1～3mm砂粒	〃	剥落
70(T-16)	土師	(杯?)	内外回転ナデ、底部糸切り	淡灰褐色	〃		
71(T-16)	〃	小皿	外底ヘラ切り	淡灰橙色	〃	良好	剥落
72(T-16)	〃	〃	内外回転ナデ	灰白橙色	〃	〃	
73(T-8)	〃	〃	〃 、内外指頭圧痕	淡褐灰色	〃	〃	
74(T-16)	〃	〃	〃 〃	〃	〃	〃	
75(T-6)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
76(T-8)	須恵	〃	〃 、外底糸切り	淡灰色	0.5～2mm砂粒	〃	重ね焼
77(T-16)	〃	〃	外回転ナデ、底部糸切り	淡橙褐色	0.5～3mm砂粒	軟質	剥落
78(T-16)	〃	高台付椀	貼付高台	淡灰褐色	0.5～2mm砂粒		
79(T-7)	土師	土鍋	内外粗ハケメ、内口縁ヨコナデ	灰褐色	2.5～2mm砂粒 ウンモ多	良好	
80(T-7)	〃	〃	〃 〃	暗褐橙色	2.5～2mm砂粒 ウンモ多	〃	
81(T-16)	〃	?	内ナデ、口縁ヨコナデ、外粗平行タタキ	淡灰橙色	0.5～3mm砂粒	〃	
82(T-16)	〃	土鍋	内外口縁板状工具ヨコナデ	淡灰褐色	0.5～2mm砂粒	〃	
83(T-16)	〃	〃	内ヨコ粗ハケメ、外タテ粗ハケメ	内－淡褐灰色 外－黒灰褐色	0.5～3mm砂粒	〃	外煤付着
84(T-16)	〃	〃	〃 、外指頭圧のちタテ[illegible]	暗褐灰色	0.5～2mm砂粒	〃	〃
85(T-16)	〃	?	内ヨコハケメ、外タテハケメ	暗灰褐色	〃	〃	
86(T-16)	瓦質	羽釜	鍔貼付	灰白褐色	〃	〃	剥落

番号	器種		形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
87(T-16)	瓦質	羽釜	内指頭圧後ヨコナデ，外鍔までヨコナデ	黒灰色	0.5～2㎜砂粒	良好	
88(T-16)	〃	鍋	内外ナデ，口縁ヨコナデ	内-黒黒色 外-黒灰褐色	0.5～1㎜砂粒	〃	
89(T-16)	〃	〃	内ナデ，外指頭圧痕，内外口縁ヨコナデ	内-灰白色 外-黒灰色	0.5～2㎜砂粒	〃	
90(T-16)	〃	〃	〃，〃	灰白褐色	〃	〃	
91(T-16)	〃	〃	内ナデ，内外口縁ヨコナデ	内-灰白色 外-黒灰色	〃	〃	
92(T-16)	〃	〃	内ナデ，外指頭圧痕，内外口縁ヨコナデ	黒灰色	〃	〃	
93(T-11)	〃	〃	内外ヨコナデ	〃	〃	〃	
94(T-16)	〃	〃	内ナデ，外指頭圧痕，内外口縁ヨコナデ	〃	〃	〃	煤付着
95(T-16)	〃	〃	内ナデ	〃	〃	〃	剥落
96(T-13)	〃	〃		灰白色	〃	〃	
97(T-16)	〃	椀	内外施釉，内外貫入	灰白橙褐色	緻密	堅緻	
98(T-6)	〃	〃	〃	灰オリーブ色	〃	〃	
99(T-6)	〃	〃	〃	灰白色	〃	〃	二次焼成
100(T-6)	〃	〃	〃，外口縁下釉垂下	〃	〃	〃	
101(T-3)	〃	〃	〃，内外貫入	〃	〃	〃	
102(T-4)	〃	〃	〃，〃	〃	〃	〃	
103(T-16)	〃	〃	〃，外口縁下釉垂下	〃	〃	〃	
104(T-6)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
105(T-13)	〃	〃	内外上半施釉，内口縁下釉垂下	〃	〃	〃	
106(T-16)	〃	〃	内外施釉	〃	〃	〃	
107(T-16)	〃	〃	〃，内外貫入	灰オリーブ色	〃	〃	
108(T-16)	〃	〃	〃	灰白色	〃	〃	
109(T-11)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
110(T-16)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
111(T-16)	〃	〃	〃，内口縁下釉垂下	白色	〃	〃	
112(T-11)	白磁	〃	施釉	灰白色	〃	〃	
113(T-16)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
114(T-16)	〃	〃	施釉，内見込沈線，外体部下半露胎，ヘラケズリ痕	灰オリーブ色	〃	〃	
115(T-16)	〃	〃	〃，高台底部，露胎，ヘラケズリ	灰白色	〃	〃	
116(T-16)	〃	〃	内外施釉，内見込み沈線，外体部下半露胎，ヘラケズリ痕	〃	〃	〃	外下半カンナ目
117(T-16)	〃	壺？	〃	〃	〃	〃	
118(T-8)	〃	小皿	〃，内見込み沈線，外体部下半露胎，カンナ目残	〃	〃	〃	
119(T-2)	〃	椀？	内外施釉貫入，内面クシカキ文，見込沈線，外体部下半露胎	〃	〃	〃	
120(T-8)	青磁	？	内外施釉，内クシカキ文と沈線文	暗オリーブ色	〃	〃	
121(T-16)	白磁	小皿	〃	灰白色	〃	〃	施釉糊
122(T-16)	青磁	〃	〃，内見込みクシカキ文	オリーブ色	〃	〃	
123(T-11)	〃	椀	〃，内草花文，見込み片彫花文	〃	〃	〃	外煤付，底部施釉糊
124(T-4)	青白磁	合子	外受部露胎，外体部蓮弁文	淡青灰白色	〃	〃	
			最大長(cm) / 最大幅(cm) / 重量(g)				
125(T-3)		土錘	5.6 / 2.5 / 26.71	淡褐色			完(黒斑)
126(T-2)		〃	6.1 / 2.3 / 28.2	黒灰色			〃
127(T-16)		〃	6.2 / (2.1) / 18.9	〃			半欠
128(T-3)		〃	4.1 / 0.9 / 3.5	淡灰褐色			完(黒斑)
129(T-16)		〃	4.45 / 1.18 / 6.75	〃			完
130(T-6)		〃	5.0 / 1.2 / 6.15	暗茶褐色			完
131(T-6)		〃	5.3 / 2.98 / 45.63	〃			完
132(T-6)		〃	5.8 / 2.2 / 26.17	〃			完
133(T-2)		〃	4.2 / 1.0 / 2.67	淡橙褐色			完
134(T-16)		〃	(3.7) / 1.1 / (5.8)	黒灰色			下半
135(T-16)		〃	5.4 / 1.3 / 9.3	淡褐色			完
136(T-6)	鉄	釘	0.8 / 8.4				完

図版 1

1. 美土路遺跡遠景（南西から）

2. 美土路遺跡遠景（北から）

図版2

1、美土路遺跡T－16拡張区発掘風景

2、美土路遺跡T－8遺構発掘風景

3、美土路遺跡埋戻し風景

図版 3

1、美土路遺跡 T－1（西から）

2、美土路遺跡T－2（東から）

3、美土路遺跡 T－3（西から）

図版4

1、美土路遺跡　T－4（西から）

2、美土路遺跡　T－7（南西から）

3、美土路遺跡　T－9（南東から）

図版 5

1. 美土路遺跡　T－6（南から）

2. 美土路遺跡　T－6（南東から）

図版 6

1. 美土路遺跡　T－8（北東から）

2. 美土路遺跡　T－10（南から）

図版 7

1. 美土路遺跡　T－11（北から）

2. 美土路遺跡　T－11（東から）

図版8

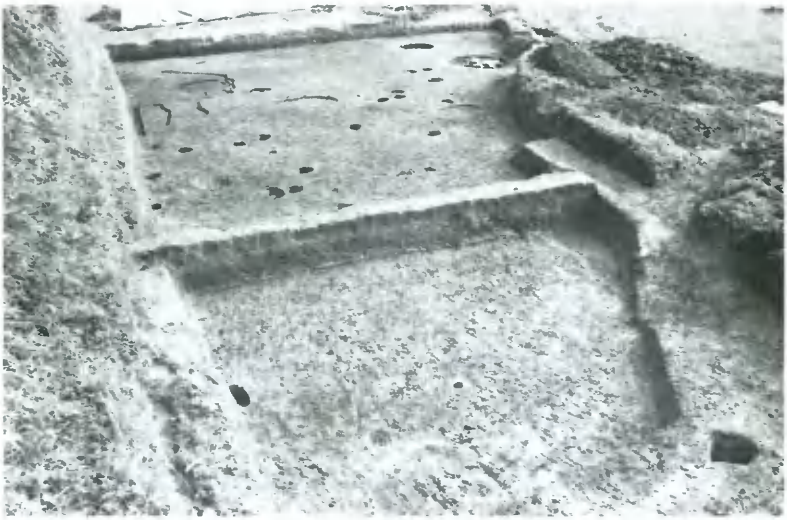
1、美土路遺跡 T－12（南から）

2、美土路遺跡 T－13（西から）

3、美土路遺跡 T－14（南から）

図版 9

1. 美土路遺跡　T－16　拡張区（南西から）

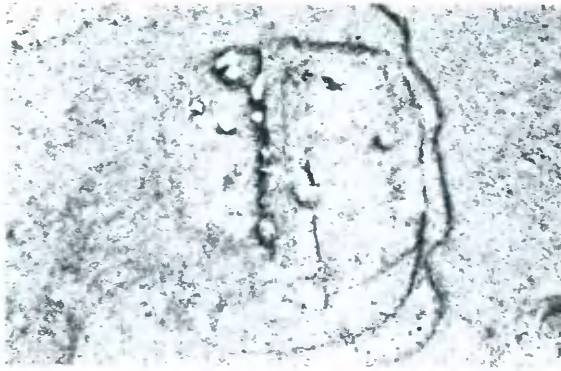


2. 美土路遺跡　T　16　拡張区（北東から）

図版10

1、美土路遺跡　T－16　拡張区土壙－1（南東から）

2、美土路遺跡　T－16　拡張区土壙－2（北西から）



3、美土路遺跡　T－16　拡張区土壙－2（北から）

図版11

1. 野形Ａ遺跡遠景（北から）

2. 野形Ａ遺跡近景（南東から）

図版12

1、野形A遺跡　T－1（南から）

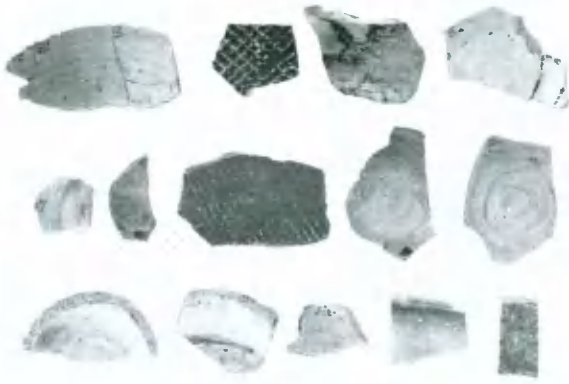
2、野形A遺跡　T－2（南西から）

3、野形A遺跡　T－2　土層断面（南東から）

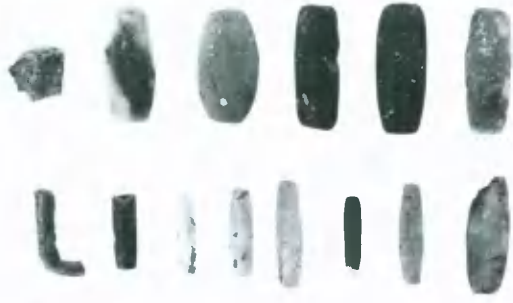
図版13

美土路遺跡出土　土師器、瓦質土器、須恵器（勝間田焼）

図版14



1. 美土路遺跡出土　須恵器（勝間田焼ほか）

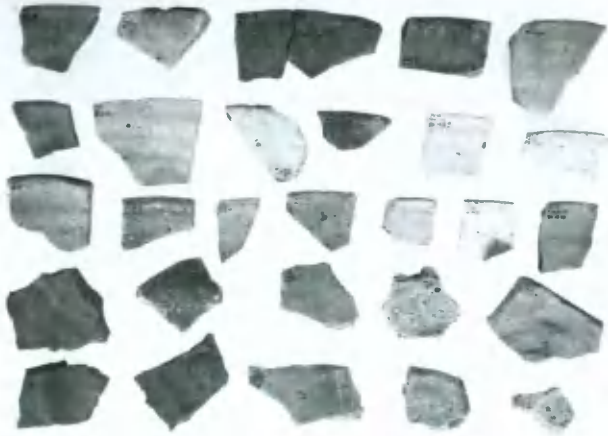


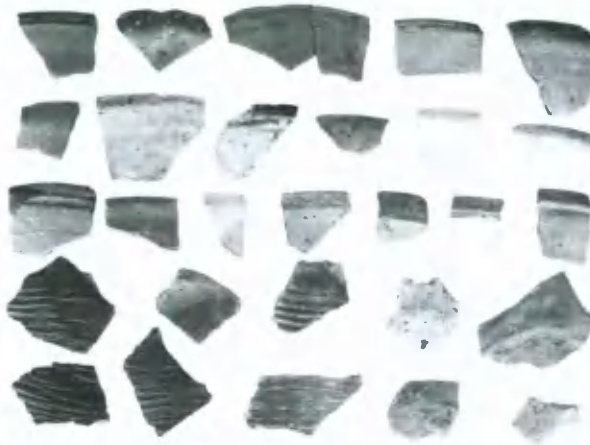
2. 美土路遺跡出土　土錘、鉄釘、炉壁片

図版15

美土路遺跡出土　青磁、白磁、青白磁

図版16





美土路遺跡出土東播系須恵器

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 64

桑瀬遺跡ほか
土佐貝塚ほか
美土路遺跡ほか

昭和62年3月15日　印刷
昭和62年3月30日　発行

編集　岡山県古代吉備文化財センター
発行　岡山県教育委員会
印刷　柳本印刷株式会社